SOUND DEVICES

888

Portable Production Mixer-Recorder

User Guide v10.01

日本テックトラスト株式会社

目次

2024/5/23

目次	2
Welcome to 888	3
Panel Views	4
Screen Views	8
Virtual Keyboard	13
Phrase Manager	13
Menus	14
Power	15
Channel Setup	16
Channels 9-16	17
Buses	18
Outputs	19
Limiters	22
Automixer	23
Meters	25
Timecode	26
Record/Play	28
Q-marks	31
Files	32
Frame.io	37
Slate/Coms/ Returns	39
SuperSlot	40
SL-2	40
SL-2 OPTIONS	43
System	51
Plugins	53
Noise Suppression Plugins	54
Controllers	56
Toggle Switch Action	64
Menu + PFL Switch Action	65
Front Panel Shortcuts	65
USB Kyeboard	67
SD-Remote	68
Quick Setup	78
USB-A	78
USB-C	78
Dante	78
Specifications	79

Welcome to 888

888 は、バッグに入れて使用できるコンパクトで軽量なポータブル ミキサー/レコーダーでありながら、モバイル カート プロダクションに必要なチャンネル数とパワーを備えています。 888 は、イーサネット経由でオーディオを送受信するための Dante を提供する、市場で最小のポータブル ミキサー/レコーダーです。 8 つの超低ノイズ、8 シリーズ マイク プリアンプ、16 チャンネル、20 トラック、複数の電源供給方法、複数の USB コントロール サーフェスのサポートにより、888 はワークフローに合わせて簡単に調整できます。 更新された処理アーキテクチャと複数の FPGA により、888 は完全にルーティング可能になり、物理的な入力を任意のトラック、バス、または出力に送信できます。

- 8 ultra low-noise, 8-Series microphone preamplifiers
- 16 channels, 12 buses, 36 tracks
- 16 channels of Dante I/O
- 256 GB internal SSD, 2 SD card slots
- USB-A and C ports for SD-Remote app, linear fader control via MCU, keyboard, and file transfer
- Dugan Automixing/MixAssist for up to 16 channels
- 24-bit at up to 192 KHz recording
- 32-bit floating point ISO recording
- Optional NoiseAssist and CEDAR sdnx noise suppression plugins
- Optional integrated digital wireless with the A20-Nexus, SL-2 (plus SuperSlot receivers)

米国と英国を拠点とするフレンドリーで知識豊富なサポート チームが、ご質問やご意見をお待ちしております。 私たちの仕事は、あなたの仕事をより簡単にすることです。

私たちはあなたのキットの一部であることを光栄に思います.

Sincerely,
Sound Devices

【重要】888 を使い始める前に：

工場出荷時設定に戻すと、システム時計のタイムゾーンが GMT に変更されます。 この状態で録音された WAV ファイルを PC にコピーすると、PC 上のファイル日時が 9 時間シフトします。

Menu > System > Time/Date > Time Zone 設定が **GMT+9:00** に設定されていることを確認してください。

Panel Views

FRONT PANEL

1: CHANNEL TRIM チャンネルの On/Off と、チャンネルの入力感度の設定。使用しないチャンネルのトリムを反時計回りに回し切ってオフにすると、消費電力を抑えることができます。

2: CHANNEL LED RING チャンネルのシグナルレベル、ソロ、ミュート状況を視覚的に表示します。また、チャンネルの On/Off も示します。

3: CHANNEL FADER L / R ミックスと、ルーティングで「ポスト」として選択された送り先のチャネルのオーディオレベルを制御します。 チャンネル 9-16 フェーダーには、チャンネル 9-16 メニューから、または* / ** + PFL スイッチショートカットを使用してアクセスできます。 Toggle Switch Action を使用して、SELECT ノブや HP ノブを Ch9,10 のフェーダーとして設定できます。

4: PFL SWITCH Pre / Post Fade Listen は、チャンネル画面に同時に入ると同時に、Pre / Post FadeListen 用のヘッドフォンのチャンネルを選択します。 さまざまなショートカットや、チャネルの命名用の仮想キーボードにアクセスするためにも使用されます。 チャンネル 9-16 PFL にアクセスするには、メニューから、または* / ** + PFL スイッチショートカットを利用できます。Toggle Switch Action を使用して、SELECT ノブと HP ノブを Ch9,10 の PFL として設定します。

5: METER BUTTON さまざまなメーターリングプリセットの選択するために押します。Select エンコーダと一緒に使用され、ホーム画面に戻るために押します。Ch1-8 の Select スイッチと一緒に押すと Meter Preset 1-8 へのショートカットです。METER + HP ノブ押しで SuperSlot 画面にアクセスできます。

6: TRANSPORT CONTROLS フロントパネルにある joystick（と LED リング）はさまざまなトランスポートコントロール機能に使用されます。post roll を表示するためにメディアに書込み中にリング LED がオレンジ色で点滅します。

Function	Action
Record	新しいファイルの録音を始めるには、トランスポートコントロールを押します。録音中は LED リングが赤く点灯します。
Stop	録音か再生を停止するために、トランスポートコントロールを押します。スタンバイ中に押すと次のテイクネームを表示します。
Play	現在ロードされているファイルの再生開始のために、トランスポートコントロールを押します。再生中に押されると再生ポーズになります。ポーズ状態で、LED リングとディスプレイのファイル名が点滅します。もう一度押すと再生を継続します。
Rewind / Load Previous Take	スタンバイ中に左に押すと前のテイクをロードします。再生中に左に押すと早戻しします。 再生かポーズ中、左に joystick 操作すると 2 倍速で早戻しし、5 秒後には 16 倍速になります。
Fast Forward / Load Next Take	スタンバイ中に右に押すと次のテイクをロードします。再生中に右に押すと早送りします。 再生かポーズ中、右に joystick 操作すると 2 倍速で早送りしし、5 秒後には 16 倍速になります。
Scrub	再生かポーズ中、HP エンコーダを押すとスクラブ・モードになります。時計回りに回すと早送り、反時計回りに回すと早戻しで、0x, 1/8x, 1/4x, 1/2x, 1x, 2x, 4x, 8x, 16x 倍速です。 オーディオは 2x 倍速まで聞こえます。

7: LCD Display
オーディオ メータリング、ファイル名、タイムコード、設定、メニューなどが表示されます。直射日光の下で操作する場合は、System > Display メニュー Daylight Mode を有効にします。

8: POWER SWITCH/LED INDICATOR 電源の On/Off スイッチです。LED リングは次を意味します：
1. 電源コンディション：緑 = 良好、橙 = 警告、赤 = シャットダウン直前
2. 青点滅 = 電源オフ状態で、タイムコード歩進を保持しています。
3. 青点灯 = 起動中。
4. 黄点滅 = 電源オフ状態で L-mount バッテリー充電中。
5. 黄点灯 = 電源オフ状態で L-mount バッテリーが満充電。

9: MENU BUTTON メイン画面に入るために押します。Menu を終了するためにも使用されます。Ch1-8 の Select スイッチと一緒に押すと Favorites 1-8 へのショートカットです。

10: HEADPHONE KNOB
1. ヘッドフォン音量を調整するために回します。音量調整をロックできます（System > Headphone Volume Lock）
2. HP プリセットメニューに入るために押します。
3. メニューリストを移動し、オプションを選択します。
4. Menu と HP エンコーダを押すと Take List を表示します。
5. 再生中に 0.5 秒押すと、オーディオ・スクラブモードに入ります。
Ch1-8 の Select スイッチと一緒に押すと HP Preset 1-8 へのショートカットです。

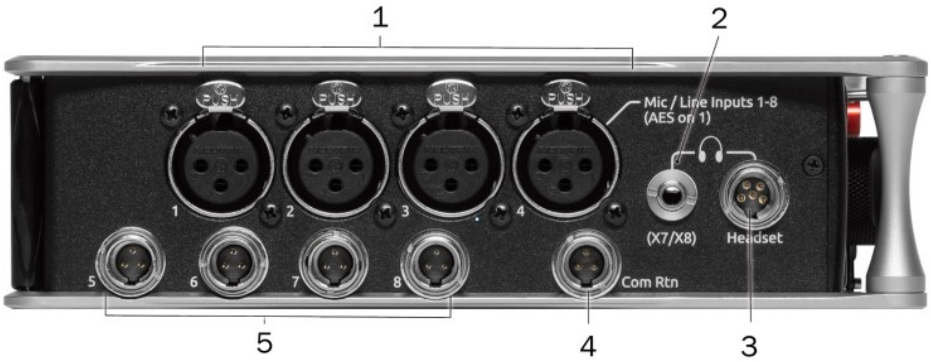
11: RTN/FAV SWITCH　Rtn アクションと Fav アクションに利用します。 メニューでのソフトボタン。 Toggle SwitchAction メニューを介して機能を割り当て可能です。

12: */ SWITCH**　PFL スイッチとともに、channel 13-24 と 25-32 へのアクセスに使用します。画面上のソフトボタンとしても機能します。

13: MIC/TONE SWITCH　スレートマイクとトーンジェネレータ用スイッチです。画面上のソフトボタン表示中のスイッチ機能も兼ねます。

14: SELECT KNOB
1. Output リストを見るために押し、Output 画面を選択するために回して押します。
2. ディスプレイ上のトラックを選択するために回して、Meter と Select を同時に押すとトラックの arm/disarm（録音／非録音）。
3. Meter ボタンを押しながら Select エンコーダを押し回しすると、連続的に複数のトラックをアームすることができます。
4. 複数のメータービューをスクロールするために Meter ボタンを使用して、選択するために押します。
5. Bus 1-10, LR ルーティングへのショートカット用に、Channel Select スイッチと押します。
6. Menu リスト内を移動、押してオプションを選択します。
7. Q マーク: 録音・再生中に SELECT を押しながら >> で追加、 << で削除します。

LEFT SIDE PANEL



1: INPUT 1-4 FEMALE　XLR JACKS　アクティブ・バランスのアナログマイクかラインレベル入力。 Inputs 1 と 6 は AES3 か AES42 にも対応。[Pin-1 = ground, Pin-2 = hot (+) , Pin-3 = cold (-)]
AES3 か AES42 入力には 110 ohm ケーブルを御使用下さい。

2: HEADPHONE/(X7/X8)　3.5MM JACK　アンバランス出力と TRS ヘッドフォン出力。 警告！ この出力は大出力でヘッドフォンを鳴らす能力があります。 ソースは Outputs メニューで設定可。 [Sleeve = ground, tip = left(x7), ring = right (x8)]

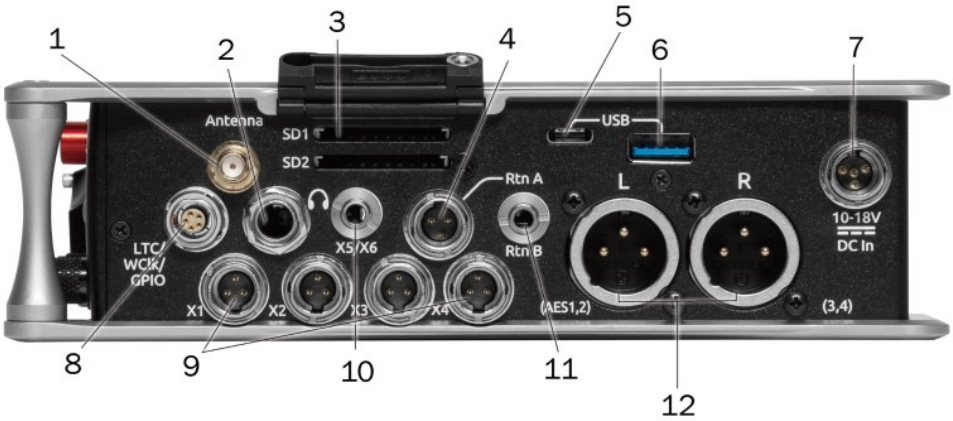
3: HEADPHONE/HEADSET TA5 JACK　ヘッドフォンとスレートマイクロフォンの接続。[Pin-1 = HP right, Pin-2 = HP left, Pin-3 = ground, Pin-4 = Mic-, Pin-5 = Mic+]

TA5 にヘッドフォン信号を送り、ヘッドフォンレベルを HP ノブで調整するために、HP-L と HP-R を X7/X8 にアサインしてください。

4: COM RTN TA3 JACK　Com Return オーディオ入力用バランス接続。[Pin-1 = ground, Pin-2 = hot (+) , Pin-3 = cold (-)]

5: MIC/LINE INPUTS 5-8　TA3 ジャック。アクティブ・バランスのアナログマイクかラインレベル入力。[Pin-1 = ground, Pin-2 = hot (+) , Pin-3 = cold (-)]

RIGHT SIDE PANEL



1: Antenna RP-SMA-Male Connector　Bluetooth LE を誘導する外部アンテナ

2: 1/4" HEADPHONE JACKS　1/4 インチ TRS ヘッドフォン出力。 警告！ この出力は大出力でヘッドフォンを鳴らす能力があります。[Sleeve = ground, tip = left, ring = right]

3: SD 1 AND 2 CARD SLOTS　録音用の SD カード挿入口 ラベル側を下向きに挿入。

4: RTN A TA3 JACK　アンバランスのステレオTA3コネクターは、カメラリターンオーディオ入力用です。[pin-1= Ground, pin-2= Left, pin-3 = Right]

5: USB C PORT
1. File 転送
2. 2-in/2-tou USB オーディオストリーミング

6: USB A PORT
1. USB キーボード
2. USB to SD-Remote
3. USB to CL-16, CL-12,認定サードパーティ製コントローラ
4. USB hub に対応します。
5. A20-Mini Timecode ジャム

7: 10-18V DC1 TA4 JACK　10-18V DC 電源入力。 [Pin1:GND, Pin2: Smart Battery DATA, Pin3:Smart Battery CLOCK, Pin4:+10-18VDC]

8: LTC/WORDCLOCK/5-PIN LEMO JACK　Timecode I/O, Wordclock。[Pin1: GND, Pin2: LTC or WORDCLOCK IN, Pin5:LTC or WORDCLOCK OUT（Pin 2 と 5 はソフトウェア的に選択]

9: X1-X4　TA3 JACKS　Output メニューで Line, -10, Mic レベルに設定可。Output メニューでルーティング設定可。[Pin1 = ground, Pin2 = hot(+), Pin3 = cold(-) アンバランス接続時は pin3 をフロート。]

10: X5/X6　3.5MM JACK　アンバランス・ステレオ 3.5mm メスコネクター。 Output メニューでルーティング設定可。 [Sleeve = ground, tip = X7, ring = X8]

11: RTN B　3.5MM JACK　Return B オーディオ入力用のアンバランス・ステレオ 3.5mm メスコネクター。[Sleeve = ground, tip = left, ring = right]

12: MAIN OUTPUTS L(AES 1,2), R(AES 3,4)　XLR JACKS　標準 XLR3M コネクターのアナログ出力。 Main メニュー > OUTPUTS で アナログ出力レベルを Line, -10, Mic レベルに設定可。Main メニュー > OUTPUTS で AES3 デジタル信号出力に設定可。（1,2 が L、3,4 が R から出力） Outputs メニューでルーティング設定可。 [Pin1 = ground, pon2 = hot(+), pin3 = cold(-) アンバランス接続時は pin3 をフロート]

REAR SIDE PANEL

1: BATTERY 1, BATTERY 2 DOCKING　Sony L-Mount タイプバッテリー用。 DC1 か DC2 に DC 電源が供給され、Power メニューで有効に設定すると L-Mount バッテリーに充電できます。

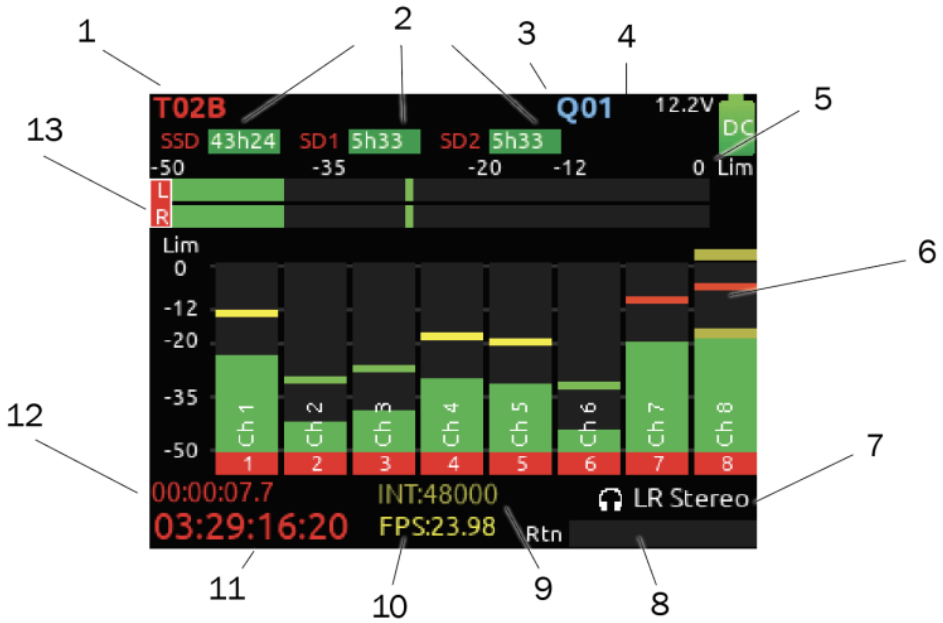
2: DANTE　RJ45 JACKS　Dante オーディオネットワークまたは Frame.io サーバーへの接続として機能する 1GbE ポート。 Dante インターフェースは、16 の入力と 16 の出力を同時に提供します。 ルーティングは、チャンネルソースメニューと出力メニューで定義されます。 Dante をルーティングして使用するには、Mac / PC（Audinate から）の DanteController アプリが必要です。
Frame.io への接続とセットアップを許可します。

TOP PANEL

1: EXPANSION POART　A20-Nexus マルチチャンネル レシーバー、SL-2 デュアル スーパースロット ワイヤレス モジュール、または XL-AES 8 チャンネル AES3 拡張入力の接続に使用します。

Screen Views

HOME SCREEN



1: CURRENT TAKE NAME　現在選択されているテイクのファイル名が表示されます。 停止中に STOP を操作すると次のテイク名を表示します。 これは、Record/Play メニューでラッチ／モーメンタリーを切り替えられます。

2: SSD, SD1, SD2　それぞれのメディアの空き容量／使用容量を表示。 内蔵 SSD の総容量は 256GB。

3: Q-MARK　Q マーク番号を表示。

4: SMART BATTERY TELEMETRY
Smart Battery の残量を時間で表示。 それ以外の電源ソースでは電圧を表示。

5: POWER ICON　現在使用中の電源ソースとおよその電圧コンディションを示します。Smart バッテリー装着時は残量を%と時間で表示。

6: INDIVICUAL CHANNEL METERS WITH ARM/DISARM INDICATION
各チャンネルのピークと VU オーディオ・レベル表示。 Channel to ISO ルーティングにより Pre- か Post- フェーダーに設定可。

7: SELECTED HEADPHONE PRESET　現在選択されているヘッドフォン・プリセットの表示

8: METERING FOR RETURNS A,AND B　リターンのオーディオ レベル表示。

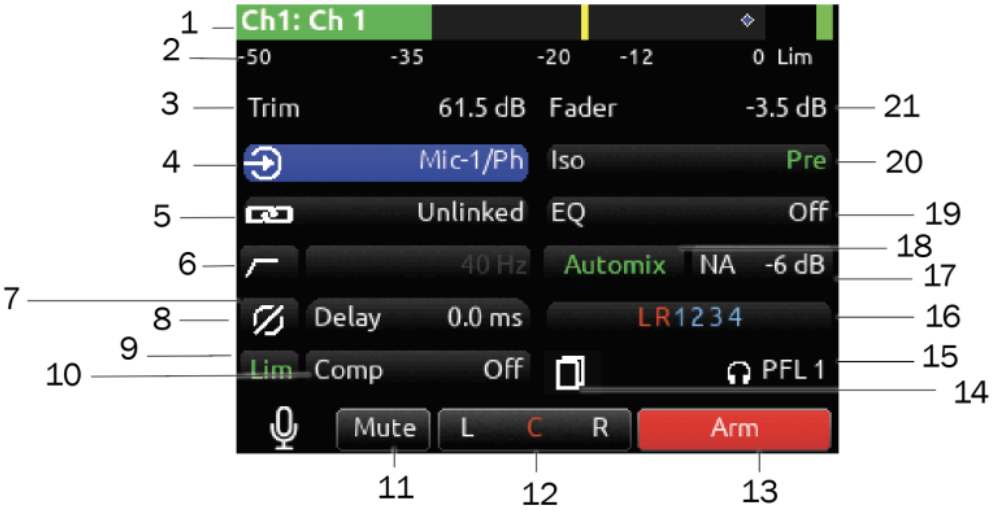
9&10: SAMPLE RATE / FRAME RATE/ TEMPORARY LEVEL DISPLAY
1. サンプルレートの表示
2. 現在のフレームレートを示します。 32 ビット浮動小数点数が有効な場合は、32-bit float と交互に表示されます。
3. 最後に調整した FADER レベルを一時的に表示（赤文字）
4. 最後に調整した TRIM レベルを一時的に表示（緑文字）
5. 最後に調整した BUS フェーダーレベルを一時的に表示（薄青文字）
6. 最後に調整した OUT ゲインレベルを一時的に表示（白文字）
7. 最後に調整した EQ の周波数かレベルを一時的に表示（EQ On 時は青文字、EQ Off 時は橙文字）

11: TIMECODE　現在の SMPTE タイムコード値の表示。

12: FILE ELAPSED/ REMAINING TIME　現在のファイルの経過時間を、時：分：秒：コンマ 1 秒 で表示。 再生中は、時：分：秒：で経過・残量時間を表示。

13: LR MIX BUS METERS WITH ARM/DISARM INDICATION
L/R ミックスのピークと VU オーディオ レベル表示。 トラックが録音用にアームされると、L と R が赤く表示。

CHANNEL SCREEN



1: CHANNEL DESIGNATION AND USER-DEFINED NAME
ミキサーチャンネルの指定とユーザー定義のネームを表示します。両方ともチャンネル・ミキサーのチャンネル指定とユーザー定義のチャンネル名を示します。 両方ともチャンネルオーディオメーターにオーバーレイされます。 チャンネル画面では、PFL スイッチを約 1 秒間押し続けて仮想キーボードに入り、ユーザー定義のチャンネル名を入力します。 この仮想キーボードから、Rtn トグルの [名前] を選択して、チャンネル名マネージャーにアクセスし、チャンネル名の作成、編集、削除、挿入、置換を行うことができます。

2: CHANNEL METER VIEW
チャンネルのオーディオ・レベルを表示します。メーターリングは ISO Routing 設定の Pre-、Post に依存します。

3: CHANNEL TRIM VALUE
チャンネルトリムコントロールのゲインを表示します。ゲイン調整範囲は選択されたインプットタイプに依存します。

- MIC:-inf, +12 to +76 dB
- Line: -inf, -14 to +50 dB
- Dante: -inf, -20 to +50 dB
- SL-2(Rx): -inf, -20 to +50 dB
- SL-2(AES): -inf, -20 to +50 dB
- A20-Nexus: -inf, -20 to +50 dB
- A20-Nexus (A20-Mini GainForward): -inf, 0 to +60 dB
- SL-2(A20-Mini GainForward): -inf, 0 to +60 dB
- AES3: -inf, -10 to +20 dB
- AES42: -inf, -20 to +70 dB
- Returnes: -20 to +30 dB

4: Channel Input Source Selection
どの物理オーディオ入力ソースがチャンネルにフィードしているかを示します。 ソースは停止中または録音中に変更できます。

5: CHANNEL LINKING
現在の Link ステータスを表示します。 リンク設定は、リンク無し、隣チャンネルとリンク（例：1,2)、隣チャンネルとの MS（例：1-2MS）があります。リンクされるパラメータは、trims, faders, HPF, EQ, delay, limiter, mute, ISO, Bus Send1 と Bus Send2 です。ステレオパンニングは、L への 1 と R への 2 です。'M'チャンネルの MS バランス項目で*/**スイッチを操作しながら SELECT エンコーダを回して MS バランス(width)を調整できます。

6: HPF (HIGH PASS FILTER)
緑色アイコンの場所で On/Off ステータスを表示し、数値が白色だと On、灰色は Off を示します。 HPF 周波数は 10Hz ステップで 10Hz to 320 Hz を調整できます。

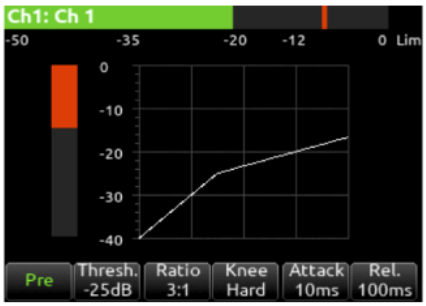
7: POLARITY REVERSE
位相のステータスを表示します。 緑色アイコンは反転、白色アイコンは極性ノーマルを示します。

8: CHANNEL INPUT DELAY
入力遅延時間を表示します。 入力遅延はミリ秒単位で 0 ～ 50 ミリ秒の範囲で連続的に変化します。

9: CHANNEL LIMITER
チャンネルリミッターのステータス On/Off を表示します。

10: CHANNEL COMPRESSOR
圧縮、プリフェードまたはポストフェードはチャンネル 1 ～ 32 で利用できます。 選択してチャンネルコンプレッサー画面に入ります。 注: 圧縮はバスにも適用できます。

Mic Toggle
マイクの切り替えにより、圧縮状態と挿入位置を選択します。 圧縮がオーディオ チェーンのどこに挿入されるかを示します。 プリフェードまたはポストフェード [オフ*、プリ、ポスト]。 圧縮は、プリフェードが適用されている場合にのみバス送信に適用されます。



Tone Toggle
スレッショルド [0 to -40 dB]

*** Toggle**
レシオ [1.0:1 to 20:1 in 0.1 steps]

**** Toggle**
ニー（knee）[Hard, Soft]

Rtn Toggle
アタックタイム [1 to 200 ms in 1 ms steps]

FAV Toggle
リリースタイム [50 to 200 ms in 1 ms steps, 200 to 1000 ms in 10 ms steps]

11: MUTE
チャンネルのミュートステータスを表示します。 青色アイコン = ミュート。 Tone スイッチで mute on/off をトグル切替できます。

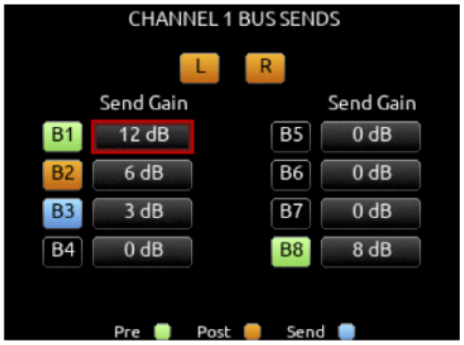
12: L C R SELECT
L/R ミックスへ送られるチャンネル信号のステレオ PAN の位置を表示します。 オレンジ色 = 選択されています。 */**スイッチを使って選択できます。 */**スイッチをホールドしながら SELECT エンコーダを回すと PAN ポジションを連続的に調整できます。あるいは SELECT エンコーダを押しながら*/**スイッチを操作して PAN を調整できます。MS リンクされているとき、*/**スイッチを操作しながら SELECT エンコーダを回して Mid, Center, Side のバランスを変更できます。

13: ARM
トグル操作（Rtn/Fav スイッチ）で切り替わります。

14: CHNNEL COPY
チャンネル コピーは、複数の設定を 1 つのチャンネルから他のチャンネルにすばやくコピーするメカニズムを提供します。 「チャンネルコピー」アイコンを選択して、「チャンネルコピー」画面にアクセスします。 コピーした設定を適用するチャンネルを選択します。 複数の宛先チャンネルを選択できます。 次に、コピーする設定を選択します。 EQ、HPF、コンプレッサー、リミッター、Iso、フェーズ、パン、ミュート、ソース、ネーム、ルーティング、ディレイ、アームから任意の組み合わせを選択します。 コピーするには、Fav スイッチを切り替えます。

15: HP Preset
HP ノブを押すと、HP プリセットと PFL が切り替わります。 HP プリセットを LR ステレオに設定することで、チャンネル画面を見ながらチャンネルパンニングを聞くことができます。

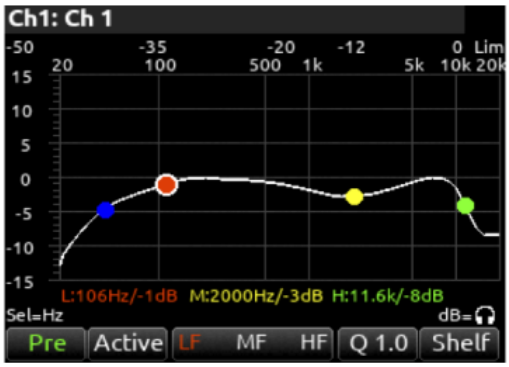
16: CHANNEL TO BUS ROUTING
チャンネルオーディオをどのバスへ送るかを設定します。 1 つのバスへ Send として送られているとき（bus ボックスはブルーにハイライト）、Send Gain 値が適用されます。Pre（グリーン）か Post（オレンジ）で送られるとき、Send Gain 値は適用されません。



17: NOISE SUPPRESSION (NA OR NX)
チャネルが SoundDevices NoiseAssist（NA）または CEDAR sdnx（NX）のどちらに選択されているか、および適用される量を示します。 ノイズ抑制が無効になっている場合、フィールドはグレー表示され、有効になっているがチャンネルが選択されていない場合は、白い「-」（破線）。 チャネルが選択されている場合の白い「dB」値。 NoiseAssist と CEDARsdnx は、オプションの有料プラグインです。

18: AUTOMIX
チャンネルがオートミキシングに選択されていると表示されます。紫色文字=On、白色文字=Off.

19: CHANNEL EQ
3 バンドパラメトリック EQ、プリフェードまたはポストフェードはチャンネル 1～16 で利用可能です。 選択すると、EQ 設定が EQ カーブとして表示される Channel EQ 画面に入ります。 ここではチャンネルの HPF 設定も青い円で表示されます。



Mic Toggle
EQ の状態と挿入位置を選択します。 EQ がオーディオ チェーンのどこに挿入されるかを示します。 プリフェードまたはポストフェード [オフ*、プリ、ポスト]。 EQ は、プリフェードが適用されている場合にのみバスセンドに適用されます。

Tone Toggle
EQ band mode [Bypass*, Active]

***/** Toggle**
選択エンコーダーを使用して周波数を調整し、HP エンコーダーを使用してフィルターのゲインを調整します。すべてのフィルターは 20 Hz から 20 kHz までスイープ可能です。

Rtn Toggle
選択したバンドの Q (帯域幅) [0.5 ～ 10] を選択します (Sel または HP ノブを使用して調整します)。

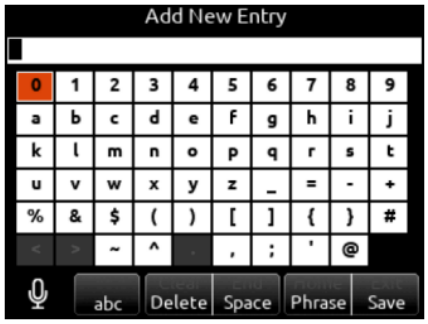
FAV Toggle
LF 帯域と HF 帯域のフィルター タイプを切り替えます [[Peak, Shelf]。

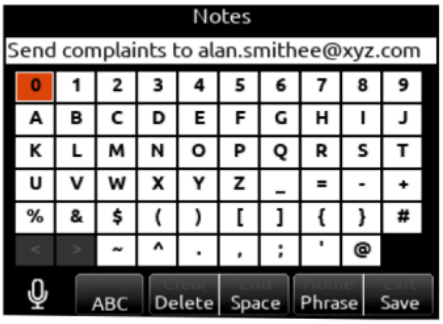
20: ISO (CHANNEL >ISO) ROUTING
オーディオチェーンの中で、Pre/Post のどちらから ISO トラックへ信号がピックアップされているかを表示します。

21: CHANNEL FADER VALUE
チャンネルフェーダーコントロールのレベルを表示します。範囲は Off to +16 dB まで連続的に可変です。

Virtual Keyboard

仮想キーボードは、英数字テキストを入力するか、編集のために選択するときに表示されます。 たとえば、チャンネル名、シーン名、ノートなどです。以下の表は、LCD の下にあるさまざまなトグル アクションが仮想キーボードでどのように使用されるかを定義しています。



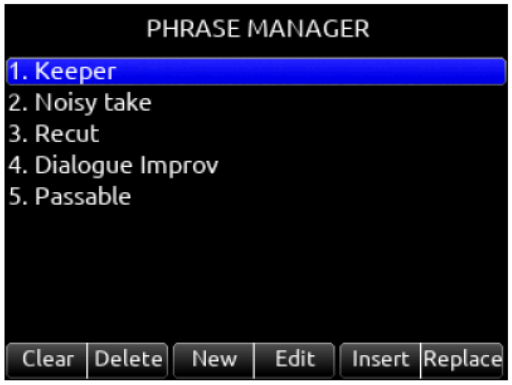


Function	Action
Rotate HP	キーボード上のハイライトされた文字をスクロール。
Press HP	テキストフィールドにハイライトされた文字を入力。
‘abc’ switch	キーボードの A-Z と a-z の切替にフリック操作。
Hold ‘abc’ switch	大(小)文字へ一時的に切替。
Delete	点滅カーソルの左側文字を削除。
Hold Delete	点滅カーソルの左側文字を連続的に削除。
Space	点滅カーソルに空白文字を挿入。
Hold Space	連続的に空白文字を挿入。
Save switch	テキストを保存して画面を終了。
Rotate Select	テキストフィールド内を左右にカーソル移動。
Quick Press Select	ファンクションの切替 : Clear, End, Home, Exit。 有効なファンクションは白色の文字で、非アクティブなファンクションはグレイ色で表示。
Clear	編集中のフィールドから文字を消去。
End/Home	文字列の end/start へ移動。
Exit	編集中のテキストを保存せずに画面を終了。

Phrase Manager

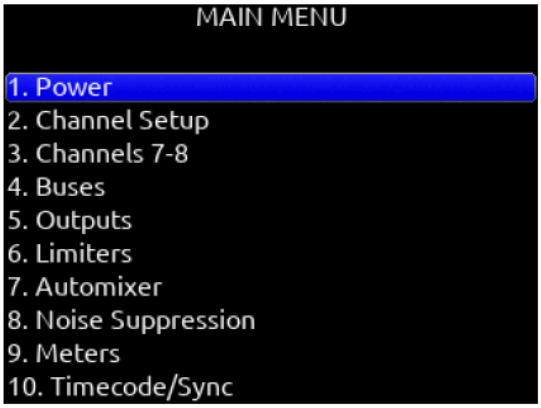
フレーズマネージャーに入力したフレーズは、シーン名、チャンネル名、ノートなどの仮想キーボードのテキスト編集画面で使用できます。

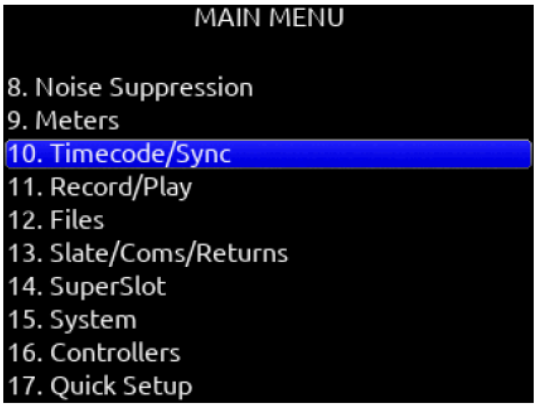
CLEAR すべてのフレーズを消去します。
DELETE 選択されたフレーズを削除します。
NEW 新しいフレーズを作成します。
EDIT 選択されたフレーズを編集します。
INSERT 選択されたフレーズをテキストに挿入。
REPLACE 現在選択されているフレーズに置き換え。



Menus

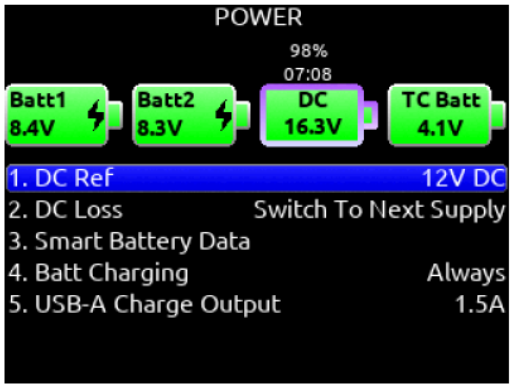
MAIN MENU





Power

Allows configuration of various power settings.



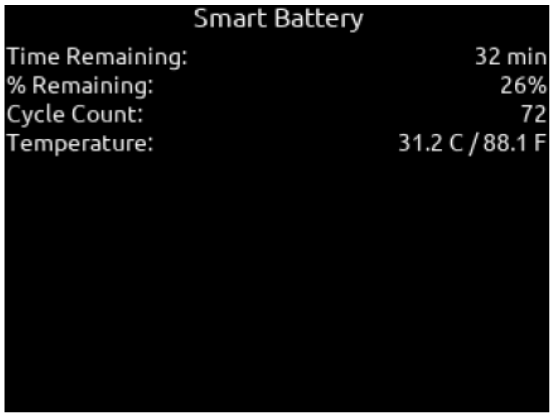
POWER SOURCE ICONS　それぞれの電源ソース(Batt1, Batt2, DC, TC Batt) のコンディションを表示します。緑色 = Normal、黄色 = ノミナル以下、オレンジ色 = 低い、赤色 = 警告

DC REF　正しい電源レベル表示をさせるために、接続される DC 電源ソースのタイプに応じたキャリブレーション設定。[12V DC, 14V Li-Ion,　12V Lead Acid, NiMH, Expanded NiMH, Full Range(10-18V), Smart Battery, NP-1 Data Battery]

Power Source	Good	Marginal	Low	Shutdown
DC 12 V	12.50 V	11.00 V	10.10 V	9.50 V
Li-Ion 14 V	16.30 V	13.90 V	13.60 V	11.50 V
Lead Acid 12 V	14.00 V	11.50 V	10.30 V	10.20 V
Full Range	18.00 V	12.00 V	10.20 V	9.50 V
Smart Battery	16.00 V	13.50 V	12.60 V	10.75 V
NP1 Data Battery	16.30 V	13.90 V	13.60 V	11.50 V
Li-Ion L-Mounts	8.30 V	7.10 V	6.95 V	6.80 V

DC LOSS　DC 電源が失われたときのユニットの挙動を設定。 [Switch to Next Supply, Turn Off]

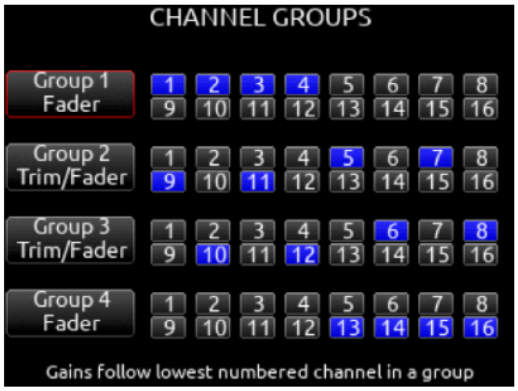
SMART BATTERY DATA　パーセントで残時間の表示



BATT CHARGING　外部 DC ソースが接続されているときに L-Mount バッテリーの充電設定。[Disabled, When Power On, When Power Off, Always]

USB-A CHARGE PORT　外 Android タブレットのような外部 USB 機器を充電できます。 [1.5A, 500mA]

Channel Setup



1. PHANTOM VOLTAGE 全入力のファンタムパワー電圧の設定。 [12V, 48V]

2. PFL MODE PFL ソースの設定（pre/post-fade）。 Auto に設定すると、ISO トラックへ送られる信号のピックアップポイント設定に依存して自動的にソロモニターが設定されます。[Auto, Pre-fade, post-fade]

3. CHANNEL GROUPING チャンネル グループは、オフ、ミュート/アーム、トリム/フェーダー、フェーダーに設定でき、グループ内の最小のチャンネル番号がマスター コントロールとして機能します。

- オフ: グループは無効です。 オフのグループはチャンネル ルーティングを保持しますが、設定とレベルはチャンネルごとに独立しています。 これにより、グループのルーティングを失うことなく、グループをすばやく有効または無効にすることができます。
- Mute/Arm: チャンネルのミュートとアームのみがグループ化されます。
- トリム/フェーダー: トリム、フェーダー、レコード アーミング、リミッター、およびミュートがグループ化されます。 トリムは、グループのすべてのチャンネルが同じゲイン範囲を共有している場合にのみグループ化できます。 ゲイン範囲は、チャンネルにルーティングされる入力タイプによって異なります。 詳細については、Channel Screen>Channel Trim Value を参照してください。
- フェーダー: フェーダー グループはトリム/フェーダー グループと同じように機能しますが、トリムはチャンネルごとに独立しています。

4 つのチャネルグループが可能です。グループに組まれたチャンネルを他のグループに重複させることはできません。
A. Group1 [1-16]
B. Group2 [1-16]
C. Group3 [1-16]
D. Group4 [1-16]

4. **PFL GAIN** プリセットのゲイン量は、アクティブな PFL に適用されます。

5. MS Spread Control チャネルのペアが MS リンクされている場合の MS スプレッドの制御方法に関する設定です。 [PFL Screen, Even Trim Pot] PFL Screen = 奇数チャンネルの PFL 画面で、*/** トグルを押したまま Select ノブを回すと調整できます。 Even Trim Pot = フロント パネルの偶数 Trim ポットを回すと調整できます。

6. Use Wireless Names (only when A20-Nexus is docked) A20-QuickDock アクセサリを使用して A20-Nexus が接続されている場合、Use Wireless Names オプションを使用すると、A20-Nexus 送信機/受信機のチャネル名を、ルーティング先の 8 シリーズ チャネルに直接リップルすることができます。 この機能は、SL-2 および SL-6 でも使用できます。 詳細については、SL-2 および SL-6 オプションを参照してください。

Channels 9-16

チャンネル 9-16 へのアクセスは、メニューからだけでなく、*/** トグルスイッチと PFL スイッチのショートカットでも可能です。
* + PFL 1-8 = Ch 9-16

チャンネル 9、10 の Trim, Fader, PFL は、*/**トグルスイッチと、SELECT ノブ および HP ノブの組み合わせで制御できます。[System]> [Toggle Switch Action] メニューでセットアップできます。

各トグルスイッチで使用できるオプションについては、「Toggle SwitchAction」セクションを参照してください。

CH 9 OR 10 TRIM/PFL (LATCH) トグルを倒すと、SELECT を回して ch9（または 10）の Trim を調整。 調整値はホーム画面のサンプルレートフィールドに表示されます。 PFL モニターは、Select ノブを押します。 トグルを倒すとラッチ解除されます。

CH 9 OR 10 FADER/PFL (LATCH) トグルを倒すと、SELECT を回して ch9（または 10）の Trim を調整。 調整値はホーム画面のサンプルレートフィールドに表示されます。 PFL モニターは、Select ノブを押します。 トグルを倒すとラッチ解除されます。

CH 9 TRIM/PFL (MOMENT) トグルを押したまま選択を回転させて、ch9 トリムを調整します。 調整値は、ホーム画面のサンプルレートフィールドに表示されます。 PFL モニターは、Select ノブを押します。

CH 10 TRIM/PFL (MOMENT) トグルを押したまま HP を回転させて、ch10 トリムを調整します。 ゲイン値は、ホーム画面のサンプルレートフィールドに表示されます。 HP を押して PFL に

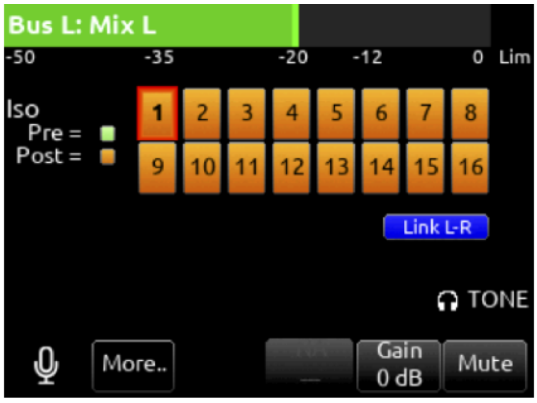
CH 9 FADER/PFL (MOMENT) トグルを押しながら選択を回して、ch9 フェーダーを調整します。 ゲイン値は、ホーム画面のサンプルレートフィールドに表示されます。 PFL モニターは、Select ノブを押します。

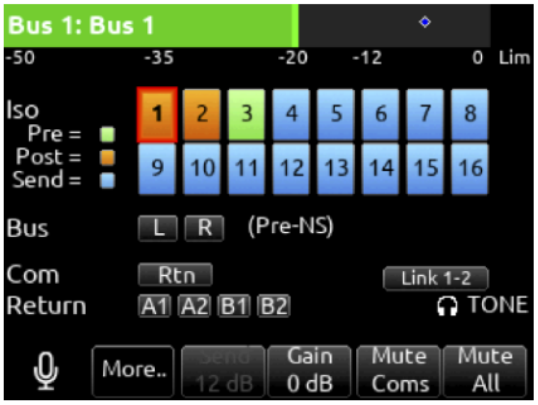
CH 10 FADER/PFL (MOMENT) トグルを押したまま HP を回して、ch10 フェーダーを調整します。 ゲイン値は、ホーム画面のサンプルレートフィールドに表示されます。 PFL モニターは、Select ノブを押します。

Buses

バス L、R および 1～8 のルーティングを選択します。
Menu> Buses を選択するか、SELECT ノブを押したまま PFL スイッチを切り替えることで、バスにアクセスできます。

バス画面に入ると、デフォルトでそのバスを HP の LR の両方でソロモニターされます。 バスがリンクされている場合、奇数バスは HP L で聞こえ、偶数バスは HP R で聞こえます。 ソロモードから元の HP ソースへ切り替えるには、HP エンコーダを押します。





1. BUS METER　選択されたバスのオーディオレベルメーター。

2. LINK *_*　隣り合う奇数・偶数バスの 2 つの数字で Linking を選択。Bus-Gain、Bus-Limiters, Mute Coms, Mute All functions をリンク。

3. ISO　どの ISO チャネルからもバスミックスへ送れます。 ISO チャンネルの数字ボックスが緑だとプリフェード、数字ボックスがオレンジだとポストフェード、水色だと Send ノブのゲインです。ISO チャンネルが水色に設定されているとき、*トグルスイッチで Gain 調整モードに入ると、HP エンコーダでセンドレベルを調整できます。

備考：録音された ISO を、バス(3 以降)を介して再生でき、録音時と異なるバランスの ISO ミックスを再生させて作ることができます。 Bus send（Pre/Post Fader ではなく）で送ることによりミックスレベルを調整できます。(Pre/Post Fader 送りはレベルゲイン 0dB です。) 録音可能なバス L、R、B1、B2 は、独自に録音したオーディオを再生するために予約されているため、この目的にはバス B3～B8 を使用します。

4. BUS　BUS L,R, 1, 2 (BUS 3-8 で利用可能)

5. COM　Rtn (L,R バスで利用不可)

6. RETURN　A1, A2, B1, B2 (L,R バスで利用不可)

7. SLATE　スレートマイクを有効にします。スレートマイクは Slate/Coms/Returns メニューの設定に依存します。

8. MORE...　Bus トグルスイッチで、2 ページ目の設定に入ります。
- **Name:** バスネームを選択
- **NOISEASSIS (NA)** か **CEDAR SDNX (NX)**　Bus 1-8 画面で、**トグルスイッチで NoiseAssist か CEDAR sdnx の適用量を調整できます。
- **Bus Compressor (Comp):** コンプレッサー・パラメーターを選択するために Rtn トグルを操作します。Bus コンプレッサーのパラメーターは、
  - **MIC**　スイッチで Compression の On / Off
  - **TONE** スイッチでスレッショルド　[0 ～ -40 dB]
  - *　スイッチでレシオ [1.0:1 to 20:1 (0.1 steps)]
  - **　スイッチでニー(Knee)　[Hard, Soft]
  - **RTN**　スイッチでアタックタイム [1 ～ 200 ms (1ms steps)]
  - **FAV**　スイッチでリリースタイム [50 ～ 200 ms (1 ms steps), 200 ～ 1000 ms (10 ms steps)] Fav スイッチで Limiter の On / Off
- **Bus Limitter (Limit):** Limiter の On/Of を選択するために Fav トグルスイッチを操作します。

9. BUS SEND ON FADER　バス画面からのチャンネルバスセンド。SELECT ノブを使用して、ISO チャンネルのバス送りを設定できます。SEND（水色で強調表示）に設定された ISO が選択されている時、*トグルで GAIN を有効にして、HP ノブを回してバスに送信される ISO のゲインを調整できます。

10. NAME　バスに名前を付けられます。 メータービュープリセットでトラック名が有効になっている場合、バス名はバスメータービューに表示されます。バス L、R、B1、B2 は、それぞれのテイクメタデータトラック名に名前をリップルします。

10. NOISEASSIS (NA) か **CEDAR SDNX (NX)**　Bus L と R 画面で、**トグルスイッチで NoiseAssist の適用量を調整できます。

11 GAIN　**トグルスイッチを操作してバスゲインを 1dB ステップで調整。 [Off – 16dB] 0dB がデフォルトです。

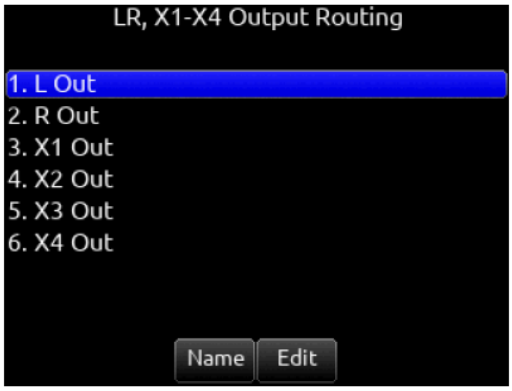
12. MUTE COMS　Com Send1,2 と returns をミュート。

13. MUTE ALL　バスのミュート状態を表示。青色アイコン=ミュート。 Fav トグルスイッチで、Mute All の On/Off 切替。

Outputs

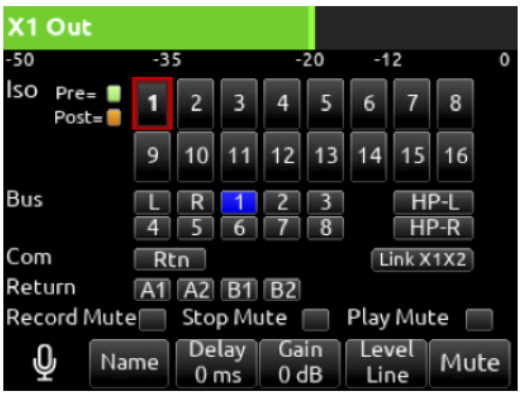
LR, X1-X8 Output Routing

L,R と X1-X10 出力用のルーティング設定。 [L Out, R Out, X1, X2, X3, X4, X5, X6, X7, X8]
備考：出力へのルーティングは 1 つしか選択できません。複数ソースを送るにはバスミックスを利用してください。



NAME　選択した出力に名前を付けるためのキーボードを開きます。 メータービューのプリセットでトラック名が有効になっている場合、出力メータービューに出力名が表示されます。

EDIT　バス画面に入ります。 バスは、Sel または HP ノブを押すことでも入力できます。



1. ISO　選択されたソースが L,R, X1-X8 へ送られます。 緑色が Pre-fade、オレンジ色が Post-fade です。 [1-16]

2. BUS　[L,R,1-8, HP-L, HP-R]

3. COM　[RTN]

4. RETURN COM　[A1, A2, B1, B2]

5. RECORD-MUTE　録音状態のとき自動的に出力をミュート。 [Off, On]

6. STOP MUTE　停止状態のとき自動的に出力をミュート。[Off, On]

7. PLAY MUTE　再生状態のとき自動的に出力をミュート。[Off, On]

8. DELAY　出力にミリ秒単位で、0～500 ms のディレイをかけられます。

9. GAIN　出力にかけるアッテネート（減衰）量をトグルスイッチ "**" で調整。 [0 dB ～ -50 dB、inf]

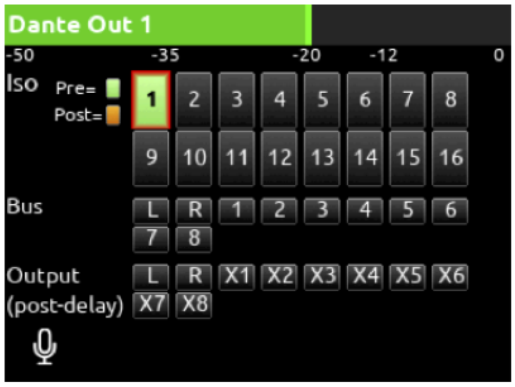
10. LEVEL　出力レベルタイプの設定。 [Line, -10, Mic]

11. MUTE　出力のミュート状態を表示。 オレンジ色はミュート。トグルスイッチ "Fav" で Mute On/Off を切替。

12. LINK *-*　隣合う奇数偶数の Output をリンク。Gain, Mute, Delay がリンクされます。

Dante

Dante 出力用のルーティング設定。緑色が Pre-fade、
オレンジ色が Post-fade です。[1-16]



1. ISO　任意の Dante 出力へ送るソースを選択。

2. BUS　[L,R, 1-8]

3. OUTPUT　選択されたソースの post delay 信号を選択。 [L, R, X1-X8]

4. Record Mute　録音モード時の出力のオートミュートを設定できます。
出力が auto-mute の時、手動で mute/unmute できます。

5. Stop Mute　停止モード時の出力のオートミュートを設定できます。
出力が auto-mute の時、手動で mute/unmute できます。

6. Play Mute　再生モード時の出力のオートミュートを設定できます。
出力が auto-mute の時、手動で mute/unmute できます。

USB

USB 出力の設定。

1. ISO　出 Dante 出力にどのソースも設定できます。 緑色が Pre-fade、オレンジ色が Post-fade です。[1-16]

2. BUS　[L,R, 1-8]

3. OUTPUT　すべてのソースは post-deday です。[L,R, X1-X8]

4. Record Mute　録音モード時の出力のオートミュートを設定できます。出力が auto-mute の時、手動で mute/unmute できます。

5. Stop Mute　停止モード時の出力のオートミュートを設定できます。出力が auto-mute の時、手動で mute/unmute できます。

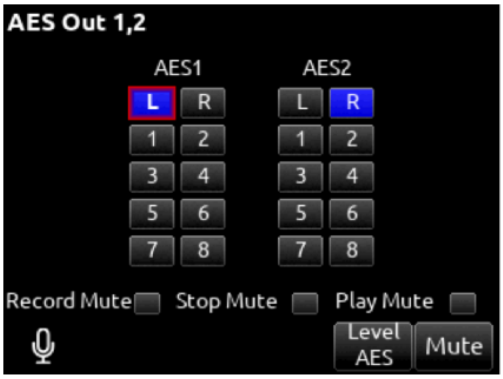
6. Play Mute　再生モード時の出力のオートミュートを設定できます。出力が auto-mute の時、手動で mute/unmute できます。

AES OUTPUT

L または R 出力のレベルとして AES を選択すると、AES Output Routing メニューにアクセスします。 L 出力は AES1 と 2 を出力するために、R 出力は AES3 と 4 を出力するために使用されます。

AES Output Routing メニューから、SELECT ノブを操作して任意のバスを任意の AES 出力にルーティングします。

AES 出力をキャンセルするには、レベルを、Line、-10、Mic にいずれかに設定します。



Playback Outputs

再生をすべての出力に行うか、ヘッドフォン出力のみに行うかを設定できます。これは、ヘッドフォンのみで再生しながらライブオーディオを出力することができます。

1. All Outputs: これがデフォルト設定です。 再生中、ISO またはバス (L、R、B1、B2) から供給されるすべての出力は、利用可能な場合、ISO またはバスに記録されたトラックを再生します。 ISO またはバスで記録されたトラックからソースされていない出力は無音になります。 これは、v10.00 より前の元のルーティング方法です。

2. Headphones Only: 再生中、ヘッドフォン出力、HP-L および HP-R は、HP Preset 1-12 ルーティング ビューの Play タブで選択された録音トラックを再生します。* 他のすべての出力 (LR、X1-X10、Dante、USB) は、出力ルーティング ページで選択されたソースからライブ オーディオを出力します。

備考

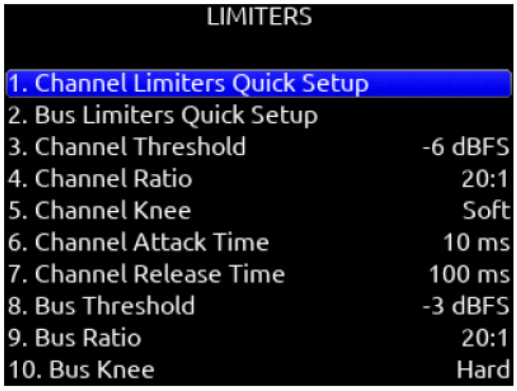
- ユーザー HP プリセットごとに、最大 4 つの異なる録音トラックを長押し選択してヘッドフォン出力に再生できます。
- Headphones Only を選択すると、再生中にチャンネル メータリングと PFL がライブ入力オーディオ信号を監視します。 録音したトラックをメーターして PFL にするには、All Outputs に設定してください。
- ヒント: 出力 X1 ～ X10 のいずれかを HP-L および HP-R に設定し、それらの出力を表示するメーター ビューを監視します。
- 再生中に任意のチャンネルを PFL すると、PFL されたチャンネルは選択された HP プリセット信号とミックスされます。

HP Preset

工場出荷時の HP プリセット (項目 1 ～ 6) またはユーザー設定可能な HP プリセット (1 ～ 12) から選択します。
ユーザー HP プリセット 1 ～ 12 にはカスタム名を付けることができ、ルーティングを自由に設定できます。 User HP Preset は、Outputs > Playback Outputs メニューが 'All Outputs' か 'Headphones Only' に設定されているかに応じて、異なるルーティング オプションがあります。

Function	Description
Name	バーチャル・キーボードが表示され、プリセットネームを編集できます。
Edit	HP(左)と HP(右) の両方へ送られるソースの設定。 HP LEFT か Right を選択してから、任意のソースを設定。 Outputs > Playback Outputs で、Headphones Only に設定した時だけ現れるオプションがあり、 [Record Stop] (* トグル) 用 と [Play] (** トグル) 用においてそれぞれ HP ソースを設定できます。 Play ルーティングタブで、ISO トラックまたはバストラックの再生音を設定するには、ISO またはバスを選択し、エンコーダーノブを 1 秒以上押し続けます。 トラック再生音が選択されると、セルの色がピンクになります。 i. ISO - 選択されたソースは選択された HP 出力にルーティングされます。 緑 = プリフェード、オレンジ = ポストフェード。 [1-16]、ピンク = トラック ('Play'ルーティング・タブのみ)。 ii. Bus- [L,R, 1-8] iii. Com-[Rtn] iv. Return- [A1, A2, B1, B2]
Mono	選択された HP-L/HP-R ソースをモノラルでモニター。
MS	選択した HP-L/HP-R プリセット ソースに MS デコーディングを適用します。
Unlist	HP プリセットメニュー（Home 画面で HP エンコーダを押す）にリスト表示されないように、プリセットをリストから取り除く。
List	HP プリセットメニュー（Home 画面で HP エンコーダを押す）にリスト表示させるために、プリセットを選択。
Fav	プリセットをお気に入りとして選択。選択されると緑色で表示。 Home 画面で "Fav"スイッチにより、このプリセットが呼ばれます。

Limiters



Channel Limiters Quick Setup　チャンネルリミッターの on/off ステータスをグローバルに設定。 [All On, Oll Off]

Bus Limiters Quick Setup　バスリミッターの on/off ステータスをグローバルに設定。 [On, Off]

Channel Threshold　リミッターがアクティブになるスレッショルド 。デフォルトは -6 dBFS。[-2 ～ -12 dBFS]

Channel Ratio　リミッターのレシオ設定。 [Inf:1, 10:1, 12:1, 14:1, 16:1, 18:1, 20:1]

Channel Knee　リミッターのニー設定 [Hard, Soft]

Channel Attack Time　アタックタイム設定。 [1 ～ 200 ms]

Channel Release Time　リミッターのリリースタイム設定。10 ms 単位で調整でき、デフォルトは 100 ms。 [50 ～ 1000 ms]

Bus Threshold　バスリミッターがアクティブになるスレッショルド値を設定。デフォルトは -3 dBFS。 [-2 ～ -12 dBFS]

Bus Ratio　リミッターのレシオ設定。 [Inf:1, 10:1, 12:1, 14:1, 16:1, 18:1, 20:1]

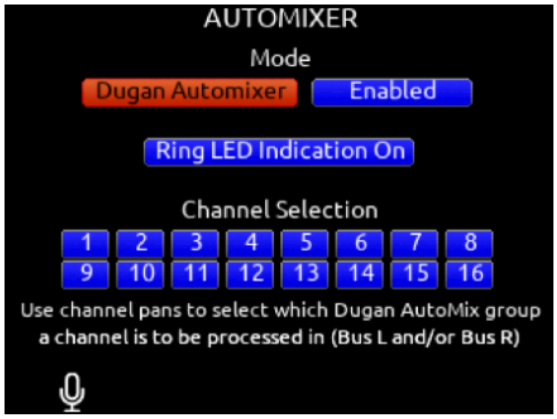
Bus Knee　バスリミッターのニー設定 [Hard, Soft]

Bus Attack Time　バスリミッターのアタックタイム [1 ～ 200 ms]

Bus Release Time　リミッターのリリースタイム設定。10 ms 単位で調整でき、デフォルトは 100 ms。 [50 ～ 1000 ms]

Automixer

オートミキサーを有効にし、オートミキサーのグループに入れるチャンネルを指定します。



MODE　オートミックスのモードを選択し、オートミックスを使用するには Enabled にします。 [MixAssist, Daugan Automixer, Off]
備考：トグルショートカットや外部コントローラのマップボタンに enable/disable を設定すると、オートミックスの有効・無効をすばやく切り替えられます。

RING LED INDICATION　リング LED にオートミックスの状態を点灯するかしないかを設定できます。 ディスプレイのレベルメーターだけでオートミックスを確認したい場合は Off に設定してください。

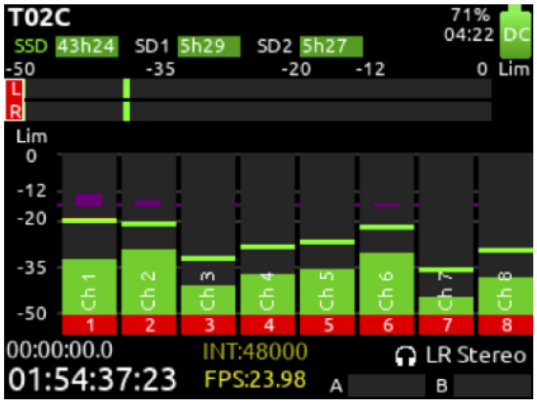
CHANNEL SELECTION　1-16 チャンネルのうち、オートミックスさせたいチャンネルを設定します。1-16 のチャンネル画面からもアクセス中のチャンネルを automix に設定できます。チャンネル画面で Select ノブを操作して Automix の文字を白から紫にすると Off から On に変更できます。

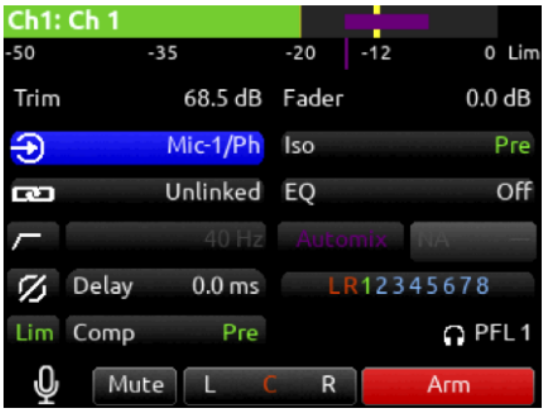
備考：チャンネルでオートミキシングを有効にすると、バス L（R）へのルーティングが Post Fader に強制的に設定されます。バス L （R）へのルーティングを解除、または Pre Fader に設定できますが、オートミキシングは Post Fader 信号のみに適用されることに注意してください。

備考：オートミキサーは次のサンプルレートで利用できます。 47952, 48000, 48048 Hz。

DUGAN AUTOMIXER MODE

Dugan ゲイン表示バーは、メーター画面上に重なって表示されます。メーターの上部 15dB は、通常のオーディオ信号と Daugan ゲイン表示バーで共有されます。 Dugan ゲイン表示バーは、0dB (頂上の 0dBFS にならぶ減衰無し) から-15dB (最大減衰) です。チャンネルが Menu > Automixer で有効化されている時、最大減衰値-15dB の位置がレベルメーター左側にある紫色の目盛りで示されます。





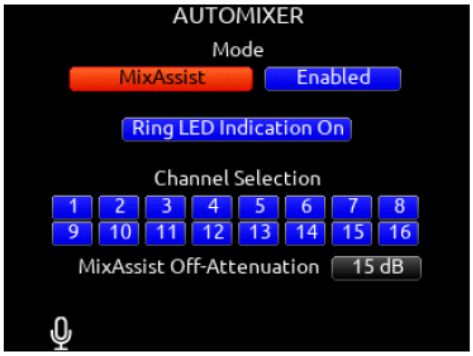
Bus L と Bus R 用に独立した Dugan プロセッシングがあります。 チャンネル 1-16 は、Bus L か Bus-R、または両方（Pan センター）、あるいはパンニング位置に従って送られます。

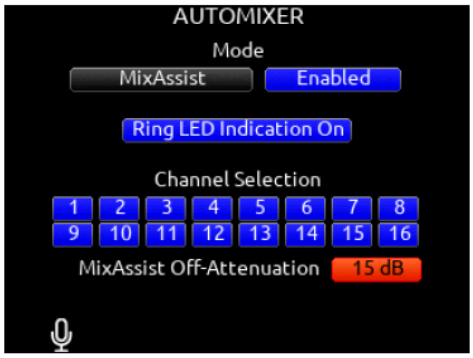
どちらの Dugan グループへチャンネル信号が送られているかを見るために、Daugan ゲイン表示バーがメーター内で左右か中央に表示されます。Pan が完全に左（右）にある場合は左（右）に、Pan がそれ以外に調整されると中央に表示されます。つまり Pan がセンター位置(Bus-L と Bus-R の両方に送っている)の時、Daugan ゲインバーは中央で減衰量を示します。

チャンネルメーター画面には、各チャンネルのレベルメーターに重なって Dugan ゲイン表示バーが表示されます。Dugan ゲイン表示スケールと、通常のレベルメーターのスケールは同じです。

Ch 1-12 までのリング LED も、それぞれのチャンネルの Dugan ゲインを示します。リング LED は-15 dB アッテネーション位置から光始め、増加するほど強く輝きます。

MIXASSIT MODE

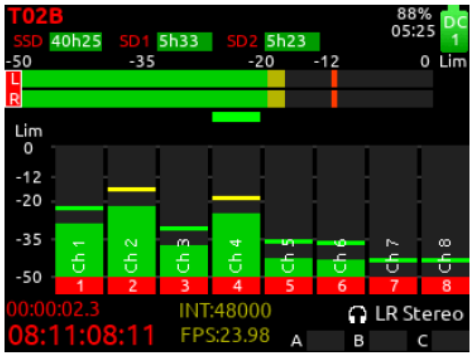




MIXASSIT OFF-ATTENUATION　Input チャンネルに適用するアッテネーション量を設定します。Range: [6 ～ 40dB, default は 15dB]

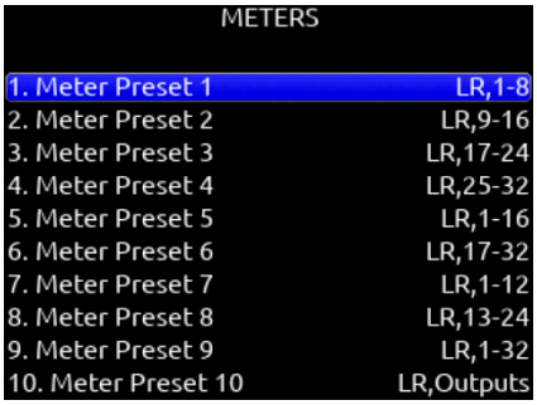
１つのチャンネルがアクティブ（減衰無し）のとき、リング LED(channel 1-8 のみ) と LCD メータービューにオートミックスのオフアッテネーションを表示します。

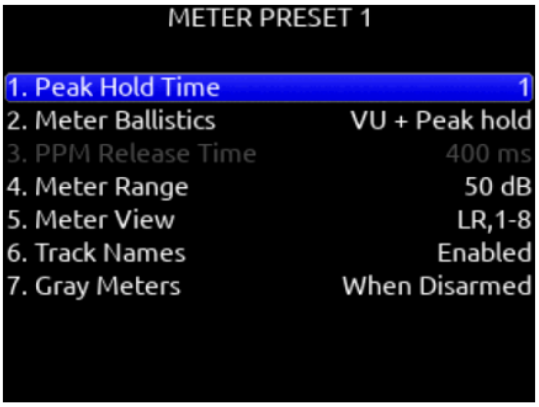
オートミックスは、Bus-L と Bus-R に独立して存在します。チャンネル 1-16 を、Bus-1 か Bus-2、または両方（同じ量）か両方（Pan で調整した量）にオーディオ信号を送ることができます。



Meters

Meter Presets 1-12





PEAK HOLD TIME
メータープリセット用のピークホールドタイムの設定。 [Off, 1～5, Infinity]

METER BALLISTICS
メーターの指示特性を選択します。VU : VU メーターの 300 ミリ秒のアタックタイムと 300 ミリ秒のリリースタイムをエミュレートします。 VU メーターは人間の耳がラウドネス認識に対応することにより信号の音量が視覚的にわかりやすくなります。
VU + Peak Hold : VU 表示にピークホールドが追加されています。
PPM : 瞬間的なアタックタイムと遅いリリース時間により、実際の信号ピークの監視に最適です。 リリース時間は、PPM RELEASE TIME オプションで設定できます。
PPM + Peak Hold : PPM 表示にピークホールドが追加されています。

PPM RELEASE TIME
PPM メーター用のリリースタイムを設定します。[400～1600 mSec, 200mSec ステップ]

METER RANGE
スケールの下から上までのメーターの範囲を選択します。 [50dB、40dB、20dB]。 メータービューでメーターを押したまま HP ノブを回転すると、その場でメータースケールを調整できます。

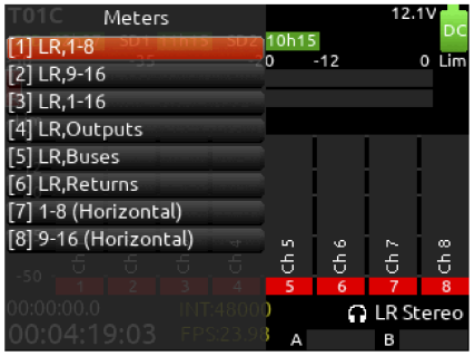
METER VIEW
現在のプリセットに表示されるメーターを設定。 . [LR,1-8*, LR,9-16, LR,17-24, LR,25-32, LR,1-16, LR,17-32,LR,1-12, LR,13-24, LR,1-32, 1-8 (水平), 9-16 (水平),17-24 (水平), 25-32 (水平), LR,1-8 (水平), LR,9-16(水平), LR,17-24 (水平), LR,25-32 (水平), LR,Outputs,LR,Buses, LR,Returns, LR,Buses (水平), LR,Outputs (水平, LR,1-8,B1-2,X1-2, LR Out,B1-4,X1-4, LR Out,B1-4,X1-4(水平), LR,1-3 (水平)]

TRACK NAMES
メーターにトラックネームと／かアウトプットネームを表示する設定。 [Enabled, Disabled]

GRAY METERS
非録音トラックをグレイでメーター表示するか設定。 [When disarmed, Off]

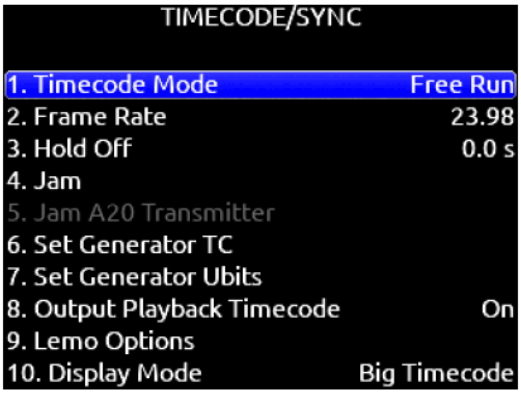
SL-2 RECEIVER OVERVIEW
SL-2 用のピークホールドタイムとメーターレンジを選択します。 指示特性と PPM のリリースタイムは、最後に選択したメータープリセットから取得されます。SL-2 を接続しないとメニューは利用できません。

Meter View Menu Shortcuts



WHEN IN LR, OUTPUTS AND LR, BUSES METER VIEWS
SELECT ノブで output か bus へスクロールします。SELECT を押すと、その OUTPUT か BUS のルーティング画面へのショートカット操作です。

Timecode

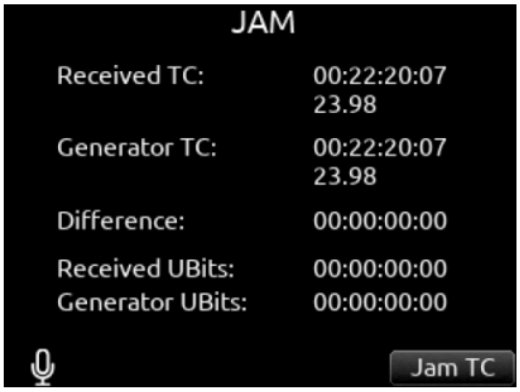


TIMECODE MODE
タイムコードモードの設定。[Off, Record Run, Free Run, Free Run Auto Mute, Free Run Jam Once, 24 Hour Run (ToD), 24 Hour Run Auto Mute, Ext TC, Ext TC -Auto Record, Ext TC Continuous, Ext TC Cont. -Auto Record]

FRAME RATE
フレームレートの設定。[23.98, 24, 25, 29.97ND, 29.97DF, 30ND, 30 DF]

HOLD OFF
録音開始前に、入力されたタイムコード信号が正しく受信されるまでに必要とされる時間。 [0.0 ～ 8.0 秒 (0.1 秒単位)]

JAM
受信した TC、ジェネレータ TC、２つの TC 間の差異、を表示。 受信とジェネレータの UBits を表示。 外部 TC と UBits へのジャムをサポート。Jam TC-トグルスイッチ "Rtn/Fav" で、外部 TC にジャムします。



Jam A20 Transmitter
このメニューは、A20-Mini が USB-A 経由で 8-Series に接続されている場合に使用できます。 Scoprio と A20-Mini のタイムコードとフレームレート、時間差を表示します。 Jam A20- Rtn / Fav スイッチを切り替えて、A20-Mini をジャムします。

Set Generator TC
手動で入力した HH:MM:SS:ff 形式の値に内部 TC のスタート時刻を設定します。

Set Generator U-Bits
ユーザービットを手動または自動でエントリー。 [U = ユーザーが設定した UU:UU:UU:UU, mm:dd:yy:UU, dd:mm:yy:UU, Use External] トグルスイッチ "Rtn/Fav" で終了。

Output Playback timecode
On に設定すると、再生ファイルのタイムコードが Lemo コネクタから出力されます。 Off の場合、ライブ・タイムコードが出力されます。

Lemo Options
TC Lemo コネクタの Pin 2 と Pin 5 の設定。
A. Pin 2 – [TC In, WCK In, WCK Out]
B. Pin 5 – [TC Out, WCK Out]

Display Mode
Big Timecode か Big A-Time 表示の選択。

Sync Reference
すべてのトランスポート・モード(record, stop and play) において、シンクリファレンスの設定。 [Internal, WordClock, LTC In、AES1,2(XLR1), AES5,6(XLR6)] 外部シンクに同期中はリング LED が黄色で点滅します。同期すると、LED の点滅が長時間続く場合は、選択されたシンクリファレンスが検知されません。同期するまでに最大で 30 秒かかります。

注：拡張ポートアクセサリの AES 入力は、同期参照ソースとして使用できません。

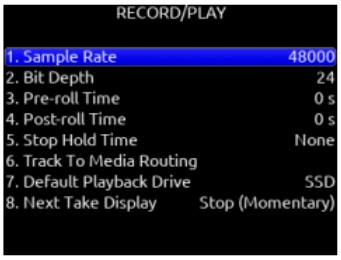
Holding TC While Powered Down
TA4 DC 電源が接続されていない場合、内蔵タイムコード バックアップ バッテリーが充電されていれば、Scorpio はリセット前の 4 時間正確にタイムコードを保持します。 TA4 外部バッテリーが接続されている場合、タイムコードは外部バッテリーが消耗するまで無期限にカウントを続けます。 外部バッテリーの消耗を防ぐには、Timecode Mode を Off に設定します。

内部タイムコードバッテリーは、次の場合に充電されます。
1）888 がオンになっていて、L マウントバッテリーまたは TA4DC 入力から電力が供給されている時。
2）888 がオフで、電源が TA4 DC 入力に接続されており、Power > batt Charging オプションが Always か When Power is Off に設定されている時。

Record/Play

8-Series レコーダーは、16 bit または 24 bit の固定ビット深度、または 32-bit Floating で、最大 192 kHz のサンプル レートでオーディオを録音および再生できます。 この多用途性により、Scorpio はダイアログや音声の録音から、ライブ音楽の録音、サウンド FX キャプチャまで、無数のアプリケーションに対応できます。

Sample Rate
サンプルレートの設定。
[44100, 47952, 48000, 48048, 96000, 192000]



Bit Depth
8-Series は以下の録音方式に対応します。

- バス トラック (L、R、B1、B2) と ISO トラックの 録音がともに同じ 16-bit／24-bit の録音。
- ISO トラックの 32-bit Floating Point 録音。 （バス トラックは 32-bit Float Point で 録音できません。）
- 「16-bit／24-bit のバス トラック録音」と 「32-bit Floating Point モード ISO トラック録音」の混在。

固定ビット深度は、Bit Depth メニューで設定します。 ISO トラックに対して 32-bit Floating Point 録音を有効にするには、Track to Media メニューで設定してください。

Why 32-bit Floating Point?
32-bit Floating 録音の主な利点は、デジタル過負荷/クリッピング、つまり 0 dBFS を超える信号による歪みの防止です。 これは、ジェット機の飛行から、ささやき声から叫び声に突然変化する声まで、予測できないレベルと広いダイナミックレンジを持つソースを録音するための優れた技術です。

従来のダイアログ録音では、俳優が予測不能に叫んだり悲鳴を上げたりするときのデジタルクリッピングを防ぐために、アナログリミッターを活用してきました。 8-Series のような高品質のアナログ リミッターは、デジタルの過負荷歪みを防ぐという優れた効果を発揮します。
しかし、リミッターはその性質上、たとえそれが防止するデジタルクリッピング歪みよりも自然で許容可能な歪みであっても、歪みを導入するという事実は変わりません。 ここで、32 bit Floating Point が登場します。これは、予測不可能でダイナミック レンジの広い音声ソースをキャプチャするために、アナログ リミッターを備えた 24 ビットを使用する代わりに、歪みのない代替手段を提供します。

24 bit 固定録音のダイナミック レンジは約 144 dB (ほとんどのオーディオ ソースのダイナミック レンジをキャプチャするには十分以上です) ですが、ソース レベルが超静かな音から超大音量まで予測不能に激しく変動する場合、それを把握するのは困難です。 プリアンプのトリムゲインレベルを設定する場所。 プロダクション サウンド ミキサーは通常、通常のダイアログ レベルが -20 dBFS、ピークで約 -12 dBFS になるようにトリム ゲイン レベルを設定し、まれに発生する過度に大きなサウンドに対して 12 dB のヘッドルームを確保します。 アナログリミッター
通常、しきい値は約 -3 ～ -4 dBFS に設定され、過度に大音量のサウンドがデジタル クリッピングを引き起こすのを防ぎます。 アナログ リミッター歪みは、不快なデジタル クリッピング歪みよりも優先されます。 24 bit 録音で歪みを完全に回避するには、サウンド ミキサーはさらに広いヘッドルーム、おそらく 40 ～ 50 dB で動作する必要があります。 ただし、この量のヘッドルームでオーディオ ファイルを配信することは、ポストプロダクションでは受け入れられません。 32 bit Floating Point を使用すると、ポストプロダクションに適した通常のレベルで歪みのないオーディオ ファイルを配信できます。

8 シリーズで 32 ビット浮動小数点で記録する場合の考慮事項
- 32 ビット浮動小数点の wav ファイルとして録音できるのは ISO トラックのみです。
- バストラック (L、R、B1、B2) は常に 24 ビットまたは 16 ビット固定で記録されます。
- 32 ビット浮動小数点動作時は最大 2 つのメディアに記録できます。
- 32 ビット浮動小数点で動作する場合、最大サンプルレートは 96 KHz です。
- 32 ビット浮動小数点 ISO で録音されたトラックは、リミッター、コンプレッション、EQ、ノイズ抑制などの影響を受けません。これらのプロセスが有効になっている場合でも、自動ミキシングが行われます。 チャンネル制限、コンプレッション、EQ、ノイズ抑制、自動ミキシングは、ミックス バスと出力への ISO バスにのみ影響します。
- 32 ビット浮動小数点 ISO で記録されたトラックは、HPF、遅延、極性の影響を受けます。
- 32 ビット浮動小数点が有効な場合、プリフェード ISO ルーティングのみが許可されます。
- 32 ビット浮動小数点が有効な場合、ホーム画面のフレーム レート フィールドがビット深度ステータスと交互に表示されます。3 秒ごと。
- AAC が有効な場合、32 ビット浮動小数点は許可されません。

32 ビット浮動小数点で記録する場合の推奨事項。
- ● 最新の NLE および DAW は 32 ビット浮動小数点 wav ファイルをサポートしていますが、ポストプロダクションでワークフロー基準を満たしていることを確認します。
- 24 ビット録音時に通常と同様にステージをゲインし続けます。
- ISO チャンネルのリミッターを有効にして、プリフェードパスとポストフェードパスでのクリッピングを防ぐことをお勧めします。固定ビットミックスバス (L、R、B1、B2) と出力。 リミッターが有効になっている場合でも、32 ビット浮動小数点 ISO トラックリミッターフリーのまま録音されています。
- 警告: >0dBFS 信号をモニタリングすると、HP 出力がクリップされる可能性があります。

Pre-roll Time
プリロール録音の時間設定。 1 秒単位で設定でき、デフォルトは 0 s。 [0~10 s]

Post-roll Time
ポストロール録音の時間設定。 1 秒単位で設定でき、デフォルトは 0 s。[0~10 s] もし間違って録音ストップしたら、ポストロール時間内にもう一度 REC 操作してください。レコーダーはオリジナルファイルに録音を続けます。これはディレクターが間違って「Cut」を指示したときに役立ちます。ポストロール時間内は、トランスポート JOYSTICK のリング LED がオレンジ色に点灯します。もう一度 STOP 操作をするとポストロール録音機能がキャンセルされて完全に録音停止となります。

Stop Hold Time
録音または再生が停止するまでに [停止] を押す時間を選択します。 録音や再生の誤終了を防ぐのに役立ちます。

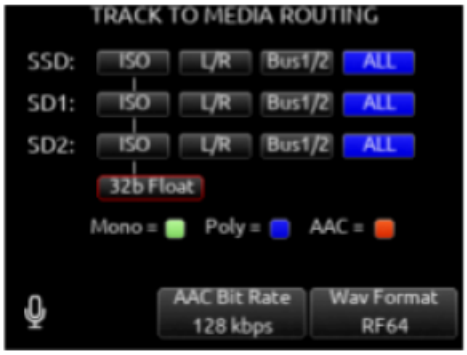
Track to Media Menu
TRACK TO MEDIAMENU 各メディアのソースと録音されるファイルのタイプを選択します。 トラックは、AAC（LR またはバス 1,2 のみ）、WAV モノラル、または WAV ポリファイルとして記録されるメディアにルーティングできます。（グリーンボックス= WAV Mono、ブルーボックス= WAV Poly、オレンジボックス= AAC）

[32b Float] ボックスをアクティブにすることで、ISO を 32 ビット浮動小数点 wav ファイルとして記録するように設定できます。有効にすると、LR および B1B2 ミックス トラックは、Menu > Record/Play > Bit Depth で選択されたビット深度で引き続き記録されます。

注: 32b float オプションは、次の状況では許可されません。
- いずれかのメディア (SSD、SD1、または SD2) が「ALL」に設定されている場合
- AAC を選択した場合。

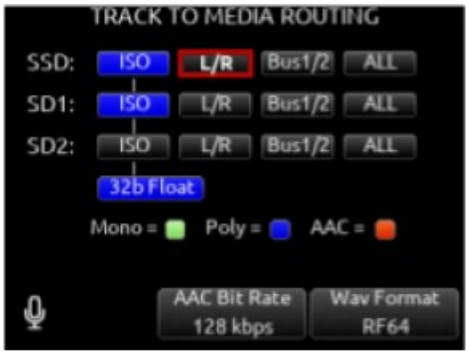
Track to Media Routing Examples

SSD, SD1, SD2 にアームされたすべてのトラックがポリフォニック WAV として録音されます。

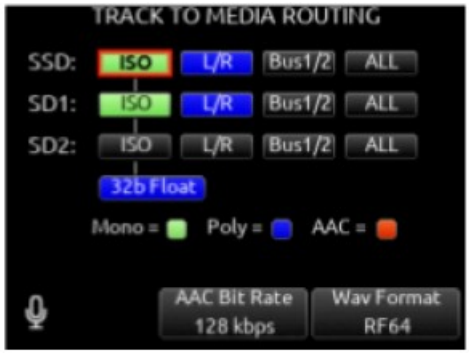


SSD, SD1, SD2 にアームされたすべてのトラックがモノフォニック WAV として録音されます。

SSD, SD1, SD2 にアームされた ISO トラックがポリフォニック WAV として録音されます。



以下が録音されます。
1. アームれた ISO トラックがモノフォニック、32-bit float WAV ファイルとして SSD, SD1 に。
2. アームされた L/R トラックがポリフォニックファイルとして SSD, SD1 に。



Rtn/Fav トグルを使用して、Mono または Poly WAV ファイルを標準 BWF または RF64 形式で録音するかどうかを選択します。 BWF WAV ファイルは、BWF の最大ファイル サイズ 4GB に達すると、新しいファイルにシームレスに自動分割されます。 分割したファイルはどの DAW でも結合できます。 RF64 WAV ファイルの最大ファイル サイズははるかに大きく、自動分割されません。

注: ほとんどの DAW は WAV RF64 をサポートしていますが、一部の NLE(ノンリニア編集) はそうではありません。 RF64 を使用する前に、NLE の互換性を確認することをお勧めします。
また、RF64 が選択されている場合、8 シリーズ Q マークはサポートされません。
トラック L/R と Bus1/2 は AAC オーディオファイルとして録音できます。 (オレンジ色のテキストボックス)。 AAC ファイルは文字起こしに最適です。
*/** トグル スイッチを使用して AAC ビット レートを選択します。 [32、64、128、192、256kbps]
Rtn/Fav トグルスイッチを使用して WAV フォーマットを選択します。 RF64 では、4 GB を超える WAV ファイルが許可されます。

A. SSD- [ISO, L/R, Bus1/2, ALL]
B. SD1- [ISO, L/R, Bus1/2, ALL]
C. SD2- [ISO, L/R, Bus1/2, ALL]

ISO ファイルと L/R ミックス ポリファイルを区別するには:
ISO ポリファイルのファイル名の末尾に「ISO」が追加されます。
L/R ポリファイルのファイル名の末尾には「LR」が付加されます。
バス 1/2 ポリファイルのファイル名の末尾には「B1B2」が付加されます。

備考 1：SF44.1～96kHz で 36 トラックまで録音できます。SF192kHz で 18 トラックまで録音できます。
備考 2：Monophonic file 録音は SF48.048 kHz までです。
備考 3：AAC ファイルは SF48 kHz で利用できます。

Default Playback Drive
再生用ドライブの設定。 [SSD, SD1, SD2]

Next Take Display
ストップボタンを押している間、メータービューの次のテイクフィールドを一時的に表示するか、短く押すと表示されるかどうかを選択します。 ストップ (ラッチング)、トグル スイッチ、メニュー + PFL、またはシーン (フォロー ストップ)、テイク (フォロー ストップ)、またはノート (フォロー ストップ) に設定されたコントローラー マッピング ショートカットに設定されている場合、シーン、テイク、ノートの仮想キーボードは、 現在のテイクまたは次のテイクは、メータービューに現在または次のテイクのどちらが表示されるかによって決まります。

Playback Take/File From Take/File List
テイクリストに入り、どちらかのエンコーダで 1 つのテイクを選択します。PLAY を押すと選択されたテイクが再生されます。

Arming/Disarming During Recording
すべてのチャンネルは録音中に arm/disarm できます。録音中に arm 設定を変更すると、スプリットされて新規ファイルが作成されますが、オーディオデータはシームレスに記録されています。スプリットされたテイクは、テイクネームの末尾にアルファベットで a,b,c と識別子がつけられます。

Auto-Split
BWF フォーマットの 4GB 制限により自動的にスプリットされると、テイクネームの末尾にアルファベットで a,b,c と識別子がつけられます。

Record Split
録音中に REC が押された時にテイクがスプリットされると、テイク番号が増えます。

False Takes
HP 押しながら<< を操作して、最後の録音テイクをフェールス・テイクできます。 最後のテイクが各ドライブのルートにある FALSETAKES フォルダに移動し、次のテイクに備えてテイク番号が 1 つ減ります。

Q-marks

Q マーク (キュー マークとも呼ばれます) を使用して、録音内の関心のあるポイントをマークします。 Q マークは、ホーム画面を表示しているときに、録音、再生、一時停止、またはスクラブ モード中に追加および削除できます。 追加すると、8 シリーズでの再生中に簡単に見つけることができます。 Q マークは WAV ファイルにも埋め込まれており、Reaper や Adobe Audition などのオーディオ編集アプリケーションで読み取ることができます。

注: Q マークは、RF64 WAV 形式ではなく、BWF WAV 形式を使用する場合にのみサポートされます。
注: 自動分割ファイル内の Q マークは (BWF の最大サイズが 4GB であるため) サポートされていません。

Q マークを追加するには、Select エンコーダを押したまま Joystick の [>>] を操作します。

Q マークナンバーはメータービューの上部、テイク名の右側に青色で表示されます。 新しい Q マークが追加されるたびに、Q マーク番号が増加します。(Q01、Q02、Q03)

Q マークを削除するには、Select エンコーダを押したまま Joystick の [<<] を操作します。

Q マークは、トグル スイッチ アクションのショートカット、MIDI マップされたボタン、USB キーボードの「Q」および「Delete」ボタンを使用して追加および削除することもできます。

LOCATING TO Q-MARKS DURING PLAYBACK, PAUSE, OR SCRUB:

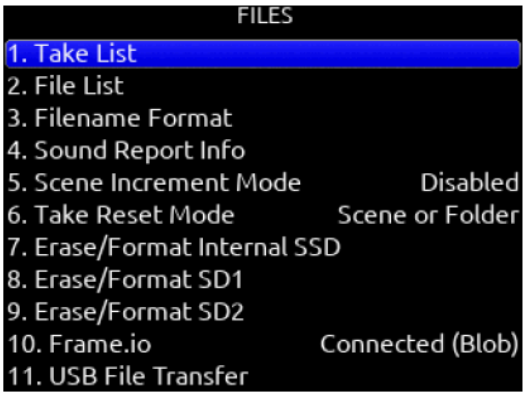
次の Q マークを見つけるには、>>を押します。 次の Q マークがない場合は、>>を押すとテイクの最後に移動し、再生が一時停止します。
前の Q マークを見つけるには、<<を押します。 前の Q マークがない場合は、<<を押すとテイクの先頭に移動します。

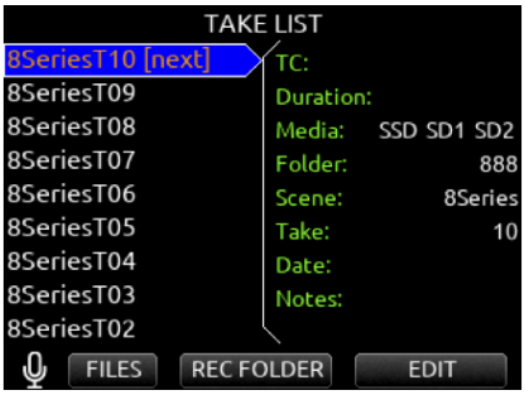
備考：長尺テイクの最後の数秒または数分を確認するには、最後の Q マークを過ぎてから>>を押します。 これにより、テイクの終了時に再生が一時停止します。 次に、早戻しかスクラブ機能で任意のポイントまで移動してから再生して確認できます。

Files

Take List テイクリスト表示。 最後に録音されたテイクから順番に上からリスト表示されます。画面の右側で、テイクに関するさまざまな情報を参照できます：Timecode, Duration, Media, Folder, Scene, Take, Date, Notes。 このリストから、トグルスイッチ "Rtn/Fav" を操作して、メタデータ編集にテイクを選択することができます。

Menu + HP ノブを押して、Take List にショートカットできます。リストのいずれかのテイクをハイライトにして PLAY で再生されます。



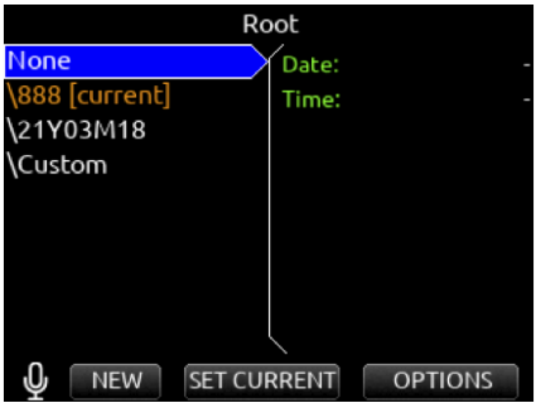


Record Folder-
レコードフォルダは、録音されたオーディオファイルとサウンドレポートを保存するためのコンテナです。 それらは最大 3 レベルの深さまでネストできます。 レコードフォルダを「現在」に設定して、オーディオファイルとサウンドレポートが保存される場所を決定します。

レコードフォルダーは、3 つのメディアすべて（SSD、SD1、SD2）で統合されます-レコードフォルダーで実行されたアクション（NEW、SET CURRENT、Delete Folder、Create Sound Report）は、3 つのメディアすべてのそのレコードフォルダーに影響します。

既存のレコードフォルダを選択するか、新しいレコードフォルダを作成するには、テイクリストに移動し、* / **トグルを使用して[RECFOLDER]メニューにアクセスします。 デフォルトでは、RECORD FOLDER メニューには、ルートにあるレコードフォルダのリストが表示されます。 レコードフォルダーを強調表示し、Sel / HP ノブを押して、ネストされたフォルダーに移動します。 フォルダ階層を上に移動するには、メニューを押すか、フォルダリストの上部にある「＼ ..」を選択します。 画面のタイトルは、フォルダパスを識別します。

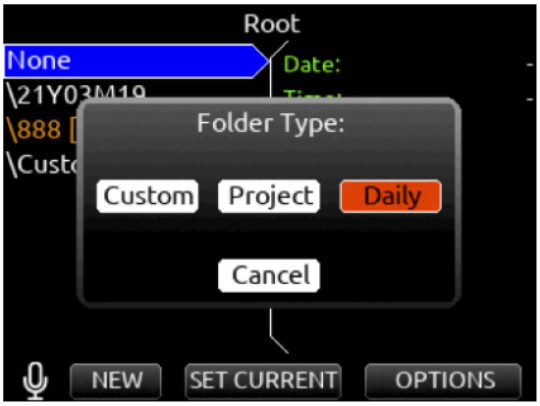
表示されているフォルダレベルに新しいレコードフォルダを作成するには、[新規]（トートグル）を選択します。 新しく作成されたレコードフォルダは、現在のレコードフォルダとして自動的に設定されます。
表示されるポップアップでフォルダタイプを選択します。 レコードフォルダには、カスタム、プロジェクト、デイリーの 3 種類があります。



Custom　ファイルはカスタム名のフォルダに保存されます。 カスタムフォルダ名は、録音されたオーディオファイルにテープメタデータとして埋め込まれます。

Project　ファイルは、テイクリスト>次のテイク編集画面に入力されたプロジェクト名によって決定される名前のフォルダに保存されます。 プロジェクトフォルダ名は、テープメタデータとして埋め込まれています。

Daily　ファイルは、名前が yyYmmMdd の形式のフォルダに保存されます。 Daily フォルダーを選択すると、日付がテープメタデータとして埋め込まれます。



現在の記録フォルダとして日次フォルダを選択すると、深夜以降の最初の記録が完了すると、日次フォルダのポップアップが表示されます。 日次フォルダのポップアップには、次のメッセージが表示されます。“Store this recording and subsequent recordings in the previous day’s folder or store in a new daily folder? [Previous], [New]”

- 前日フォルダに録音を継続するには、[Previous]を選択します。
- [New]を選択すると、新規デイリーフォルダーに記録します。

備考：新しい録音をルートディレクトリに保存するには、ルート画面で[None]をハイライト表示させて、* / **トグルで Current（現在の設定）に設定します。 [None]を選択すると、日付がテープメタデータとして埋め込まれます。

既存のレコードフォルダはすべて「現在の」レコードフォルダとして設定できます。 SET CURRENT * / **トグルを使用して、強調表示されたフォルダを「現在の」レコードフォルダ。 現在のレコードフォルダは、フォルダ名の後にあるオレンジ色の「[current]」タグで簡単に識別できます。

備考：現在のレコードフォルダが別のフォルダ内にネストされている場合に簡単に見つけるには、オレンジ色のレコードフォルダ名で示されるパスに移動します。

備考：Record Folder メニューには、Take List>Next Take Edit からもアクセスできます。現在のレコードフォルダのフルパスも表示されます。

備考：Record Folder メニューへのショートカットを、トグルスイッチにプログラムできます。

Record Folder Options　レコードフォルダをハイライト表示してから Rtn / Fav トグルを操作して OPTIONS を選択します。

Create Sound Report　3 つすべてのメディアで、選択したフォルダー（サブフォルダーを除く）のサウンドレポートを作成します。 選択したフォルダにオーディオファイルがない場合、”No Takes Found” と表示されます。

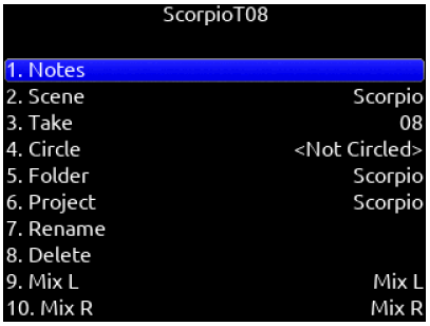
サウンドレポートのファイル名形式は[Date] _ [RecFolderName] _Media.CSV です。ここで、Date は、System>Time/Date メニュー設定に基づく 6 桁の文字列です。 SSD の場合は Media = ‘ ‘で、SD1 は”_1”で、SD2 は”_2” です。
例：Rec Folder name= ROLL8、Date= 2020 年 8 月 13 日は…
081320_ROLL8.csv (on SSD)
081320_ROLL8_1.csv (on SD1)
081320_ROLL8_2.csv (on SD2)

Rename Folder
3 つのメディアすべてで選択したレコード フォルダの名前を変更します。 これにより、既に記録されている .wav ファイル内の埋め込みフォルダ（テープ）メタデータではなく、実際のフォルダの名前が変更されます。 Daily Folder の名前は変更できません。

Delete Folder　選択したレコードフォルダと、3 つのメディアすべてのサブフォルダを含むそのすべてのコンテンツを完全に削除します。このアクションは元に戻せません。

Monophonic wav ファイル形式が選択されている場合（Record/Play > Track to Media Routing メニューで）、テイク用に作成されたすべてのモノラルファイルはテイクの名前に従い、選択したレコードフォルダ内のテイクフォルダに保存されます。

Take Edit Menu



1. Notes：選択テイクのメモを編集。Sticky Notes を含む最大 200 文字。
2. Sticky Notes（Next take のみ）：後続のテイクの Notes に自動的に追加される文字列を前もって編集します。最大 50 文字。
3. Scene：シーン名を編集します。最大 50 文字。
4. Take：テイク番号を編集します。
5. Circle（現在／過去のテイクのみ）：名前の前に「@」記号を付けます。
6. Project 名の編集。最大 20 文字。フォルダタイプとしてプロジェクトを選択した場合、これがレコードフォルダ名になります。
7. Delete（現在／過去のテイクのみ）：選択したテイクをドライブの Trash フォルダに移動します。
8. Rename：テイクの名前を変更します。プロジェクト、シーン、およびテイク iXML / bEXT メタデータも更新されます。ただし、名前の変更によってシーンが変更または削除されたり、区切り文字が使用されたりすることはありません。
テイクの名前が変更され、編集が現在のファイル名形式の設定（指定子付き）に準拠していない場合、テイクは自由形式のテイク名になり、メタデータは更新されません。
テイクの名前が変更され、編集が現在のファイル名形式設定（指定子付き）に準拠している場合、自由形式のテイク名の名前を変更した後でもメタデータが更新されます。
テイクの名前が変更され、編集にテイク指定子に続く文字が含まれている場合、テイク番号のメタデータは、指定子の直後の番号でのみ更新されます。
9. トラック名：トラック名を編集します。最大 20 文字。A10-TX および A20-Mini 送信機名をオプションで使用して、関連する ISO トラック名を設定できます。

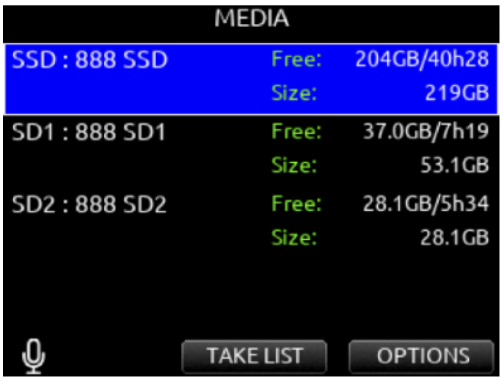
A10-TX および A20-Mini 送信機の名前をオプションで使用して、関連する分離されたトラック名を設定できます。詳細については、SL-2 および SL-6 オプションの使用トラック名を参照してください。

既存のテイクをリネームする時に、同じフォルダ内に重複してしまうテイクが存在する場合は、重複を避けるためにネームの末尾に「+」が追加されます。ネクストテイクをリネームした後、録音開始時に同じフォルダ内に重複するネームが存在する場合は末尾に「A」が追加されます。

File List
Menu>Files>File List からリストに入ります。ファイルリストには、8-Series の内部 SSD カードと SD カードの、フォルダ、および WAV ファイルのさまざまな詳細が表示されます：TC、FPS、duration、format、トラック、日付、時刻、サイズ。

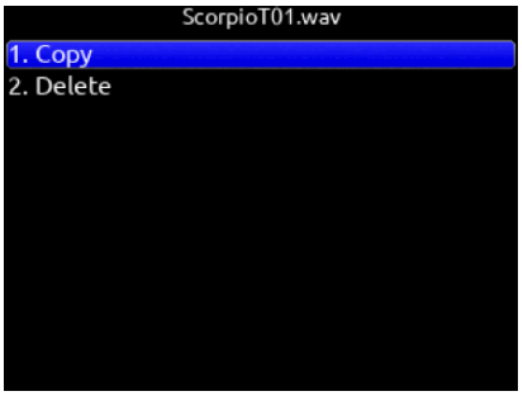
Tone トグルを操作して、Take List とから File List にアクセスできます。

ファイルリストで wav ファイルを選択して再生を開始できます。



FILE LIST OPTIONS FOR FILES

COPY FODER/FILE　File List オプションから、ドライブ間のファイルまたは
フォルダをコピーできます。
File List の WAV ファイルをハイライト選択し、Play で再生できます。



DELTE FOLDER/FILE　ファイルまたはフォルダを削除できます。

CREATE SOUND REPORT　3 つすべてのメディアで、選択したフォルダー
（サブフォルダーを除く）のサウンドレポートを作成します。 選択したフォルダに
オーディオファイルがない場合、”No Takes Found” と表示されます。

サウンドレポートのファイル名形式は[Date] _ [RecFolderName] _Media.CSV です。
ここで、Date は、System>Time/Date メニュー設定に基づく 6 桁の文字列です。
SSD の場合は Media = ‘ ‘で、SD1 は”_1”で、SD2 は”_2” です。
例 : Rec Folder name= ROLL8、Date= 2020 年 8 月 13 日は…
081320_ROLL8.csv (on SSD)
081320_ROLL8_1.csv (on SD1)
081320_ROLL8_2.csv (on SD2)

備考 : Toggle Switch Action か、Controller Midi Mapped ボタンか、GPIO に
[Create Sound Report]機能を設定して、 3 つのメディアすべての現在のレコード
フォルダにサウンドレポートを同時に作成できます。

EMPTY TRASH　トラッシュ・フォルダを空にします。

EMPTY FALSE TAKES　フェイルス・テイク・フォルダを空にします。

ERASE/FORMAT　選択されたドライブをフォーマットします。

SD1 と SD2 カードは、フォーマット実施前にカスタム・ボリュームネームをユーザーが決めることができます。

FILENAME FORMAT　録音されたファイルのネーム形式の設定。
Scene (Slate) T,+,- Take, か Project ;,%, = Scene (Slate) T,+,- Take

SOUND REPORT INFO　サウンドレポートの各項目にさまざまなコンテンツを選択できます。

SCENE INCREMENT MODE　シーンインクリメント機能は、シーンインクリメントショートカットを操作した時の、数値またはアルファベットのどちらでシーン名を増加（インクリメント）するかを定義します。 ''Character'に設定すると、シーンネームの最後の文字が A から Z まで増加しますが、「1」と「0」と混同しないように「I」と「O」は利用しません。

TAKE RESET MODE　テイク番号を 1 にリセットする時の設定。オプションは: Never,　Scene Change,　Folder Change,　Scene or Folder Change です。

ERASE/FORMAT SSD　内蔵 SSD の erase/format を選択。

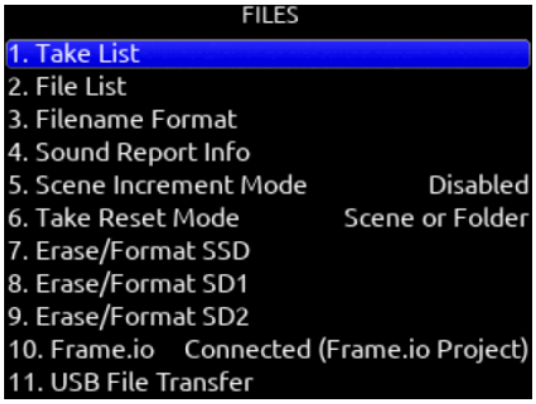
ERASE/FORMAT SD1　SD1 の erase/format を選択。フォーマット実施前に任意のメディアネームを設定できます。

FRAME.IO　インターネット・サーバーにファイルアップロードする設定。

ERASE/FORMAT SD2　SD2 の erase/format を選択。フォーマット実施前に任意のメディアネームを設定できます。

USB FILE TRANSFER　ファイル転送モード。 USB-C ポートに接続された Mac か PC へ 8-Series のメディアからファイルをコピーできます。
USB ファイル転送モード時、オーディオを再生・録音できません。

備考：ヘッドフォンのゲインは、ファイル転送モードでも調整できます。ヘッドフォンのソースとして選択した場合、コンピュータの USB オーディオを聴いているときに HP の音量が変化します。



Frame.io

Frame.io C2C（Camera-to-Cloud）は、8-Series で録音されたファイルが閉じられるとすぐにクラウドに自動的にアップロードするサービスです。 新しいファイルの録音中でも、すでに録音完了したファイルはアップロードされます。 Frame.io にアップロードするには、Frame.io アカウントと、8-Series をクラウドデバイスとして Frame.io プロジェクトに追加するための招待状が必要です。 詳細については、https : //www.frame.io/c2c にアクセスしてください。

TO CONNECT TO FRAME.IO

1.8-Series のイーサネットポートをルーターまたは LTE ホットスポットに接続して、インターネット接続を確立します。 8-Series のネットワーク IP アドレスは、ルーターまたはホットスポットの DHCP サーバーから自動的に構成されます。 IP アドレスは、Files > Frame.io メニューに表示されます。 ネットワーク環境によっては、8-Series が IP アドレスを受信するまでに数分かかる場合があります。
Files > Frame.io メニューにネットワーク IP アドレスが表示されるのを待ちます。
IP アドレスが表示されると、8-Series は自動的にインターネット接続ステータスをチェックします。 インターネットに正常に接続されると、Frame.io セットアップメニューの Internet Status フィールドに Online と表示されます。
8-Series に有効なネットワーク IP アドレスが表示されているのに、インターネットステータスに Offline と表示されている場合は、ルーターまたはホットスポットがインターネットに接続されていることを確認してください。 IP アドレスが 0.0.0.0（no IP address）を示している場合は、イーサネット接続を確認してください

2. 承認されたクラウドデバイスとして 8-Series を Frame.io プロジェクトに接続します。

A: Frame.io の iOS アプリから、Cloud Device Integration が有効となった Frame.io プロジェクトを作成する必要があります。

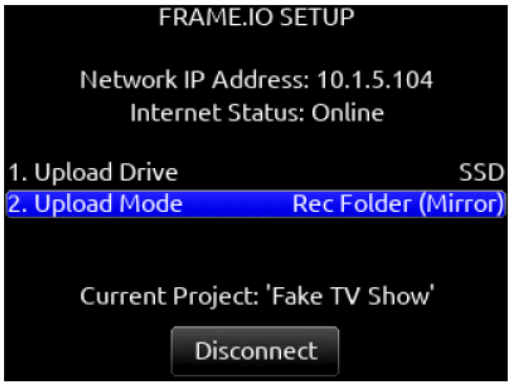
i.) Frame,io プロジェクトの Cloud Devices タブで、'Seup new device'を選択します。
ii) Device ready to connect を選択します。Frame.io アプリは、'Enter the device paring code' を表示します。

B: 8-Series の Files > Frame.io メニューから、'Connect'を選択します。

i.) 30 秒以内に、Scopio は 6 文字のペアリングコードを表示します。Frame.io iOS アプリの'Enter the device pairing code' 画面に 6 文字のコードを入力します。次に'Authorize'ボタンを押します。
ii.) Frame.io プロジェクトへの接続が成功すると、8-Series の画面に 'Connection to Frame.io successful' と表示されます。

OK をクリックし、'Current Project'フィールドに Frame.io プロジェクトの名前が表示されていることを確認します。 8-Series が現在どの Frame.io プロジェクトにも接続されていない場合は、ダッシュが表示されます。

備考 : どのメータービューからでも、Frame.io プロジェクトにアクティブに接続していることを簡単に確認できます。 これは、選択した Frame.io アップロードドライブを囲む水色の長方形のボックスで示されます。



8-Series は Frame.io へファイルアップロードの準備が整いました。

TO DISCONNECT FROM FRAME.IO

8-Series メニューの Files> Frame.io から、Disconnect を選択します。 切断すると、8-Series が Frame.io プロジェクトに貢献しているクラウドデバイスとして認証が解除されます。

Frame.io から切断するときにテイクがすでにアップロード中の場合は、ポップアップが表示され、今すぐ切断するか、進行中のテイクのアップロードが完了した後に切断するかを選択できます。 'Disconnect Now' を選択すると、アップデート中断により Frame.io サーバーでのテイクは使用できなくなります。

- 8-Series の電源を入れ直した後、Frame.io プロジェクトに再接続する必要はありません。 Frame.io プロジェクトへの再接続は、切断後またはプロジェクトの有効期限が切れたときにのみ必要です。 プロジェクトの有効期限の詳細については、Frame.io にアクセスしてください。

- 8-Series は、一度に 1 つの Frame.io プロジェクトにのみ接続できます。 新しいプロジェクトへの接続を試みる前に、現在の Frame.io プロジェクトから切断してください。

UPLOAD DRIVE
Frame.io プロジェクトにアップロードするトラック（ISO、L / R、バス 1/2）とファイルタイプ（Mono、Poly、AAC）を選択します。まず、Menu > Record/Play > Track to Media Routing で、 SSD、SD1、SD2 用のトラックとファイルタイプを設定します。 次に、Menu > Files > Frame.io > Upload Drive で、アップロードされる対象（SSD、SD1、SD2）を選択します。

UPLOAD MODE
アップロードするモードを設定します。REC FOLDER とは現在設定されている録音ファイルが格納されるフォルダです。 モードを TAKE にすると手動でテイクリストからアップロードできます。PAUSED だとアップロードできません。

REC FOLDER (MIRROR) 録音フォルダの内容が自動的に Frame.io へアップロードされます。

REC FOLDER (NEW TAKES) このモードに設定後に録音されたテイクが自動的に Frame.io へアップロードされます。

TAKE (MANUAL) テイクリストから特定のテイクを手動で Frame.io へアップロードできます。 'Upload to Frame.io' option は Edit 画面にあります。

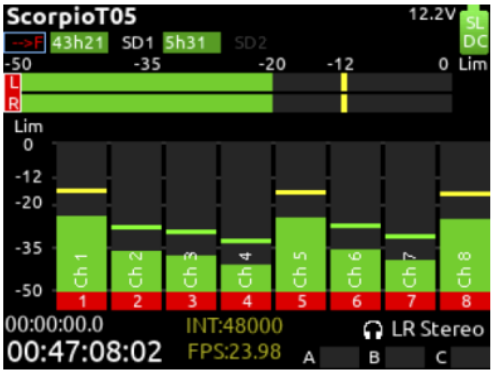
PAUSED Frame.io へのテイクのアップロードを一時停止します。 アップロードが一時停止されたときにテイクがすでにアップロード処理中である場合、ポップアップが表示され、「Pause Now」か「Pause After」を選択できます。 Pause Now を選択すると、アップロード中断したテイクは使用できなくなります。 別のアップロードモードを選択すると、テイクが Frame.io に再アップロードされます。

Paused モードの場合、メータービューのドライブフィールドで「P」が点滅し、8-Series は Frame.io プロジェクトに接続されたままになります。

備考：電源ロスとまたはインターネット接続のロストが原因でファイルのアップロードが中断された場合、次回の Frame.io 再接続時にファイルが自動的に再アップロードされます。

MONITORING FRAME.IO UPLOAD STATUS

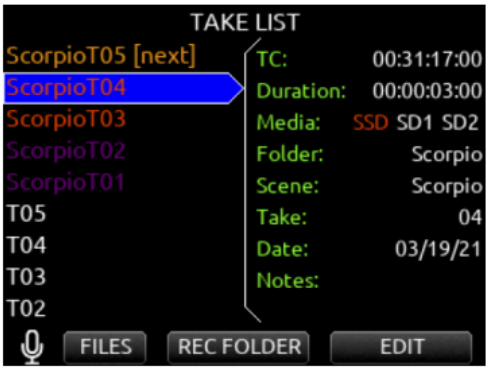
METER VIEW
ドライブを囲む白い矩形：Frame.io へアップロードされるドライブ
ドライブ上の「->」アイコン：ファイルアップロード中
ドライブ上の「P」アイコン点滅：UPLOAD MODE が PAUSED



TAKE LIST
テイクのアップロード状態を見分けるためにリストで異なる色が使用されます。

Take List の画面左側：
- ホワイト・テイク：テイクがアップロードされていないか、アップロード用にキューに入っていません。
- オレンジ・テイク：Frame.io へアップロード中です。
- パープル・テイク：Frame.io へアップロード完了しています。

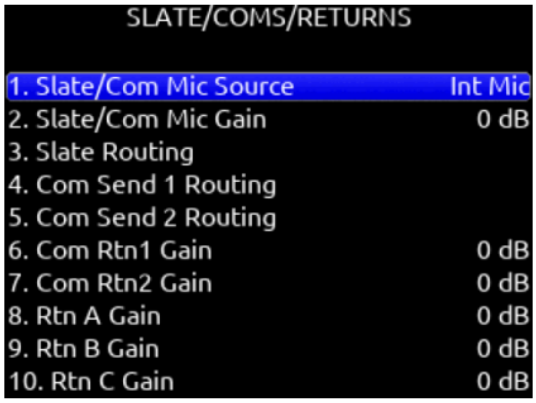
Take List の画面右側：
- SSD, SD1, SD2 がホワイト：テイクはアップロードされていません。
- SSD, SD1, SD2 がオレンジ：テイクはアップロード中です。
- SSD, SD1, SD2 がパープル：アップロード完了しています。



FRAME.IO WEB BROWSER AND IOS APPS
ウェブブラウザの Frame.io か iOS アプリでできること。

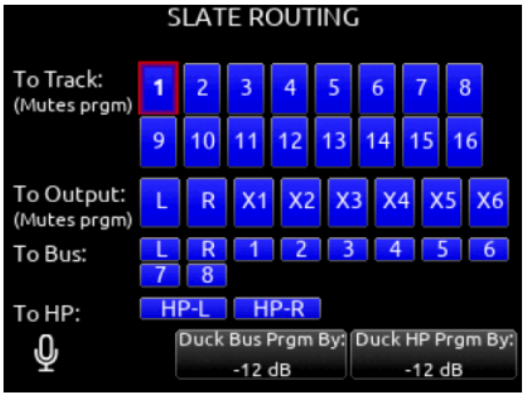
- アップロードされたファイルの確認
- WAV か AAC ファイルの再生
- ファイルへコメントの追加
- アップロードされたファイルの Rename, Delete, Move, Copy
- シェアやダウンロードファイル。
- その他

Slate/Coms/ Returns

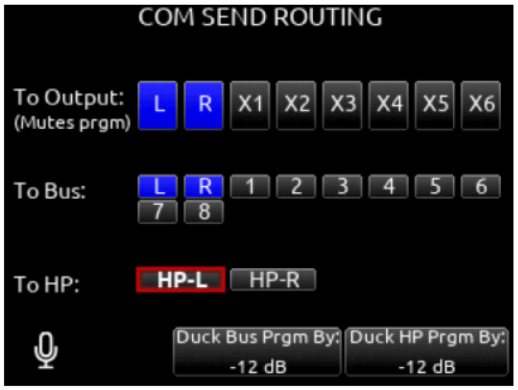


Slate/Com Mic Source　slate と com のマイクソースの設定。
[Off, Int Mic, Ext Mic, Ext 12V Mic]

Slate/Com Mic Gain　1 dB ステップ調整で slate/com マイク用のゲイン設定。 [-10～20dB（Internal mic）] [20～60dB (external mic)]



Slate Routing　スレートマイク音の送り先の設定。
A. To Track – [1-16]
B. To Output – [L,R, X1-X6, A1,A2]
C. To Bus – [L,R, 1-8]
D. To HP – [HP-L, HP-R]
E. Dcuk Bus Prgrm By: デフォルト -12 [0～40 dB, -inf]
F. Dcuk HP Prgrm By: デフォルト -12 [0～40 dB, -inf]



Com Send 1 Routing　Com Send1 の送り先の設定。
A. To Output – [L,R, X1-X6]
B. To Bus – [L,R, 1-8]
C. To HP - [HP-L, HP-R]
D. Dcuk Bus Prgrm By: デフォルト -12 [0～40 dB, -inf]
E. Dcuk HP Prgrm By: デフォルト -12 [0～40 dB, -inf]

Com Send 2 Routing　Com Send2 の送り先の設定。
A. To Output – [L,R, X1-X6]
B. To Bus – [L,R, 1-8]
C. To HP - [HP-L, HP-R]
D. Dcuk Bus Prgrm By: デフォルト -12 [0～40 dB, -inf]
E. Dcuk HP Prgrm By: デフォルト -12 [0～40 dB, -inf]

COM RTN1 GAIN　1 dB ステップ調整で COM RTN 1 のゲイン設定。 [0～30 dB]

RTN A GAIN　1dB ステップで RTN A 用のゲイン設定。[0～30 dB]

RTN B GAIN　1dB ステップで RTN B 用のゲイン設定。[0～30 dB]

DUCK BUS PROGRAM BY　バスへ送られるすべてのオーディオがユーザー設定した量を減衰します。

DUCK HP PROGRAM BY　ヘッドフォンへ送られるすべてのオーディオがユーザー設定した量を減衰します。
outputs へ coms か slate 信号が送られる時、その output へ送られるプログラム音はミュートされ、com か slate 信号によって置き換わります。

SuperSlot

SL-2 ワイヤレスアクセサリを 8-Series と組み合わせると、SuperSlot 互換の受信機、監視、電力供給、およびワイヤレスオーディオの複数チャネルの RF 配信の統合制御が可能になります。 SuperSlot メニュー項目（またはショートカット Meter + HP）を選択すると、Rx の概要画面に直接移動します。
詳細については、SL-2 レシーバーの概要を参照してください。
サウンドデバイス SL-2 デュアル SuperSlot ワイヤレスモジュールが 8-Series に接続されていない限り、SuperSlot メニューはグレー表示され、アクセスできません。
レシーバーを再起動させるアクションを実行した後に 8-Series の電源を入れなおす必要があります。 レシーバーのユーザーインターフェースからのレシーバーの電源のオン/オフはサポートされていません。

SL-2

SL-2 は、2 つのスロットインワイヤレスレシーバー統合システムで、8 シリーズのミキサーレコーダーのトップパネルに簡単にマウントできます。 さまざまなメーカーの UniSlot および SuperSlot™ワイヤレスレシーバーを受け入れます。 SL-2 とレシーバーへの電力は、8 シリーズのミキサーレコーダーによって供給されるので、SL-2 に外部 DC コネクタは必要ありません。 アナログまたはデジタルオーディオは、拡張ポートを介してレシーバーからミキサーレコーダーに送信されるため、電源とオーディオの接続のための煩雑なケーブル接続が削減されます。

SL-2 は、スロットインレシーバーへのアンテナ分配を提供し、アンテナ配置の自由度により RF パフォーマンスを向上させます。 SL-2 はスマートアンテナの制御が可能です。MCX ポートを介してフィルターされた RF 信号を外部レシーバーで共有できます。 SL-2 の背面パネルには、AES3 オーディオ入力用の 2 つの TA3 コネクターがあり、また最大 500 mA を供給できる 2 つの 4 ピンヒロセ DC 出力があります。 SL-2 から 8-Series に最大 8 チャンネルのオーディオをルーティングできます。 8 チャンネルは、レシーバーのデュアルまたはクワッドチャンネルスロットからのオーディオおよび/または 4 つの AES 入力で構成できます。SL-2 は、上部パネルにあるマルチピン拡張ポートを介して 8-Series に取り付けます。パネルの説明とインストール手順については、SL-2 ユーザーガイドを参照してください。

警告！ ハードウェアの損傷を防ぐため、レシーバーを取り付け／外しする前に、SL-2 スロットの電源を切ることが重要です。 Menu>Options>Slot Power または Menju>SuperSlot>Options>Slot Power で電源をオフにするか、8-Series レコーダーの電源スイッチを切ることで SL-2 の電源をオフにできます。

SL-2 で利用できる SuperSlot レシーバーは以下です。
- Sound Devices A20-RX
- Audio Ltd. A10-RX
- Lectrosonics SRb, SRc, SRc-941, SRb5P (Slot A only), SRc5P (Slot A only)
- Lectrosonics DSR4 (4ch digital audio per slot)
- Lectrosonics DSR
- Sennheiser EK6042 (does not support scan)
- Shure ADX5D
- Sony DWR-S03D
- Wisycom MCR42
- Wisycom MCR54(4ch digital audio per slot)

POWERING THE SL-2
SL-2 は、8-Series の拡張ポートを経由して電源供給されるので、SL-2 のための追加電源は必要ありません。 SL-2 をアクティブにするには、Menu で、System> Expansion Port を On に設定します。 SL-2 を使用しないときは、[Expansion Port]メニューを[Off]に設定して電力を節約できます。 拡張ポートがオフに設定されている場合、SuperSlot メニューはグレー表示されます。

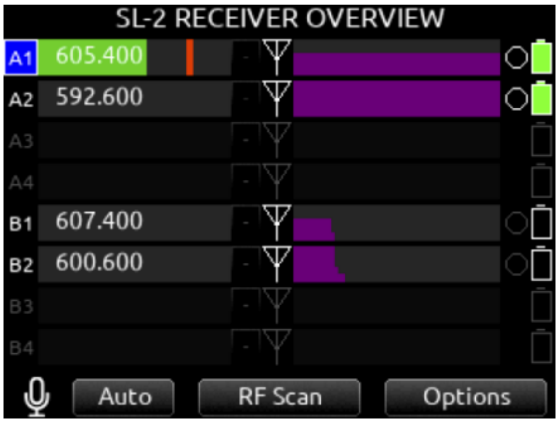
ROUTING SL-2 SOURCES TO CHANNELS
SL-2 には 12 の選択可能なソースがあり、最大 8 チャンネルのオーディオをミキサー/レコーダーに送信できます。すべてのソースが AES デジタルの場合、8 チャンネルが利用可能です。 スロットレシーバー出力がアナログの場合、6 チャンネルが使用可能であり、AES3 とは選択できません。

SL-2 ソースをチャンネルにルーティングするには、チャンネルのソース画面にアクセスし、A1-A4、B1-B4、AES 1-4 から選択します。 A1-A4、B1-B4 がソースとして選択されている場合、* / **トグルを選択したレシーバーの設定画面へのショートカットとして使用してください。

A1-A4、B1-B4 ソース、AES 1～4、チャネルトリムゲイン範囲は-20～50 dB。A10-RX と A20-Mini のペアで利用する場合は、0～60dB (GainForward)。

RF OVERLOAD LEDS SL-2 のフロントパネルの各アンテナ入力には、RF 信号入力オーバーロードを表示する LED があります。
赤色 = SL-2 の RF オーバーロードスレッショルド
橙色 = デジタルワイヤレスシステムのオーバーロードスレッショルド
消灯 = オーバーロードではない。
LED の点灯を無効にするには、SL-2 Options > Antenna LEDs で Off に設定してください。

SL-2 RECEIVER OVERVIEW　SuperSlot メニューを選択して、SL-2 に接続されているすべてのレシーバーの情報を表示する SL-2 レシーバーのオーバービュー画面に入ります。 METER を押しながら HP ノブを押すと、レシーバーのオーバービュー画面にアクセスできます



A1-A4, B1-B4　SELECT ノブを操作して、SL-2 チャネルを選択して、個々のレシーバー設定画面にアクセスします。 詳細については、レシーバー設定画面を参照してください。

POST-TRIM CHANNEL METERING　SL-2 ソースからのオーディオ信号は、Scorpio チャネルのトリムで調整後の信号レベルを見ることができます。SL-2 ソースが Scorpio チャンネルにルーティングされていない場合、メーターに信号は表示されません。

RF FREQUENCY　レシーバーの周波数を MHz で表示。

TX BATTERY LEVEL　受信している TX のバッテリー残量を表示。
緑色 ＝ 50%以上
黄色 ＝ 20%以上
橙色 ＝ 10%以上
赤色 ＝ 10%未満。

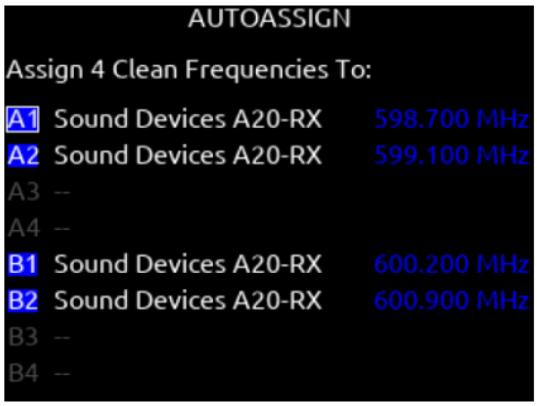
Transmitter Record Status　受信中の送信機の記録状況を表示(対応機種のみ)。赤色 ＝ 記録中

Transmitter Status Box　（A20-RX/A10-TX のみ）
A10-TX：ペアの送信機ミュート、リミッター、およびオーディオ過負荷ステータスを示します。
A20-Mini, A20TX：ペアリングされた送信機のミュート状態を示します。 A20-Mini または A20-TX 信号を受信している 8 シリーズ チャネルに対して、リミッターとオーディオ オーバーロード インジケーターが表示されます。
青色の「M」= TX ミュートオン
黄色の「L」= TX Limiting
赤色の「O」= TX オーディオオーバーロード

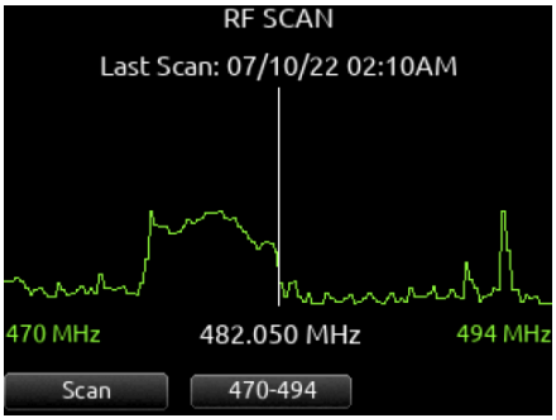
RF LEVEL HISTORY　RF LEVEL HISTORY は一定期間の RF レベルを表示します。 RF ヒストリー期間は、SL-2 オプション> RF History Duration パラメータで 10 秒ステップで 30～600 秒に設定され、デフォルトは 30 秒です。 緑のバーが高いほど、受信した RF 信号は良好になります。 赤いバーは受信機の RF 過負荷を示します（A10-RX のみ）。

RX ANTENNA ICON　RF 信号の状態を示します。
白色点灯 ＝ アンテナ信号にロック
白色点滅 ＝ アンテナ信号のロックが解除されています
赤色点灯 ＝ アンテナ信号のオーバーロード
灰色 ＝ レシーバーが検出されていません

AUTO （A20-RX のみ）クリーンな周波数をスキャン後にレシーバーチャネルへ自動で割り当てます。 トーントグル操作でプロセスを開始します。 オートアサインスキャンが完了すると、AutoAssign 画面が表示されます。 Select ノブを操作して、周波数を割り当てるレシーバーチャネルを選択します。 選択したチャネルに割り当てられるクリーン周波数が表示され、HP ノブを押すと周波数がアサインされます。



RF SCAN 受信機のモデルに応じて、一方または両方の受信機を使用して環境の RF スキャンを開始します。 */**トグルスイッチを使用してスキャンを開始します。



OPTIONS Rtn / Fav トグルスイッチを使用して SL-2 オプションメニューにアクセスします。

SL-2 OPTIONS

さまざまな SL-2 設定へのアクセスを提供します。

RECEIVER SLOT POWER
各スロットは個別にオン/オフできます
使用していないときに電力を節約する。

DC OUTPUTS　DC 出力 1 および/または 2 を有効/無効にします。

ANTENNA A/B POWER(BIAS)
12 V DC バイアス電力を供給
アクティブまたはスマートアンテナ。

ANTENNA ATTENUATION
RF オーバーロードした場合、減衰量を調整できます。 0～-18 dB を 6 dB ステップで選択。

ANTENNA FILTER
SL-2 のフロントエンド フィルターを選択して、帯域外 RF ノイズが範囲に影響を与える可能性を減らします。 広帯域、169 ～ 235 MHz、470 ～ 614 MHz、542 ～ 694 MHz、606 ～ 770 MHz、770 ～ 960 MHz、1240 ～ 1525 MHz から選択します。

ANTENNA LEDs
アンテナ LED は、On/Off を切替えられます。

REMOTE ANTENNA CONTROL
Remote(Smart)アンテナ制御の有効/無効を設定。

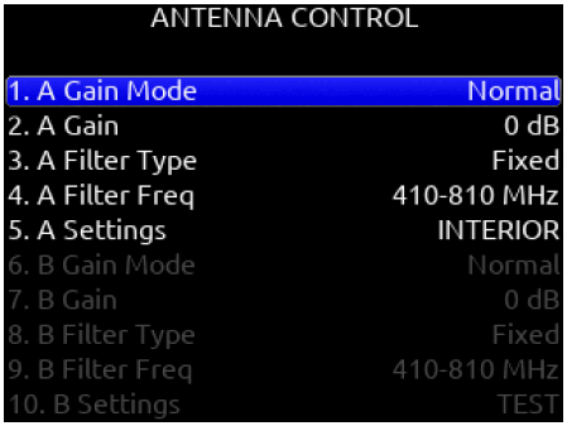
REMOTE ANTENNA SETUP
“Remote Antenna Setup” の章をご覧ください。

RF HISTORY DURATION
RF HISTORY プロットの期間を設定します。 10 秒ステップで 30～600 秒を選択します。デフォルトの持続時間は 30 秒です。

Use Wireless Names
On で、受信機チャネルに関連付けられた名前が、信号を受信する分離されたトラックに自動的に適用されます。 この機能は、Audio Ltd. A10-RX、Shure ADX5D、WisycomMCR54 でサポートされています。

Unislot Audio Mode
Unislot スロット レシーバーからのアナログまたはデジタル オーディオ出力の手動選択を有効にします。これにより、デジタル オーディオをサポートしているが、「SuperSlot」モードではサポートされていないレシーバーを使用できるようになります。

REMOTE ANTENNA SETUP
接続したリモート（スマート）アンテナの各種設定を行います。
リモート アンテナ コントロールがオフの場合、および/またはリモート アンテナが検出されない場合、メニューはグレー表示されます。
リモート アンテナにはバイアス パワーが必要です。 SL-2 は、Wisycom LFA スマート アンテナと BFA スマート フィルターをサポートしています。

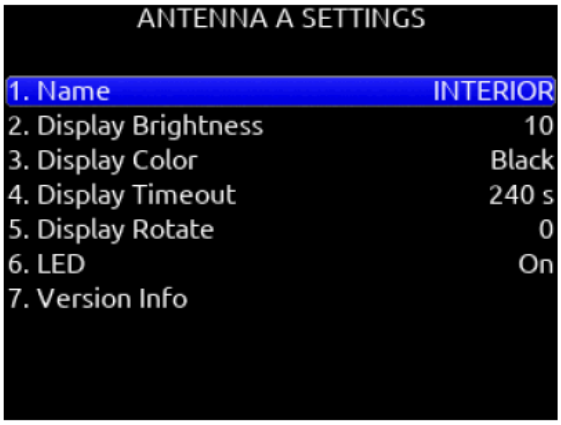


Antenna A/B Gain
アンテナ A または B のゲインを 1 dB ステップで設定します。 [オフ、バイパス、-12～27dB]

Antenna A/B Filter Type
アンテナ A または B のフィルタータイプを設定します。 [Tunable、NB、または WB] (Freq フィールドで選択: 410-810、410-700、410-600、470-810、470-700、470-600、510- 810、510-700、510-600); 注意（940～960MHz、周波数は 940～960 固定で変更不可）]

Antenna Frequency
アンテナ A または B のフィルター周波数を設定します。使用可能な周波数は、Wisycom LFA/BFA モデル、F1、F2、F3、または F6 によって異なります。 フィルター周波数の詳細については、Wisycom のドキュメントを参照してください。 [Filter が NB に設定されている場合、Frequency は 940 ～ 960 に固定され、変更できません。 Filter が WB の場合、Freq は 410-810、410-700、410-600、470-810、470-700、470-600、510-810、510-700、510-600 に設定できます。 Filter が Tunable に設定されている場合、Filter Frequency は 40 MHz ブロックで 410-450 から 690-730 まで 1 MHz ステップで調整できます。

Antenna A/B Settings
追加のアンテナ A または B 設定へのアクセスを提供します。



Name
アンテナ A/B の名前を表示します。

Display Brightness
アンテナ A/B の表示輝度を 1 単位で設定します。 [1-10]

Display Color
アンテナ A/B の表示色を設定します。 [白黒]

Display Timeout
アンテナ A/B 表示タイムアウトの時間を 1 秒単位で設定します。
【5 秒～240 秒】

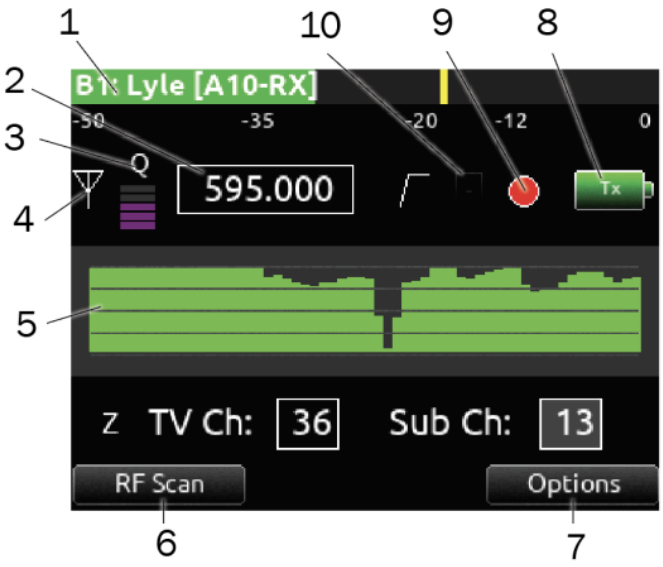
Display Rotate
アンテナ A/B 表示の回転を設定します。 [0 または 180]

LED
アンテナ A/B LED アクティビティを設定します。 [オンまたはオフ]

Version Info
Wisycom LFA-B-F1 に関するシステム情報を表示します。

Receiver Setup Screen

SL-2 または SL-6 が接続されている場合、サポートされている SuperSlot レシーバーのレシーバーセットアップ画面にアクセスできます。 受信機設定画面では、個々の受信機 RF スキャン、受信機設定のメニュー、RF 周波数調整、RF およびオーディオレベルの監視、送信機の録音ステータス、送信機リミッター/過負荷/ミュートステータス（A10-RX, A20-RX のみ）などにアクセスできます。 使用可能な送信機のステータスとメニュー設定は、受信機によって異なります。
SELECT ノブを操作して、レシーバーチャネル（SL-2 では A1-A4、B1-B4、または SL-6 では A1、A2、B1、B2、C1、C2）を選択して、Receiver Overview 画面から Reciever Setup 画面にアクセスします。



1: POST-TRIM CHANNEL METERING
SL-6 ソースからのオーディオ信号は、Scorpio チャネルのトリムで調整後の信号レベルを見ることができます。SL-6 ソースが Scorpio チャンネルにルーティングされていない場合、メーターに信号は表示されません。

2: RF FREQUENCY
レシーバーの周波数を MHz で表示。

A20-Mini: ペアリングされた送信機のミュート状態を示します。 A20-Mini 信号を受信する 8 シリーズ チャンネルのリミッターとオーディオ ロード インジケーターが表示されます。
青色で M = TX Mute On
黄色で L = Limiting
赤色で O = Audio Overload

3: Q-METER
A20-RX/A10-RX Q メーターは、送信機からの信号と干渉の差を 5 本のバーで表示します。 干渉がほとんどまたはまったくない周波数を選択すると、Q メーターに 5 本のバーが表示されます。 一部のサードパーティ製受信機には、独自のバージョンのこのメーターがあります。

4: RX ANTENNA ICON RF 信号の状態を示します。
白色点灯 = アンテナ信号にロック
白色点滅 = アンテナ信号のロックが解除されています
赤色点灯 = アンテナ信号のオーバーロード
灰色 = レシーバーが検出されていません

5: RF LEVEL HISTORY 一定期間の RF レベルを表示します。 RF HISTORY の期間は、SuperSlot > SL-2/SL-6 Option > RF History Duration パラメータで 10 秒ステップで 30～600 秒に設定され、デフォルトは 30 秒です。 バーが高いほど、受信した RF 信号は良好です。

RF History Level Setting は、描画されるデータのソースを決定します。 RSSI は緑色で表示され、品質は紫色で表示されます。 RF History Level オプションは、Audio Ltd A10-RX、Sound Devices A20-RX、Shure ADX5D、および WisycomMCR54 で利用できます。 黄色のバーは、受信機が RF 過負荷に近づいていることを示します（A20-RX のみ）。 赤いバーはレシーバーの RF 過負荷を示します（A10-RX、A20-RX、および ShureADX5D のみ）。 オレンジ色のバーは RF 干渉を示します（ShureADX5D のみ）。

6: RF Scan
個々の SuperSlot 受信機を使用して、環境の RF スキャンを開始します。 スキャンを開始するには、Mic/Tone トグル スイッチを使用します。 赤い線は、Wisycom MCR54 および MCR42 のスケルチ レベルを示します。 スケルチ レベルは個々の RX スキャン画面にのみ表示され、RF オーバービュースキャン画面には表示されません。

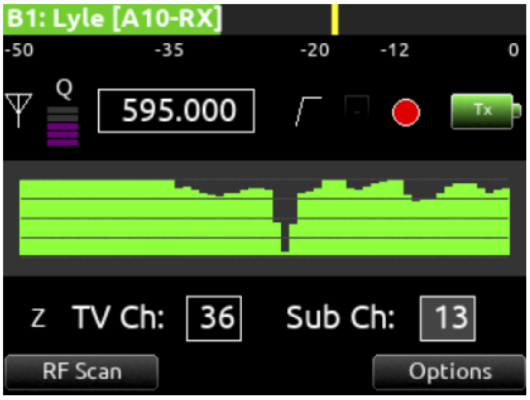
7: Options
選択した受信機の追加設定へのアクセスを提供します。 オプションは、選択した受信機のメーカーとモデルによって異なります。 詳細については、受信機の製造元が提供するユーザー ガイドを参照してください。

8: TX BATTERY LEVEL 受信している TX のバッテリー残量を表示。
緑色 = 50%以上
黄色 = 20%以上
橙色 = 10%以上
赤色 = 10%未満。

9: TX RECORD STATUS 受信中の送信機の記録状況を表示。(対応機種のみ)
赤色 = 記録中

10: TX STATUS BOX (A20/RX/A10-RX のみ)
A10-TX: ペアのトランスミッターの MUTE, Limiter, Audio Overload ステータスを表示。

A20-RX/A10-RX



GAINFORWARD(A20-MINI)
A20-Mini 送信機には、ワイヤレス送信機でマイクプリアンプのゲインを調整する必要がない新機能である GainForward が導入されています。 送信機からのオーディオレベルは、ミキサーのトリムコントロールで直接制御されます。 送信機に「配線」された後、タレントの話し方が小さすぎたり、エモートが大きすぎたりする場合は、ミキサーのゲイントリムを使用して送信機のゲインを調整するだけです。

ADJUSTING AUDIO OF THE A2-MINI SIGNAL FROM 8-Series
A20-Mini 信号を受信する A20-RX/A10-RX が SL-2 または SL-6 にスロットされている場合、A20-RX/A10-RX 入力メニュー設定はバイパスされ、すべてのゲイン、ローカット、リミッター アクティビティが無効になります。 蠍座によって実行され、制御されます。 詳細については、「A20-Mini/A20-TX および A20-RX/A10-RX ユーザー ガイド」を参照してください。

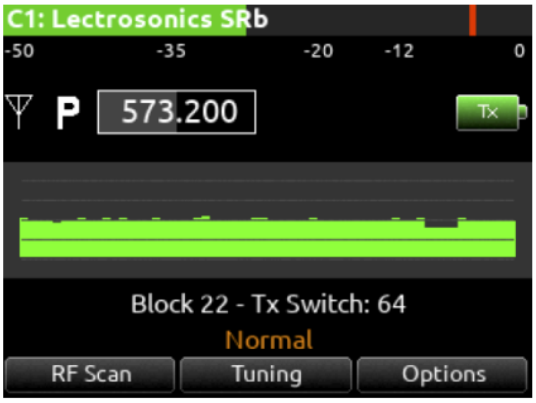
Scorpio が SuperSlot 経由で A20-Mini または A20-TX 信号を受信している場合、Scorpio のトリム ゲインは 0 ～ 60 dB の範囲で調整できます。 A10-RX または A20-TX レシーバー画面には、関連する Scorpio チャンネルのローカット、オーディオオーバーロード、およびリミッターアクティビティが表示されます。

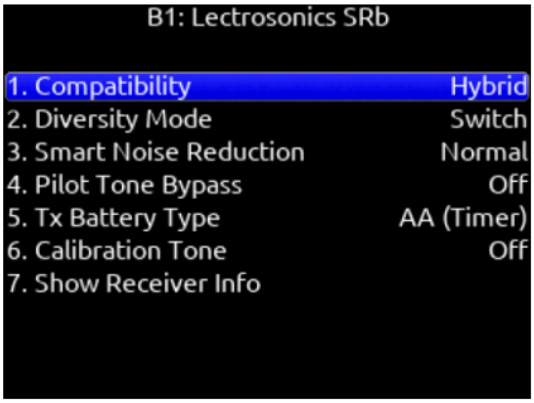
A10-TX は GainForward をサポートしていません。

USE WIRELESS NAMES FOR TRACK NAMES
A10-TX および A20-Mini 送信機名は、信号を受信するチャネルの ISO トラック名として自動的に適用されるように設定できます。 SL-2 または SL-6 オプションメニューで Use Transmitter Names を On に設定します。

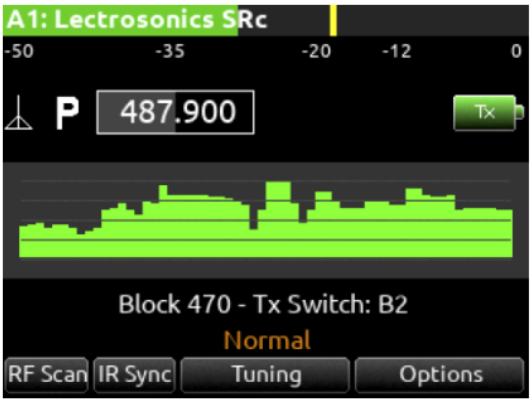
THIRD-PARTY SUPPORTED SUPERSLOT RECEIVERS
次のページは、サードパーティがサポートする SuperSlot レシーバーのレシーバーセットアップ画面とオプションメニューを示しています。 これらのレシーバーの機能の詳細については、製造元にお問い合わせください。

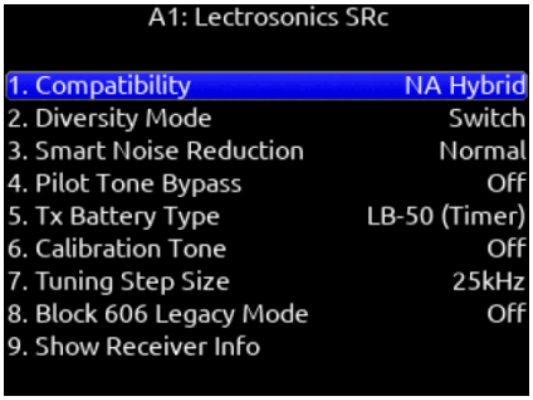
Lectrosonics SRB



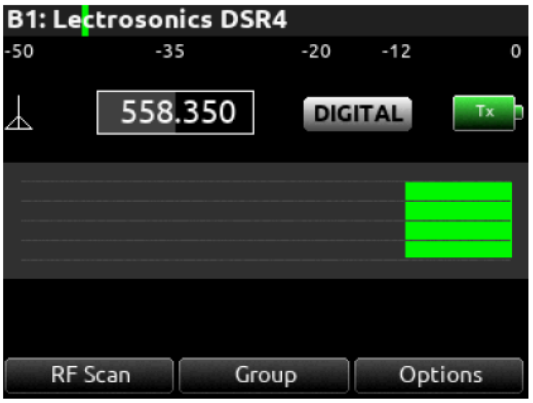


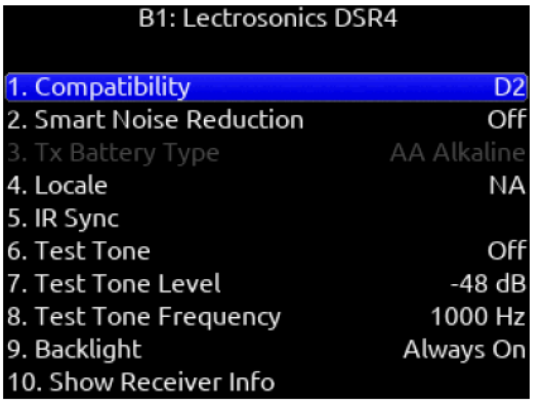
Lectrosonics SRC



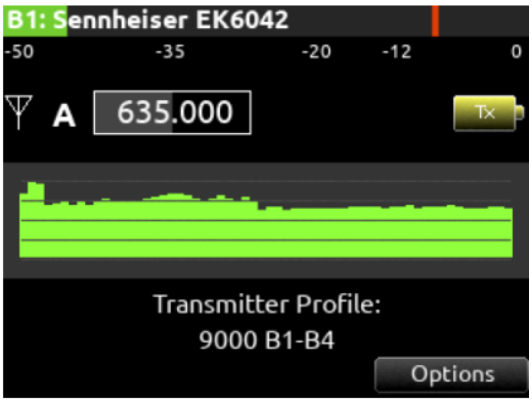


Lectrosonics DSR4

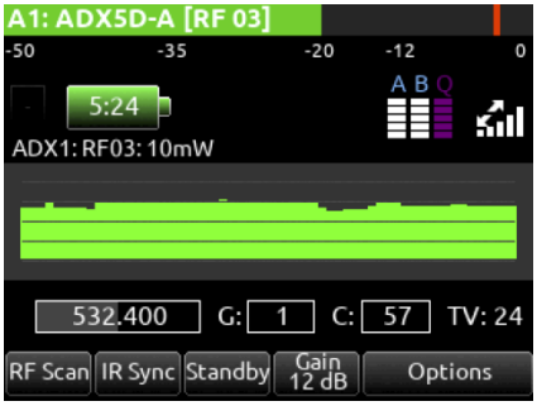


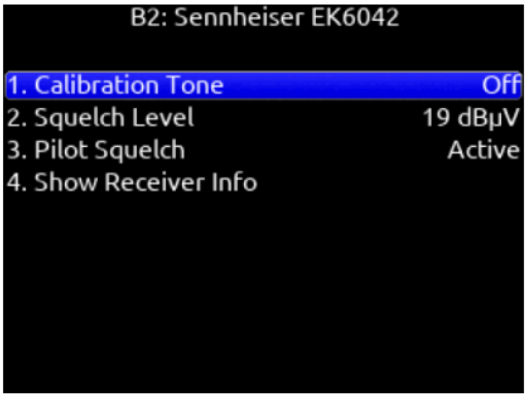


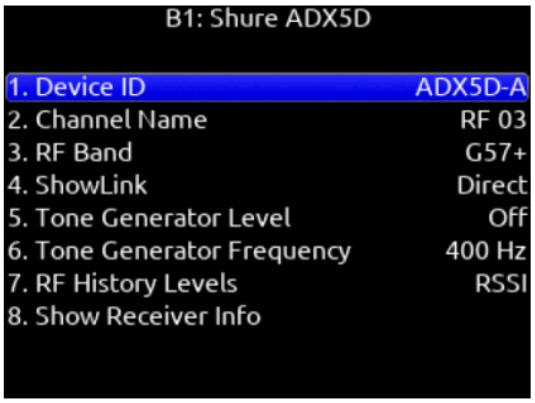
Sennheiser EK6042



Shure ADX5D





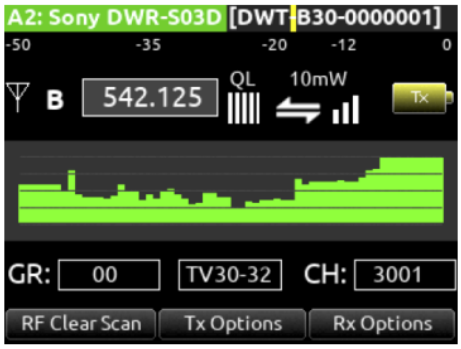


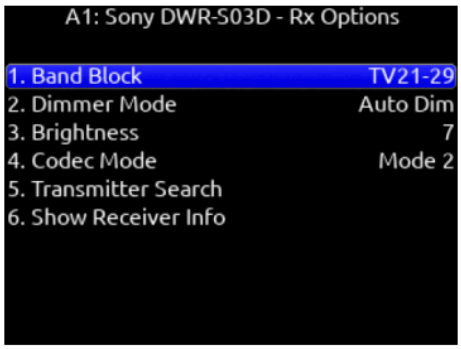
Shure ADX5D ユーザーインターフェースからレシーバーの再起動を要求するアクションを実行した後、SL-2 レシーバースロット電源または 8 シリーズ電源を入れ直す必要があります。 これには、Shure ADX5D の電源のオン/オフ、送信モードの変更、サードパーティコントロールの変更、またはファクトリーリセットの実行が含まれます。

Shure ADX5D の SuperSlot コントロールは、Device Cfg >> Advanced >> 3rd PartyControl がオンの場合にのみ使用できます。

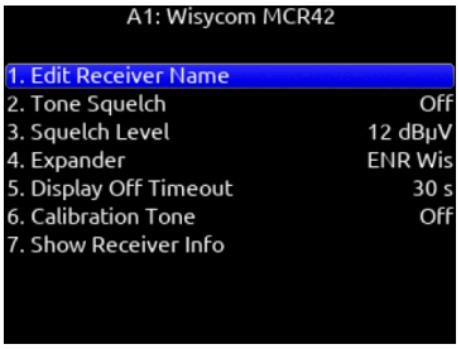
Shure ADX5D が高密度伝送モードの場合、グループとチャンネルは ADX5D インターフェースから設定する必要があります。

Sony DWR-S03D

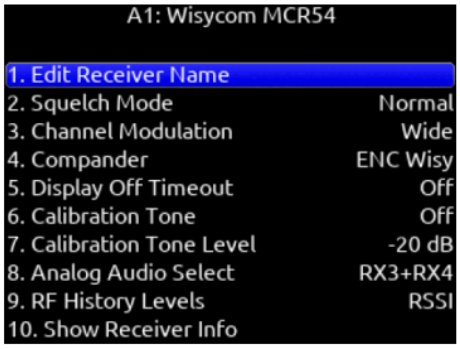




Wisycom MCR42



Wisycom MCR54



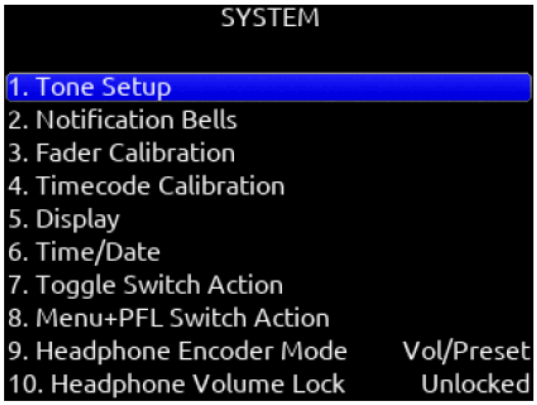
A20-Nexus/A20-Nexus Go

A20-Nexus は、便利な電源を提供する A20-QuickDock アクセサリを使用して、Sound Devices 833、888、または Scorpio ミキサー/レコーダーにドッキングできる、コンパクトな ½ ラック幅のシャーシに収められた超高性能マルチチャンネル ワイヤレス マイク レシーバーです。 オーディオ、およびタイムコードをケーブルなしで接続できます。 このアクセサリを使用すると、A20-Nexus を 833、888、または Scorpio に工具なしで数秒で接続および切断できます。

System

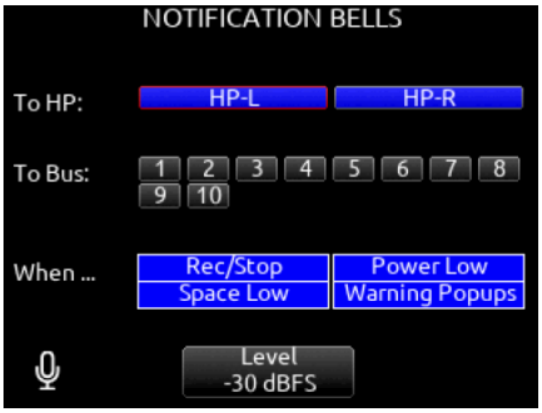
TONE SETUP　内部トーンジェネレータのレベル、周波数、ルーティングの設定。

1. Level -トーンジェネレータのレベルを 1 dB ステップで調整。 [-20～0 dBFS]
2. Frequency - 周波数を 10Hz ステップで調整。 1K [100～10 kHz]
3. Track – [1-16]
4. Output – [L,R, X1-X6]
5. Bus – [L,R, 1-8] （Menu 設定 toggle Switch Action で、Continuous か L-indent に設定できます。）



NOTIFICTION BELLS　ヘッドフォン警告ベルの設定。

1. To HP - 警告ベルをヘッドフォンに送る設定。[HP-L, HP-R]
2. To Bus - 警告ベルをバスへ送る設定。[L,R, 1-8]
3. When... - 警告ベルを発する時のイベントを設定。[Rec/Stop, Space Low, Power Low, Warning Popup]
4. Level – 警告ベルの音量を 1 dB ステップで調整。 -30 [Muted, -60 ～ -12 dBFS]



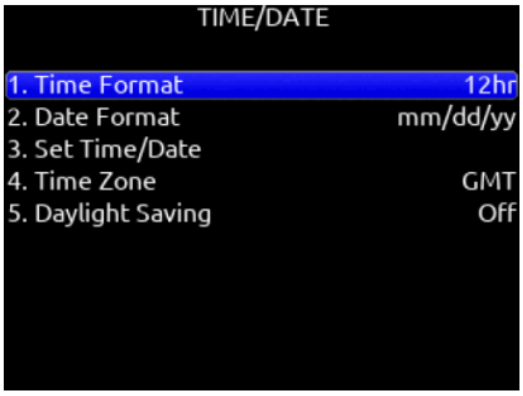
FADER CALIBRATION　すべてのフェーダーを手動でキャリブレート。

TIMECODE CALIBRATION　タイムコード・クロック精度を外部 LTC にチューンします。

Display
LCD ディスプレイを構成するためのさまざまなオプションが用意されています。

1. Daylight Mode: On にすると、背景色が黒から白に変わり、明るい日光の下でも見やすくなります。 視認性を最適化するために、すべての UI 要素の色が変更されます。 デイライト モードを変更すると、メーター ビューに戻ります。 ヒント: デイライト モード設定にすばやくアクセスするには、メニュー + PFL ショートカットを表示メニューに設定します。
2. LED Brightness: フロントパネルの LED の明るさを 1%単位で選択します。[1%-100%]
3. LCD Brightness: LCD を 10%ステップで選択します。[10%-100%]

TIME/DATE 現在の日付と時刻の設定。
a. Time Format – [12hr, 24hr]
b. Date Format – [mm/dd/yy, dd/mm/yy, yy/mm/dd]
c. Set Time/Date – 現在の日付と時刻の設定。
d. Time Zone – [-12 ～ +13 hours GMT] ← 日本は +9 に設定。
e. Daylight Saving – [On, Off] ← サマータイム設定。



TOGGLE SWITCH ACTION トグルスイッチに割り当てる機能の設定。

MENU + PFL SWITCH ACTION 何のメニューを Menu + PFL スイッチにアサインするかを選択。

HEADPHONE KNOB MODE ヘッドフォンノブの操作モードの設定。[Vol/Preset, Preset/Vol]

BLUETOOTH Bluetooth LE の設定 [On, Off] 。iPad か Android の SD-Remote と通信するには On に設定します。Password を設定して不正なリモートコントロールを防ぐことができます。

EXPANSION PORT トップパネルのマルチピンポートの電源を有効にします。[On, Off] ここに使用されるアクセサリーは、XL-AES か SL-2 です。

VERSION INFO ファームウェアバージョン表示。

REGULATORY コンプライアンス情報の表示。

FIRMWARE UPDATE すべてのメディアに存在する .prg データを順番に選択して、ファームウェアをアップデート。

PLUGINS 8-Series ミキサーレコーダーにインストールされているプラグインを表示します。プラグインは、8-Series のメディアに置かれて LIC ファイルで有効化されます。 プラグインは store.sounddevices.com で購入できます。

Plugins

プラグインは、Sound Devices ウェブページから購入できます。

888 は、次のプラグインを購入して御利用できます。

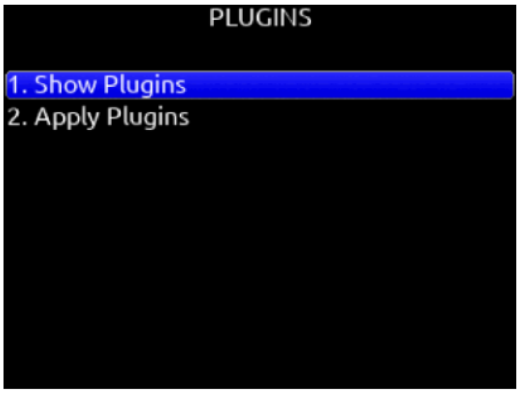
NOISEASSIST
8-Series 用のオプションの NoiseAssist プラグインを使用して、オンロケーションでバックグラウンドノイズを即座に抑制します。 任意のチャネルまたはバスに適用できる 2、4、8 のインスタンスから選択してください。

CEDAR SDNX
CEDAR sdnx は、CEDAR AudioLtd の高く評価されているノイズ抑制テクノロジーを 8-Series にもたらします。 任意のチャネルまたはバスに適用できる 2、4、および 8 のインスタンスから選択してください。

TO INSTALL A PLUGIN
プラグインに対応した firmware がインストールされているか確認してください。

1.プラグインストアからプラグインファイルをダウンロードします。
2.フォルダを解凍し、ライセンス（LIC）ファイルを見つけます。
3. LIC ファイルを 8 シリーズでフォーマットされた SD カードのルートに配置するか、ファイル転送モードで SSD に配置します。
4.SD カードを 8 シリーズに挿入します。
5. Menu > System > Plugin に移動します。
6.Plugin メニューで Apply Plugins を選択します。
プラグインがインストールされ、8 シリーズミキサーレコーダーが再起動します。

SHOW PLUGINS デバイスにインストールされている利用可能なプラグインを表示します。



Noise Suppression Plugins

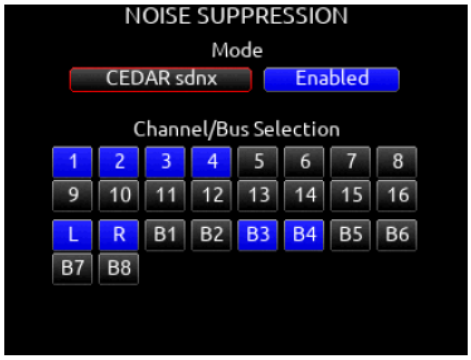
8-Series 用の CEDAR sdnx または SoundDevices NoiseAssist の有償オプション・プラグインを導入すると、オンロケーションでバックグラウンドノイズをすばやく抑制できます。

CEDAR SDNX
過去数十年にわたって、CEDAR は、リアルタイム、低遅延、アーティファクトのないオーディオ復元およびノイズ抑制の代名詞になりました。CEDAR Audio Ltd.の sdnx は、CEDAR の高く評価されているノイズ抑制テクノロジーを 8 シリーズミキサーレコーダーにもたらします。このオプションのプラグインは、不要なバックグラウンドノイズを低減するため、ダイアログをより適切にキャプチャできます。

CEDAR sdnx のレイテンシーはほぼゼロで、抑制の量を調整するための 1 つの簡単なコントロールがあります。ミキサー-rcorder /デバイスごとに最大 8 つの CEDARsdnx インスタンスを使用できます。

これらのインスタンスは、分離されたチャネル（Scorpio の 17-32 を除く）またはバスの任意の組み合わせで実行できます。プラグインは、最大 96kHz のサンプルレートで機能します。
従来までは、CEDAR DNS 2 のような別個のハードウェアユニットハードウェアと 8-Series を組み合わせて利用する必要がありました。CEDAR とサウンドデバイスのコラボレーションにより、はじめて CEDAR テクノロジーがポータブルミキサーレコーダーで利用可能になりました。これからは 8-Series ハードウェアだけで、CEDAR ノイズサプレッションを利用できます。

CEDAR sdnx には、8 シリーズファームウェア v7.40 以降が必要です。プラグインの 2 インスタンスバージョンが、v7.40 以降を実行している 8 シリーズでデモモードを利用できます。（10 秒ごとにトーンバーストがオーディオ信号に介入します。）

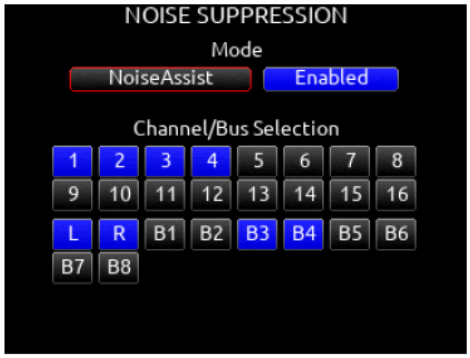


SOUND DEVICES NOISEASSIST
NoiseAssist は、トラフィック、ジェネレーター、HVAC ノイズなどのバックグラウンドノイズを低減する高度な信号処理アルゴリズムです。プラグインはバックグラウンドノイズを継続的に監視して、テイク全体でクリーンなオーディオを提供します。

NoiseAssist の使用は簡単で高速です。バックグラウンドノイズの量を調整するだけで抑制でき、あとは NoiseAssist が自動で調整します。サプレッションは、わずか 1 ミリ秒の遅延でリアルタイムに補正がかかります。ノイズを学習させる必要はありません。購入したプラグインに応じて、NoiseAssist の 2 つ、4 つ、または 8 つのインスタンスを、分離されたチャネルおよび/または任意のバスの任意の組み合わせで実行できます。

このアルゴリズムは、特にハイエンドのプロの映画やテレビの会話用に最適化されています。独自の高度なマルチバンド周波数、レベル、および統計計算を使用して、目的の音声信号をバックグラウンドノイズから正確に区別します。 NoiseAssist は、バックグラウンドノイズと残響を効果的に抑制しながら、オーディオチャネルの優れた周波数帯域幅を維持します。 NoiseAssist プラグインは store.sounddevices.com で購入できます。

NoiseAssist プラグインライセンスを購入してインストールする前に、デモモードで 2 インスタンスバージョンの NoiseAssist プラグインを試すことができます。（10 秒ごとにトーンバーストがオーディオ信号に介入します。） 8 シリーズの電源を切ると、NoiseAssist デモモードは無効になります。



MODE　NoiseAssist または CEDARsdnx を選択し、NoiseSupression を無効にするか有効にするかを選択します。 チャネルおよびバス画面の NoiseSuppression フィールドは、NoiseAssist がアクティブな場合は NA として表示され、CEDAR sdnx がアクティブな場合は NX として表示されます。

備考：トグルショートカットまたはマップされたコントローラーボタンにノイズサプレッションの enable/disable を設定し、オン／オフの効果をすばやく比較できます。

CHANNEL/BUS SELECTION　ノイズサプレッションの最大 8 つの（インストールされているプラグインに応じて）インスタンスと、それが適用されるチャネル 1～16 および/またはバスを選択します。 インスタンスの最大数がすでに選択されている場合は、別のインスタンスを選択する前に、1 つのインスタンスの選択を解除する必要があります。

備考：ノイズ抑制は、L、R、B1、B2 バスからオーディオを受信するバスに適用された場合にのみ、ISO とリターンバスソースの組み合わせに影響します。

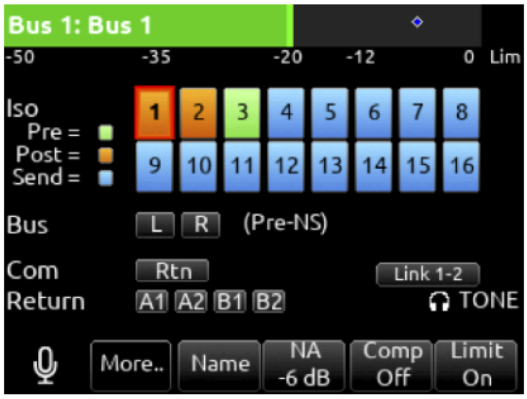
備考：
NoiseAssist と CEDARsdnx を同時に使用することはできません。 NoiseAssist は、48.048kHz 以下のサンプルレートでのみ使用できます。
CEDAR sdnx は、96kHz 以下のサンプルレートでのみ使用できます。

ADJUSTING NOISE SUPPRESION
Noise Suppression メニューで、Noise Suppression が有効になっていて、必要なチャネルやバスが選択されていることを確認します。

チャネル（1-16）の場合：PFL トグルを使用してチャネル画面に入ります。 Select エンコーダを操作して、NoiseAssist（NA）または CEDAR sdnx（NX）フィールドに入力します。 Select エンコーダを操作してチャネルに適用されるノイズ抑制の適用量を設定します。

バス L、R の場合：Menu>Buses に移動し、ノイズ抑制が有効になっている Bus L か Bus R のどちらかを選択します。 * / **トグルを右に押して NA または NX パラメータを選択し、Select エンコーダを操作してノイズ抑制の量を設定します。

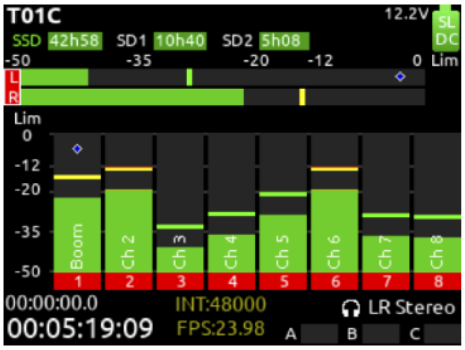
バス B1-8 の場合：Menu>Buses に移動し、ノイズ抑制が有効になっている[Bus 1-10]を選択します。 トーントグルを操作して、[More…]を選択し、* / **トグルを右に押して NA または NX パラメータを選択し、Select エンコーダを操作してノイズ抑制の量を設定します。



ノイズ抑制値の範囲は 0dB～-20 dB で、0 dB はノイズ減衰がないことを表し、-20dB はノイズ減衰の最大量を表します。

ノイズ抑制が有効になっているチャネルまたはバスでは、メーターにひし形が表示されます。 ひし形は、信号が含まれるすべての周波数帯域で平均化されたノイズ抑制の量に基づいて移動します。

メータースケールのひし形が低いほど、バックグラウンドノイズが減衰します。 音声信号が変化すると（たとえば、マイクがセリフを拾うとき）、ひし形がスケールの上部に移動します。これは、ノイズ抑制アルゴリズムがリアルタイムで信号を学習して適応していることを示しています。



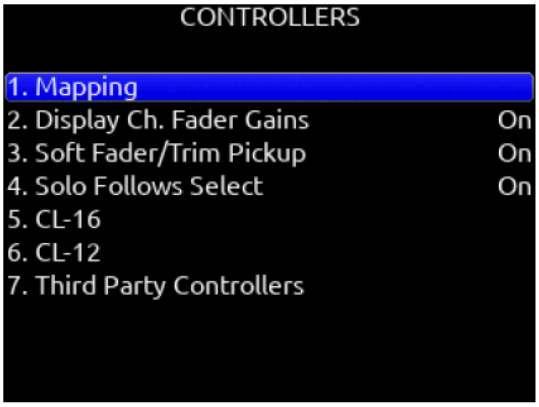
ノイズサプレッションを効果的に使用するには、デフォルト設定の-6dB から始めて、環境に応じて適用レベルを調整してください。音を着色せずにバックグラウンドノイズが低減される量が理想的です。

備考：チャネルまたはバスがリンクされていても、NoiseAssist および CEDARsdnx は自動的にリンクされません。

Controllers

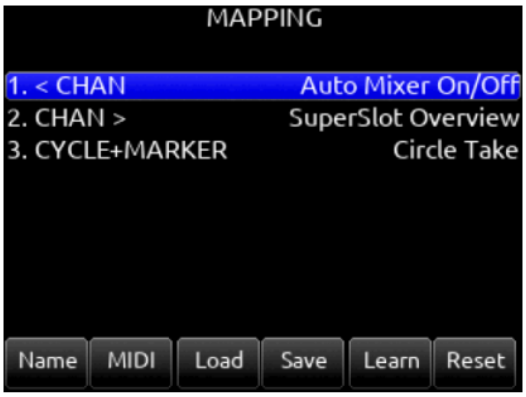
888 は、Sound Devices 製 CL-16 か CL-12 リニアフェーダーコントローラーか、MCU プロトコルのサードパーティ製外部コントローラを接続して使用できます。

コントローラは Scorpio の USB-A ポートに直接、または USB ハブ経由で接続できます。



MAPPING マッピング メニューを選択します。 マッピングは、コントローラのボタンの押下を学習し、それらを目的の機能にマッピングする機能を提供します。 2 つのボタンを同時に押す動作もマッピングできます。 注: 一部のボタンとボタンの組み合わせは予約されており、マッピングできません。

A. Name: コントローラーボタンの名前を任意に編集。
B. MIDI: 選択されたボタンファンクションのボタンネームと MIDI コードの切替。
C. Load: 保存されたボタンマッピング・プリセットの呼出し。
D. Save: 各／全メディアへ、ボタンマッピング・プリセットの保存。メディアを選択してから"Fav"をトグルして保存。
E. Learn: 学習ファンクションの選択。 Learn をトグルしてから、コントローラに学習させたい任意のボタンを押す。ボタンが学習されたら、HP エンコーダを押してアサイン可能なファンクション（下に表示される）のリストを表示させ、任意のファンクションを選択します。
F. Reset: 現在選択されているボタンマッピングを削除。



Mappable Functions
すべてのコントローラには、Scorpio で次のいずれかのアクションを実行するためのカスタム マッピング可能なボタンがあります。

Function	Action
Add Q-mark	Adds a Q-mark during record, playback, scrub or pause
Auto Mixer On/Off	Toggles the Auto Mixer on/off
Bus Mode	Bus Masters
Channel Groups Edit	Create/Edit channel groups
Channel Sends on Faders	Shortcut to put Bus sends on linear faders/toggle on/off
Channel Source Edit	Patch input to channel
Circle Take	Circle take
Com Send 1	Activates Com Send 1
Com Send 1 (Latch)	Activates Com Send 1 latching operation
Com Send 1 (Momentary)	Activates Com Send 1 momentary operation
Com Send 2	Activates Com Send 2
Com Send 2 (Latch)	Activates Com Send 2 latching operation
Com Send 2 (Momentary)	Activates Com Send 2 momentary operation
Com Rtn	Activates Com Rtn
Create Sound Report	Creates Sound Report to selected media
Current Take Notes	Edits the current takes notes
Current Take Number	Edits the current takes number
Current Take Scene Name	Edits the current takes scene name
Dante Out Edit	Shortcut to Dante Output Routing screen
Delete Q-mark	Deletes a Q-mark during record, playback, scrub or pause
EQ Mode	Spills EQ parameters over scribble strips, Fader Bank right to view last parameter. Push and hold V-Pot 1 to toggle EQ on/off, push each band's amplitude V-Pot to toggle on/off each band, push each band's Q V-Pot to toggle EQ type Shelf/Peak.
Fader Bank Left	Switches faders to left banks on connected controller
Fader Bank Right	Switches faders to right banks on connected controller
False Take	Activates False Take function
Fast Fwd	Press and hold to fast forward during playback
Fat Ch. Mode	Spills fat channel parameters across scribble strips
Fat Ch. Mode Bus	Spills fat channel bus parameters across scribble strips
Fav HP Preset	Recalls Fav HP Preset from Main Menu>Outputs>HP Presets
Fav Toggle	Emulates Fav toggle
Home	Activates Home screen and Trim knobs mode
HP Presets Menu	Shortcut to Main Menu>Outputs>HP Presets

Jog is HP	Switches Jog wheel to emulate HP knob
Jog is Select	Switches Jog wheel to emulate Select knob
Jog Wheel Press	Acts as "Select" while using jog wheel
L-ident	Identifies left channel output by varying amplitude vs. right channel with constant amplitude
LR Returns Meter	Activates the returns meter view
Menu	Emulates the Menu button
Meter	Emulates the Meter button
Mic Toggle	Emulates the Mic toggle
Mix Low Cut Mode	Activates all V-Pots to Low Cut mode on every channel. Push to reset to O Hz.
Mix Pan Mode	Activates all V-Pots to Pan mode on every channel. Push to center pan
Mix Trim Mode	Activates all V-Pots to Trim mode on every channel. Push to enter pan mode.
Nav Down	Moves the highlighted selection up one in matrix screens, emulates HP knob down in Home screen
Nav Left	Navigates back to previous screen
Nav Right	Selects the currently highlighted selection
Nav Up	Moves the highlighted selection down one in matrix screens, emulates HP knob up In Home screen
Next Take Notes	Edits the next takes notes
Next Take Number	Edits the next takes number
Next Take Scene name	Edits the next takes scene name
Noise Supp. Menu	Enters the Noise Suppression Menu
Noise Supp. On/Off	Toggles the noise suppression
Out Mode	Selects the output masters mode
Play	Plays the last recorded take
Play Remain Time	Selects the remaining time in the LED timecode display
Record	Starts record
Record Folder	Navigates to the record folder
Rewind	Rewinds during playback
Rtn A	Selects Rtn A toggle on/off
Rtn B	Selects Rtn B toggle on/off
Rtn Toggle	Emulates the Rtn toggle
SuperSlot Overview	Opens the SuperSlot Overview screen
Scene Inc	Brings up the Scene Inc Dialog box for incrementing Scene Name according to the setting in Files>Scene Increment Mode
Scene Name	Brings up the Scene Name Edit virtual keyboard screen for editing the current take's scene during record and the next take's scene during stop
Select	Selects the currently highlighted selection in menus and matrix screens
Slate	Toggles Slate on/off

Slate (Latch)	Toggles Slate latching operation
Slate (Momentary)	Toggles Slate momentary operation
Stop	Stops playback
SuperSlot Overview	Shortcut to SuperSlot view (when available)
Take List	Brings up the Take List
Timecode Jam	Brings up the Timecode Jam screen
Toggle Jog is Select	Toggles between Select and HP knob press
Tone	Toggles tone on/off
Tone Toggle	Emulates Tone toggle
* Toggle	Emulates * toggle
** Toggle	Emulates ** toggle

DISPLAY CH. FADER GAINS　コントローラのディスプレイにフェーダーゲインを表示するかどうかを選択します。[Off, On]
CL-16、サードパーティ製コントローラ、SD-Remote に適用

SOFT FADER/TRIM PICKUP [Off, On]
8 シリーズのフロントパネル、CL-16、CL-12、および非電動フェーダーを備えたサードパーティ製コントローラの物理的なフェーダーとトリムの設定です。On にすると、DSP 処理しているゲイン値にそれらの物理的位置が達した時にコントローラの制御が回復します。これは複数の制御インターフェースからゲインが変更されたときに、ゲインレベルが突然ジャンプするのを防ぎます。

備考：最後に保存されたゲイン値は次回電源再投入時に保持されるので、最後に保存されたゲイン値を取得するために、フィジカルなフェーダーやトリムの手動操作が必要になる場合があります。

備考：Soft Fader/Trim Pickup は、SD-Remote と連動して機能します。 8-Series は、SD-Remote で最後に調整されたゲイン値に trim か fader が到達するとコントロールを回復（ピックアップ）します。

SOFT FADER/TRIM PICKUP 設定が Off で、コントローラが接続されている場合、SD-Remote で制御されていない限り、8 シリーズのフロントパネルコントロールは無効になります。 SD-Remote が誤ってフェーダーゲインを変更するのを防ぐために SD-Remote のフェーダー非表示機能を使用してください。

備考：非電動フェーダーコントローラーと SD-Remote の両方が同時に使用されると、コントローラを操作してもソフトピックアップしません。

CL-16　CL-16 に関する設定です。
1. LED の輝度：5-100% を 5%単位で調整
2. LCD の輝度：5-100% を 5%単位で調整
3. ボタン長押し：5ms 単位で調整。[300- (500) -1000 ms]
4. Bank Disable: [On, Off]
5. GPIO Configuration: GPIO_1-GPIO_8 の設定。
6. Channel Colors: チャンネルストリップ 1-32 のバックグラウンドカラーのアサイン
7. Group Colors: LCD に表示されるグループ識別の色設定。
   （デフォルト：1=Yellow, 2=Oragne, 3=Light Blue, 4=Light Green
   Color option: Yellow, Orange, Light Blue, Light Green, Green, Light Brown, Brown, Violet, Pink
8. Gray Meters: Off か When Disarmed

CL-16 の詳細な操作については、CL-16 User Guide を参照ください。

CL-16 GPIO (GENERAL PURPOSE INPUT/OUTPUT)
Remote ラベルのある 10-pin Phoenix コネクターは、8 つの GPIO ポートを提供します。 これらは単純な接点入力として、また LED かリレーをドライブするために使用されます。

CL-16 REMOTE PIN FUNCTIONS
Ground(-)： ロジックの low に利用します。
1-8： 入出力、アクティブ high か low、ファンクションアサインに使用されます。
+5V DC： ロジックの high に利用します。

Active High 入力トリガー：+5V が適用された時。
Active Low 入力トリガー：GND が適用された時。
Active High 出力：マップされたファンクションの有効時。
Active Low 出力：マップされたファンクションの有効時。

GPIO 出力は、適切な直列抵抗のついた LED をドライブできます。抵抗値は LED により異なりますが、470 ohm 前後で試してみてください。

CL-16 は ESD（静電気）に対する保護を備えていますが、高誘導性負荷（リレー、ベルなど）は、誘導性電圧スパイクから保護するためにダイオードの追加による保護回路を検討ください。 具体的には駆動されているもののコイルの両端に逆並列でダイオードを追加してください。

CL-16 GPIO CONFIGURATION MENU

INPUT/OUTPUT Mic/Tone スイッチで切替

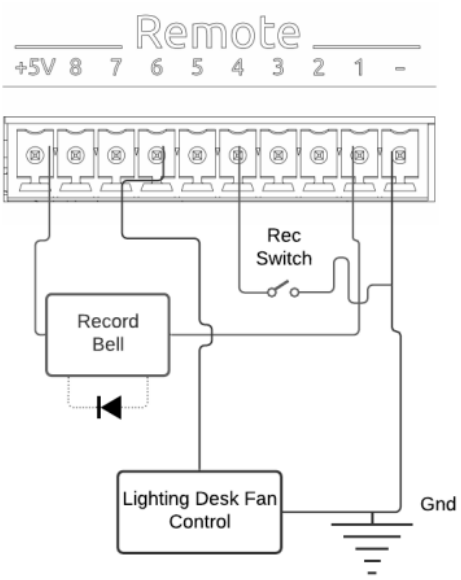
ACTIVE HIGH/ACTIVE LOW */**スイッチで切替

DEFAULTS GPIO_1=Record, 2=Play, 3=Stop, 4=None, 5=None, 6=Record, 7=Play, 8=Stop

AVAILABLE OPTIONS
None, Auto Mixer On/Off, Bus Mode, Channel Groups Edit, Channel Sends on Faders, Channel Source Edit, Circle Take, Com Send1, Com Send 1 (Latch), Com Send 1 (Momentary), Com Send 2, Com Send 2 (Latch), Com Send 2 (Momentary), Com Rtn 1, Com Rtn 2, Create Sound Report, Dante Out Edit, Edit Scene Name, Edit Take Notes, Edit Take Number, EQ Mode, Fader Bank Left, Fader Bank Right, False Take, Fast Fwd, Fat Ch Mode, Fat Ch Mode Bus, Fav HP Preset, Fav Toggle, Home, HP Presets Menu, Jog Is HP, Jog Is Select, Jog Wheel Press, L-Ident, LR Returns Meter, Menu, Meter, Mic Toggle, Mix Low Cut Mode, Mix Pan Mode, Mix Trim Mode, Nav Down, Nav Left, Nav Right, Nav Up, Out Mode, Play, Play Remain Time, Record, Rewind, Rtn A, Rtn B, Rtn C, Rtn Toggle, SL-6 Receiver Overview, Scene Inc, Scene Name, Select, Slate, Slate (Latch), Slate (Momentary), Stop, Take List, Take Notes Edit, Take Number Edit, Timecode Jam, Toggle Jog is Select, Tone, Tone Toggle, *Toggle, **Toggle

CL-16 GPIO WIRING DIAGRAM EXAMPLE

この例では、外部コンタクト・クローズスイッチにより録音スタートし、
GPIO 出力が録音ベルを鳴らし、照明ファンをオフにします。



録音ベル：
GPIO pin 1 の設定：
- Output
- Active Low
- Record

録音端子：クローズスイッチ：
GPIO pin 4 の設定：
- Input
- Active Low
- Record

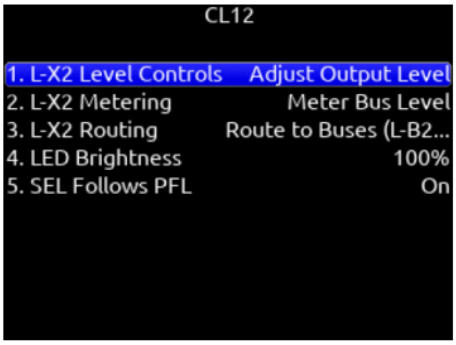
照明ファン制御（ファンをオフにするためのトリガーは+5V）：
GPIO pin 6 の設定：
- Output
- Active High
- Record

CL-12 CONTROLLER
12 チャンネルリニアフェーダーコントローラは、fader gain, PFL, Arm, EQ, buses, outputs, coms, transport, metadata などをコントロールできます。
操作の詳細については、CL-12 User Guide を参照ください。

1. L-X2 Level Controls: CL-12 の L-X2 ポットコントロールで Bus レベルか Output レベルをコントロールするか、ポットを無効にするかの設定。
2. L-X2 Metering: CL-12 の L-X2 メーターに Bus か Output のどちらのレベルを表示するかの設定。
3. L-X2 routing: CL-12 での L-X2 ルーティングを Bus L-X2 か outputs L-X2 のどちらかを設定。
4. LED Brightness: CL-12 LED 輝度の調整。
5. SEL Follows PFL: CL-12 のチャンネル SEL ボタンが押された時自動的にそのチャンネルが PFL モードに入るかの設定。

Tips:
Scorpio に CL-12 が接続された時、トリムゲインは Scorpio からのみコントロールできます。
Slate mic は、COM1 と COM2 を両方同時に押したときに、On/Off できます。
CL-12 から EQ を調整中、EQ 値が Scorpio のディスプレイの下に一時的に表示されます。

CL-12 を接続するには、USB-A to USB-A ケーブルが必要です。



Third Party Controllers

1. Require Shift for Arm: 選択すると、トラックをアームするには、外部コントロール サーフェスの「Shift」と「Rec」を同時に押す必要があります。[オンオフ]。 サポートされているサードパーティ製コントローラのみに適用されます。

2. Require Shift for Mute: 選択すると、チャンネル、バス、および出力をミュートするには、外部コントロール サーフェスの [Shift] を [Mute] と同時に押す必要があります。 サポートされているサードパーティ製コントローラのみに適用されます。

3. メイン フェーダー: サード パーティ製コントローラのメイン フェーダー コントロールのバスまたは出力を設定します。

4. 複数のコントローラ: 複数のコントローラが USB ハブを介して Scorpio に同時に接続されている場合、それらがスピルまたは個別モードで動作するかどうかを設定します。

   - SPILL: Spill モードでは、Scorpio に接続されたすべての MCU コントローラが 1 つの大きなコントロール サーフェスとして機能します。すべてのコントローラは同じモード (例: ミックス モード、バス モード、出力モードなど) で動作し、すべてのチャンネル ストリップはすべてのコントローラにまたがる単一のフェーダー バンクに結合し、すべての制御パラメータは利用可能なすべてのチャンネル ストリップに広がります。 たとえば、2 つの 8 フェーダー コントローラを使用するセットアップでは、フェーダー 1 ～ 8 がコントローラ 1 に、フェーダー 9 ～ 16 がコントローラ 2 にスピルされます。Bank Right ボタンは、フェーダー 17 ～ 24 をコントローラ 1 にバンクし、フェーダー 25 ～ 32 をコントローラ 2 にバンクします。 USB ハブのポート番号によって、どのコントローラがコントローラ 1 で、どちらがコントローラ 2 であるかが決まります。コントローラ 1 は、コントローラ 2 よりも小さい USB ポート番号に接続する必要があります。ほとんどのハブでは、USB ポート番号はマークされていないため、さまざまなポートを試してください。 ハブの USB ポートの番号付けを決定します。

   - INDIVIDUAL: 個別モードでは、各コントローラは独自の操作モードとフェーダー バンクで独立して動作します。 たとえば、これにより、ミックス モードでのメイン チャンネル ミックス用に 1 つのコントローラを使用し、バス モードでの IFB フィードまたはフェーダー モードでのバス センドのセットアップ用に別のコントローラを使用できます。 3 番目のコントローラは、出力モードでの出力制御に使用できます。

Control Modes

コントロール モードは、コントローラのフェーダー、VPot、およびその他のボタンの機能を決定します。
VPot は、各チャンネルのフェーダーの上にある多機能エンコーダ ノブです。

Mix Trim Mode (Home)
メイン LR バスへのチャンネルのミキシング用。 フェーダーをチャンネル フェーダーに、VPot をチャンネル トリムに切り替えます。 ミュート ボタンとソロ ボタンは、それぞれチャンネルのミュートとソロです。

Fat Channel Mode
トリム、パン、ソース、ディレイ、フェーズ、リミッター、HPF、EQ、バス センドなど、さまざまなチャンネル パラメータを編集します。

Mix Pan Mode
VPot を回転させてチャンネルのパンを調整します。 VPot を押して、パンを中央に設定します。 フェーダー、ミュート、およびソロは、引き続きチャンネルのミックス、ミュート、およびソロを制御します。

Mix Low Cut Mode
VPots を回転させてチャンネルのローカット周波数を調整します。 VPot を押してローカットのオン/オフを切り替えます。 フェーダー、ミュート、およびソロは、引き続きチャンネルのミックス、ミュート、およびソロを制御します。

Bus Mode
バスレベル調整用 B1-B10、L、R。 フェーダーをバス フェーダーに切り替えます。 ミュートとソロ ボタンは、それぞれバスのミュートとソロです。

Bus Sends-on-Faders Mode
フェーダーは、選択したバスへのチャンネル センドです。 さまざまな IFB フィード/ミックスの作成に最適です。

Output Mode
X1～X10、L、R の出力レベル調整用。 フェーダーを出力レベル コントロールに切り替えます。 ミュート ボタンは出力ミュートです。

EQ Mode
VPots を使用してチャンネル EQ を調整します。選択ボタンを使用して、調整するチャンネルの EQ を選択します。フェーダーは引き続きチャンネル ミックスを制御します。

Supported Third-party Controller

Scorpio はいくつかのサードパーティ製 MCU プロトコルの外部コントローラに対応します。 2 つのコントローラを同時に接続して拡張して使用できます。CL-12 コントローラを他のコントローラ・サーフェースと一緒には使用できません。

SONOSAX SX-CL8+ 1-8 のフェーダーとチャンネルセレクトを備えた 8 チャンネルのコンパクトフェーダーと、スレートマイク、録音、停止のコントロール。 Mic、Rec、Stop ボタンは、Mapping メニューを使用して他の機能にマップできます。LC8+ は一台のみ接続可能です。

Sonosax が USB Midi モードであることを確認してください。
1. 3 つのボタン 6,7,8 を同時に押しながら USB ケーブルを 8-Series に接続します。REC が点滅することでモードの変更が確認できます。
2. 8-Series をリブートしてください。

ICON PLATFORM M+と D2ディスプレイ 8チャンネルフェーダーバングにgain, bus, sends, coms, trim, panコントロールがあります。専用のSelect, Mute, Solo, Arm ボタンが各チャンネルにあります。Bank スイッチで Scorpio のチャンネル 1-32 に、8 つのバングのブロックごとにアクセスできます。

ICON PLATFORM X+ 8つのチャンネル・エクスパンション・フェーダーバンクに、アサイナブルなシングル・ノブ、Select, Mute, Solo, Arm ボタンがあります。

ICON PLATFORM B+
アサイン可能な照明付き 50 パッド ボタン表面。 ユーザーは、最大 50 個の関数をカスタム マップできます。
ミニ DIN ではなく、USB-A ケーブルで接続。

BEHRINGER X-TOUCH 8つのチャンネルトリムとフェーダーパネルに、マスターボリューム、追加用マッピングボタンがります。 8つのバンクで、Scorpio の 1-32 チャンネルに Bank スイッチでアクセス。

MACKIE MCU PRO 8つのチャンネルトリムとフェーダーパネルに、マスターボリューム、追加用マッピングボタンがります。8つのバンクで、Scorpio の 1-32 チャンネルに Bank スイッチでアクセス。

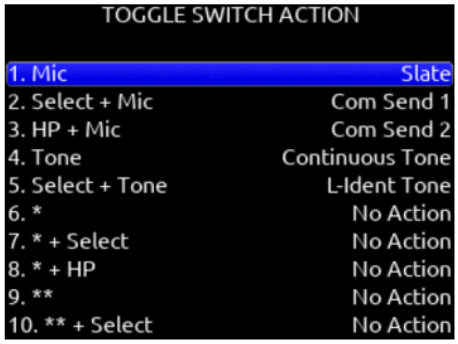
Studiologic SL-MixFace
マスター フェーダー、トランスポート コントロール、追加のマッピング可能なボタンを備えたコンパクトな 8 チャンネルのトリムおよびフェーダー パネル。 8 チャンネルの 4 つのバンクで Scorpio チャンネル 1 ～ 32 にアクセスするためのバンク スイッチ。 注: ソフト フェーダー/トリム ピックアップ機能は、バンクとコントロール モード間を移動するときにトリムとフェーダーの値をピックアップしません。あるバンクまたはコントロール モードから別のバンクまたはコントロール モードに移動した後にトリムまたはフェーダーを調整すると、オーディオ レベルが急激に変化します。

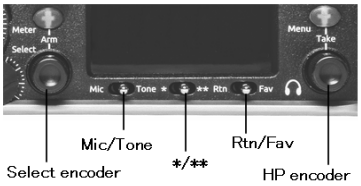
- SL-MixFace が REAPER DAW モードに設定されていることを確認します。
- 4 つのモード ボタン (Rec、Mute、Solo、Select) は、各チャンネル ストリップの下部にあるボタンの機能を決定します。
- SL-MixFace の上部パネルのマーキングに「PAN」と表示されていても、各チャンネル ストリップの上部にあるポットは常にチャンネル トリム ゲインにマッピングされます。
- 再生を一時停止するには、stop/playback ボタンを押します。 再生を停止するには、stop/playback ボタンを長押しします。

注: SL-MixFace には、CL-16、Waves Fit、Icon、Behringer などのように各チャンネルのディスプレイがないため、現在のコントロール モードまたはバンクが何であるかの表示がないことに注意してください。 各チャンネルの上部にあるポットは、コントロール モードとバンクに基づいて機能を変更します。

Waves midPlus Fit
メイン フェーダーと追加のマッピング可能なボタンを備えた 16 チャンネルのトリムおよびフェーダー パネル。 16 チャンネルの 2 つのバンクで Scorpio チャンネル 1 ～ 32 にアクセスするためのバンク スイッチ。 Waves MidiPlus Fit は、ファームウェア v1.1.3 以降を実行し、MCU モードに設定する必要があることに注意してください。 MCU モードに入るには、チャネル 1 の「Solo」ボタンとチャネル 2 の「2」ボタンを同時に押しながら、FIT をオンにします。

Toggle Switch Action





SELECT + MIC, HP + MIC, MIC をそれぞれ設定できます。Slate, Slate (Latch), Slate (Moment), Com Send 1, Com Send 1 (Latch), Com Send 1 (Moment), Com Send 2, Com Send 2 (Latch), Com Send 2 (Moment), Ch 13 Trim/PFL (latch), Ch 14 Trim/PFL (latch), Ch 13 Fader /PFL (latch), Ch 14 Fader/PFL (latch), Add Q-mark, Delete Q-mark, Create Sound Report, Record Folder, or No Action.

SELECT + TONE, TONE をそれぞれ設定できます。Continuous Tone, L-ident Tone Add Q-mark, Delete Q-mark, Create Sound Report, Record Folder, or No Action.

/* の設定 [Jam Menu, Jam A20-Mini Menu, Circle Take, Slate, Slate (Latch), Slate (Moment), Com Send, Com Send Latch, Com Send Moment, Rtn A, Rtn B, Com Rtn, Automixer On/Off, Noise Suppression On/Off, Take List, Take Notes, Take Number, Ch 9 Trim/PFL (latch), Ch 10 Trim/PFL (latch), Ch 9 Fader /PFL (latch), Ch 10 Fader/PFL (latch), Add Q-mark, Delete Q-mark, Create Sound Report, Record Folder, No Action, Next Scene Name (Edits the next take's scene name), Current Scene Name (Edits the current take's scene name and applies that to the next take), New Scene Name (Creates a new scene name, adds it to the scene name entry list and in record, applies it to the currently recording take and next take. In stop, it is applied only to the next take)]

*** + SELECT** の設定 [Ch 9 Trim/PFL (Moment), No Action]

*** + HP** の設定 [Ch 10 Trim/PFL (Moment), No Action]

**** + SELECT** の設定 [Ch 9 Fader/PFL (Moment), No Action]

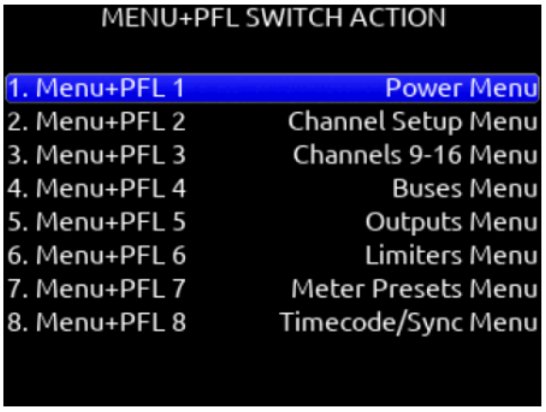
**** + HP** の設定 [Ch 10 Fader/PFL (Moment), No Action]

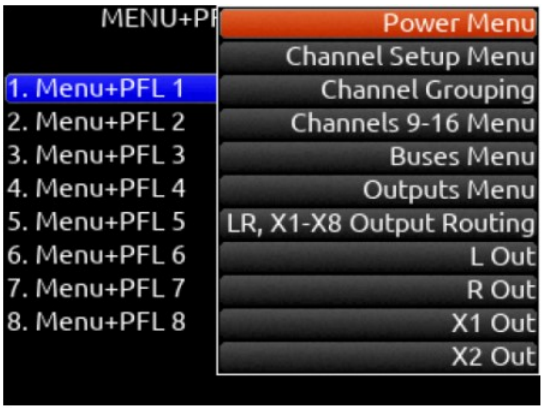
SELECT + RTN/HP + RTN/RTN の設定 [Rtn A, Rtn B, Com Rtn, Fav HP, Ch 9 Trim/PFL (latch), Ch 10 Trim/PFL (latch), Ch 9 Fader /PFL (latch), Ch 10 Fader/PFL (latch), Add Q-mark, Delete Q-mark, Create Sound Report, Record Folder, No Action]

SELECT + FAV, FAV + HP, FAV の設定 [[Rtn A, Rtn B, Com Rtn, Fav HP, Ch 9 Trim/PFL (latch), Ch 10 Trim/PFL (latch), Ch 9 Fader /PFL (latch), Ch 10 Fader/PFL (latch), Add Q-mark, Delete Q-mark, Create Sound Report, Record Folder, No Action]

Menu + PFL Switch Action

MENU + PFL SWITCH [1-8]
[Power Menu. Channel Setup Menu, Channel Groupings, Channels 9-16 Menu, Buses Menu, Outputs Menu, (LR, X1-X8 Output Routing), L Out, R Out, X1 Out, X2 Out, X3 Out, X4 Out, X5 Out, X6 Out, X7 Out, X8 Out, Dante Output Routing, Dante Out 1-16, HP Presets, Limiters Menu, Meter Presets Menu, Meter Preset 1-8, Timecode/Sync Menu, Jam Timecode, Set Generator TC, Set Generator Ubits, Lemo Options, Record/Play Menu, Track To Media, Files Menu, File List, Take List, File Name Format, Sound Report Info, Slate/Coms/Returns Menu, Slate Routing, Com Send Routing, System Menu, Tone Setup, Notification Bells, Brightness, Time/Date Menu, Toggle Switch Action, Menu+PFL Switch Actions, Controllers Menu, Automixer On/Off, Noise Suppression menu, Edit Scene Name, Take Number, Take Notes, Scene Name, Record Folder, SuperSlot Overview]





Front Panel Shortcuts

MENU + PFL ショートカットはデフォルトで設定されています。
これらは、System > Menu + PFL Switch Action でカスタマイズすることができます。

Menu + PFL Shortcuts	Action
Menu + PFL 1	Power Menu
Menu + PFL 2	Channel Setup Menu
Menu + PFL 3	Channels 9-16
Menu + PFL 4	Buses Menu
Menu + PFL 5	Outputs Menu
Menu + PFL 6	Limiters Menu
Menu + PFL 7	Automixer Menu
Menu + PFL 8	Meters Preset Menu

Toggle Switch Shortcuts	Action
Mic Toggle	As defined in the System/Toggle Switch Action menu.*Slate
Sel + Mic Toggle	As defined in the System/Toggle Switch Action menu. *Com Send
*/** Toggle	As defined in the System/Toggle Switch Action menu. *No Action
Rtn Toggle	As defined in the System/Toggle Switch Action menu. *Rtn A
Sel + Rtn Toggle	As defined in the System/Toggle Switch Action menu. *Rtn B
Fav Toggle	As defined in the System/Toggle Switch Action menu. *Fav HP
Sel + Fav Toggle	As defined in the System/Toggle Switch Action menu. *Com Rtn

Other Shortcuts	Action
Channel screen, then hold PFL for >1 sec	Edits Channel (Track) Name
Meter + Rotate HP knob	Zooms meter scale
Meter + Rotate Select knob	Adjusts LCD brightness
Meter + Select or Select +Meter	Arm or disarm Selected track
Meter + HP press	Accesses SuperSlot menu
HP + PFL 1-8	Selects HP Preset 1-8
Sel + PFL 1-8	Selects Bus 1-6, L,R
Meter + PFL 1-8	Selects Meter Preset 1-8
* Toggle + PFL 1-2	Selects Channel Screen/PFL 9-10
** Toggle + PFL 1-8	As defined in the System/Toggle Switch Action menu
HP + Left on Transport Control	False Take
Sel + Fav Toggle	As defined in the System/Toggle Switch Action menu. Default: Com Rtn

USB Kyeboard

1 台の USB キーボードを 888 の USB-A ポートに接続できます。
キーボードはメタデータ入力の用途に加え、次のショートカット操作ができます。

Key	Description
F1	メイン Menu に入る。
F2	Take List を表示。
F3	Menu を表示。
F5	Mic トグル操作
F6	Tone トグル操作
F7	*トグル操作
F8	**トグル操作
F9	Rtn トグル操作
F10	Fav トグル操作
F12	LR, 1-8 メータービューに戻る。
1,2,3...0	1-10 それぞれのチャンネルビュー
Ctrl + 1,2,3...0	11-16 それぞれのチャンネルビュー
Ctrl + R	Record
Ctrl + S	Stop
Spacebar	Play / Pause
Up arrow	チャンネル画面以外のほとんどの画面で：HP エンコーダを時計回転方向に回すのをエミュレート。 チャンネル画面とマトリクス画面で：SEL エンコーダを時計回転方向に回すのをエミュレート。 ホーム画面で：HP 音量の Up。Menu リストでカーソルの Up とパラメータ値変更。
Down arrow	チャンネル画面以外のほとんどの画面で：HP エンコーダを反時計回転方向に回すのをエミュレート。 チャンネル画面とマトリクス画面で：SEL エンコーダを反時計回転方向に回すのをエミュレート。 ホーム画面で：HP 音量の Down。Menu リストでカーソルの Down とパラメータ値変更。
Enter	Menu のハイライト状態のアイテムを選択。 メータービューで、HP プリセットリストを表示。
Ctrl + Up arrow	SEL エンコーダを時計回転方向に回すのをエミュレート。
Ctrl + Down arrow	SEL エンコーダを反時計回転方向に回すのをエミュレート。
Ctrl + Enter	SEL エンコーダ押しをエミュレート。
Ctrl + P	現在の画面表示をスクリーンショット。

X-KEYS® PROGRAMMABLE KEYPADS, STICKS & KEYBOARDS

X キーには、USB キーボードコマンドをエミュレートするようにプログラムできる、さまざまなコンパクトな触覚入力デバイスが含まれています。Windows 用のソフトウェア P.I. Engineering の MacroWorks で、さまざまなボタンとタクタイル・コントロールをプログラムすることができます。個々のコマンドまたはマクロコマンドとして上記の Scorpio の USB キーボードショートカットにマッピングすると、録音、停止、再生など、多くの機能にすばやくアクセスできます。Scorpio で使用するには、X-Keys デバイスを USB-A ポートに接続する必要があります。

詳細については、P.I. Engineering のウェブサイトを訪れてください。

SD-Remote

SD-Remote は、Scorpio とペアリングするように設計されたモバイル デバイス アプリケーションです。 SD-Remote は、Android タブレットおよび携帯電話では Google Play ストアで、または APK として www.sounddevices.com から、iPhone および iPad では App Store で入手できます。 Android タブレットは、USB 経由で Scorpio にハードワイヤード接続するか、Bluetooth LE 経由でワイヤレス接続することができます。 Android フォン、iPhone、または iPad は、Bluetooth LE を介してワイヤレスで Scorpio に接続します。 SD-Remote は、以下を含む制御および表示パラメーターを提供します。

1. Channel, Bus, and Output Meters
2. Channel, Bus, and Output Names
3. Channel, Bus, and Output Source selection
4. Channel, Bus, and Output Mutes
5. Channel and Bus Solos
6. Channel and Bus Record Arm/Disarm
7. Channel Trim Gains, Fader Gains, and Pans
8. Bus and Output Faders
9. Channel, Bus, and Output Linking
10. Channel and Output Delay
11. Channel HPF, Iso, Phase, Limiter
12. Transport-dependant Output Muting
13. Record, Stop, Play, FFWD, REW
14. False Take and Circle Take
15. Take List and Metadata Editing
16. Timecode
17. Routing Matrix
18. Reports
19. File Transfer

Google Play ストアまたは App Store から SD-Remote アプリをダウンロードしてインストールします。

SD-Remote は以下のシステムを要求します。

> iOS12 か iPadOS 13+ で動作する iPad
> iOS12+ で動作する iPhone
> Android タブレットでは、USB 接続に Android 6Marshmallow が必要で、デバイスは MIDI と BLE をサポートしている必要があります。

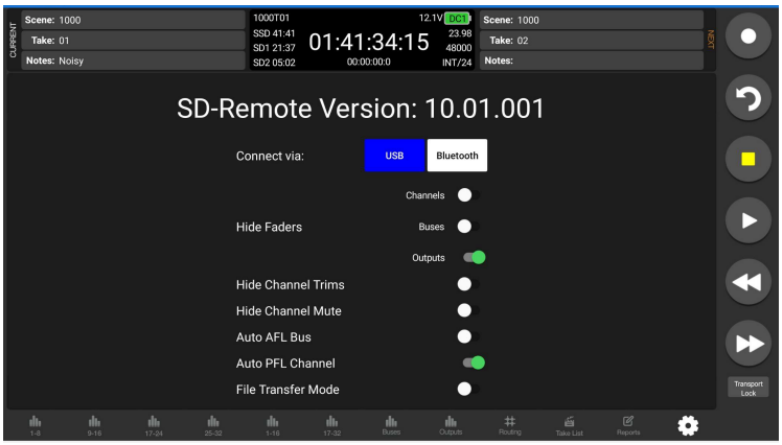
> Android スマートフォンおよびタブレットでは、BluetoothLE 経由で接続する場合に Android7 Nougat が必要で、デバイスは MIDI と BLE をサポートしている必要があります。

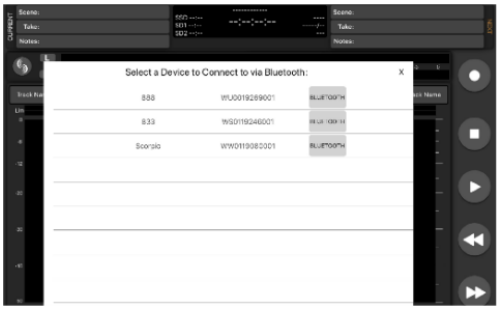
注 : 8-Series の電源を切る前に、SD-Remote アプリを閉じることをお勧めします。 これにより、次回の起動後に SD-Remote アプリが接続されなくなるのを防ぐことができます。 SD-Remote が 8 シリーズに接続しない場合は、アプリを完全に閉じてから再起動してください。

USB SETUP PROCEDURE FOR ANDROID TABLET
1. 8-Series の USB-A に Android タブレットを接続します。
2. SD-Remote アプリを開き、[settings icon]タブにアクセスして、 USB 接続を指定します。
3. Android で quick settings ドロップダウンメニューを開きます。
4. “USB Android System”を 2 回タッチして”Use USB to”を開きます。
5. “Connect a MIDI device”をタッチします。
SD-Remote が 8-Series を検知できない時、”No USB Connection” メッセージがポップアップ表示されます。

BLUETOOTH SETUP PROCEDURE FOR ANDROID
1. 8-Series の Menu>System>Bluetooth で、Bluetooth の設定を On にします。
2. SD-Remote アプリを開き、settings タブで “Connect via Bluetooth”を選択します。
3. Metering タブで Sound Devices ロゴにタッチして、Bluetooth 経由で通信できる 8-Series のリストを表示させます。 Devices Found リストが表示されると、現在選択されているデバイスの通信は停止します。
4. シリアル番号の隣にある BLUETOOTH ボタンにタッチすると 8-Series と接続が開始され、 ‘Connecting…’ が表示されたら、接続完了までしばらくお待ちください。通信完了すると SD-Remote メータービューが表示されます。
SD-Remote が 8-Series を検知できない時、”No Bluetooth Connection” メッセージがポップアップ表示されます。

適切な bluetooth LE 接続のために、Sound Devices XL-ANT2.4 アンテナを 8-Sereis の SMA ポートに装着してください。





BLUETOOTH SETUP PROCEDURE FOR IPAD AND IPHONE
1. 8-Series の Menu>System>Bluetooth を On にします。
2. SD-Remote アプリを開き、Sound Devices ロゴボタンにタッチして、Bluetooth LE 範囲にある 8-Series のリストを表示させます。Devices Found リストが表示されると、8-Series と通信していた Bluetooth LE が交信解除されます。
3. シリアルナンバーにタッチすると 8-Series と接続を開始され、’Connecting…’ と表示されます。接続に成功すると SD-Remote メータービューが表示されます。
SD-Remote が 8-Series を検知できない時、”No Bluetooth Connection” メッセージがポップアップ表示されます。

適切な bluetooth LE 接続のために、Sound Devices XL-ANT2.4 アンテナを 8-Sereis の SMA ポートに装着してください。

SD-Remote が選択した 8 シリーズ デバイスの存在を検出しない場合、
「No Bluetooth Connection」ポップアップが表示されます。

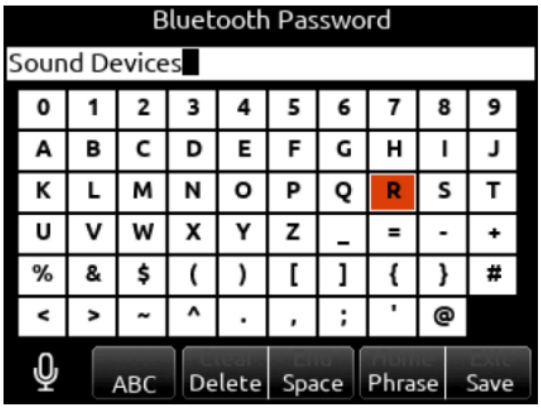
Bluetooth LE 接続を最適化するには、Sound Devices XL-ANT2.4
アンテナを 8 シリーズ デバイスの SMA ポートに取り付ける必要があります。

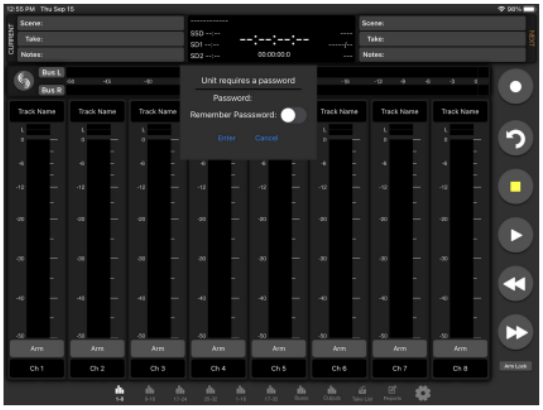
SETTING A PASSWORD

Bluetooth LE から 8-Series への不正なアクセスを防止できます。
1. メニューで、System-Bluetooth-Set Password に入ります。
2. オンスクリーンキーボードでパスワードを入力します。
3. Fav トグル操作で、Save を実行します。
4. "Set New Password" ボックスの Ok を実行します。
5. 上記手順に従って 8-Series と SD-Remote を接続させます。
6. 接続するために、タブレットでパスワードを入力します。
7. パスワードを再入力せずにタブレットを接続させるには、"Remember Password" をトグル操作してください。

TO REMOVE A PASSWORD

1. 8-Series メニューで System-Bluetooth Clear Passoword に入ります。
2. "Clear exsisting passowrd"ボックスの OK を実行します。





To Remove A Passoword

1. 8 シリーズ メニューで、System-Bluetooth-Clear Password に移動します。
2. "Clear existing password"ダイアログボックスで「OK」を押します

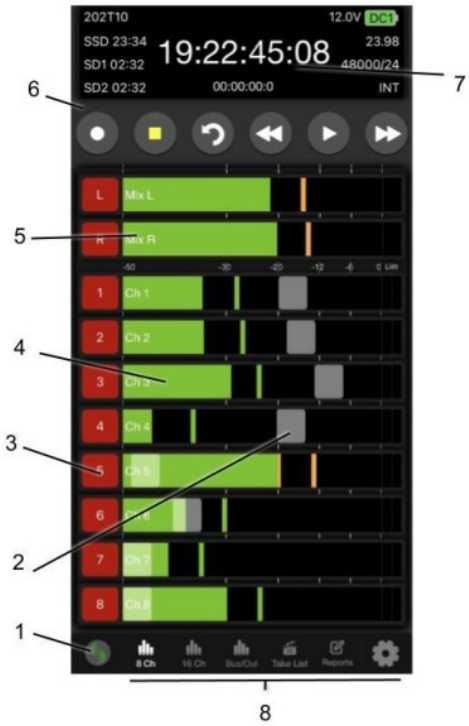
Meters View

TABLET

1. Fat Channel Screen Access
2. Mute
3. Track Arm
4. Channel Meter
5. Channel Trim
6. Channel Fader
7. Channel Name
8. Device Connection
9. Current Take Metadata
10. Left & Right Mix Meters
11. Information Window
12. Next Take Metadata
13. Transport Bar
14. Transport Lock
15. Arm Lock
16. Navigation Bar

PHONE

1. Device Connection
2. Channel Fader
3. Track Arm
4. Channel Meter & Channel screen Access
5. Left & Right Meters
6. Transport Bar
7. Information Window
8. Navigation Bar



DEVICE CONNECTION
Sound Devices のロゴにタッチして、Bluetooth または USB 経由で接続できる 8-Series ミキサーレコーダーのリストを表示します。 すでにデバイスに接続されている場合は、「接続の切断」ポップアップが表示されます。

INFORMATION WINDOW
現在のテイク名、パワーソースアイコン（Smart バッテリーは残%と残時間）、タイムコード、絶対時間、SSD、SD1、SD2 の残り時間、1 秒あたりのタイムコードフレーム、サンプルレートとビット深度、同期ソースを表示します。 ディスプレイは、録音中は赤に、再生中は緑に変わります。

NAVIGATION BAR
ナビゲーションバーさまざまなメータービュー、テイクリスト、サウンドレポート、および設定にすばやくアクセスできます。 タブレットビューを使用すると、利用可能なすべてのメーター画面にすばやくアクセスできます。 Phone 端末ビューでは、8 チャネルまたは 16 チャネルのメータリングを選択できます。 メーターを上にスワイプして、次のメーターバンクを表示します。

TRANSPORT BAR
Record, Stop, False Takes, Play, Rewind, Fast Forward ボタン

CURRENT TAKE METADATA (TABLET)
現在のテイクシーン、テイク、ノートの表示と編集ができます。 この情報は、テイクリストでも入手できます。 Phone 端末ビューは、メータービューのこのフィールドにアクセスできません。

NEXTTAKE METADATA (TABLET)
Next Take Scene、Take、Notes の表示と編集ができます。 この情報は、テイクリストでも入手できます。 Phone 端末ビューは、メータービューのこのフィールドにアクセスできません。

LEFT&RIGHT MIX METERS
左右のミックスバスのオーディオアクティビティを表示します。 トラックアームに触れて、録音用のバスをアームまたはアーム解除します。

CHANNEL NAME (TABLET)
タッチしてチャンネル名を編集します。 青いバックカラーは、チャネルがミュートされていることを示します。

CHANNEL NAME (PHONE)
チャンネル名を表示します。 チャンネル画面から名前を編集できます。 青いバックカラーは、チャネルがミュートされていることを示します。

Fat Channel Screen Access (Tablet)
タッチして、チャンネルの Fat Channel 画面にアクセスします。 黄色のバックカラーは、チャンネルが PFL 状態にあることを示します。

Channel Meter & Fat Channel Screen Access (PHONE)
チャンネルのオーディオアクティビティを表示します。メーターをタッチしてチャンネル画面にアクセスします。 メーターの周りの白い境界線は、チャンネルが PFL されていることを示します。

Channel Trim (Tablet)
タッチしてドラッグして、チャンネルのトリムゲインを調整します。 タブレットでは、メーターの上のチャンネル名のセルに、トリム調整時のゲイン dB 値が表示されます。 偶発的なトリム ゲイン制御を防ぐには、[設定] タブで [チャンネル トリムを非表示] を [オン] に設定してトリムを非表示にします。

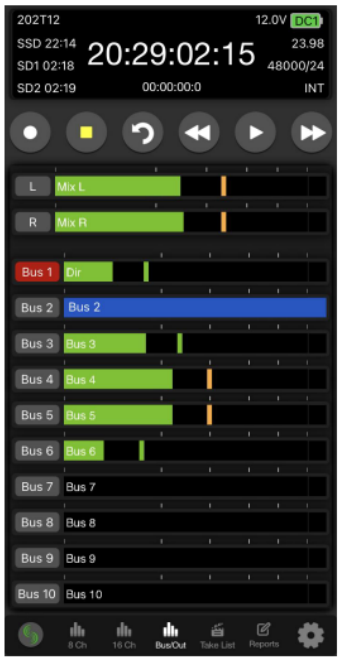
Channel Fader
タッチしてドラッグして、チャンネルのフェーダー ゲインを調整します。 タブレットでは、フェーダーを調整すると、メーターの上のチャンネル名のセルにゲイン dB 値が表示されます。 偶発的なフェーダー制御を防ぐには、[設定] タブで [チャンネル フェーダーの非表示] を [オン] に設定してフェーダーを非表示にします。

TRACK ARMS
タッチしてチャンネルをアーム/アーム解除します。録音中に複数のチャンネルをアーム/アーム解除するには、1 つのアームボタンを押し続けてから、他のボタンを切り替えます。 新しいスプリットテイクは、ホールドされたアームボタンを離したときにのみ作成されます。

ARM LOCK (TABLET)
偶発的なアーム/アーム解除を防ぐために、アームロックボタンを有効にします。

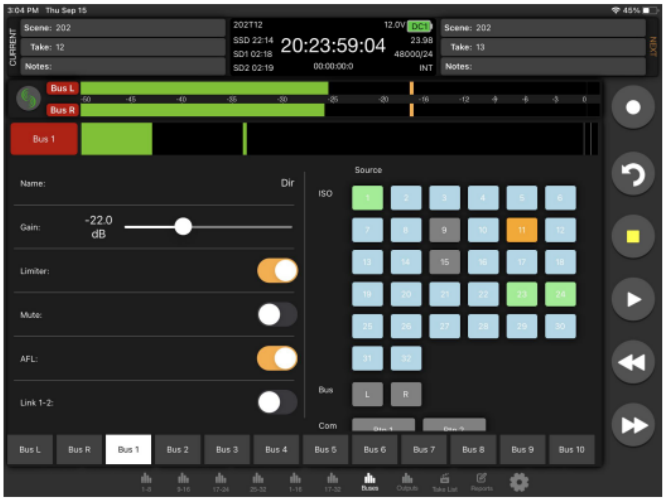
Fat Channel Screen
Fat Channel 画面から、チャンネルのオーディオ アクティビティを表示し、録音用に分離されたトラックをアーム/アーム解除し、トラック名を編集し、トリム ゲイン、フェーダー ゲイン、パン、ミュート、PFL、チャンネル ソース、HPF、Iso、遅延、位相を設定します。 リミッター、リンク。 タブレット ビューでは、画面下部のタブから他の Fat Channel 画面に直接アクセスできます。

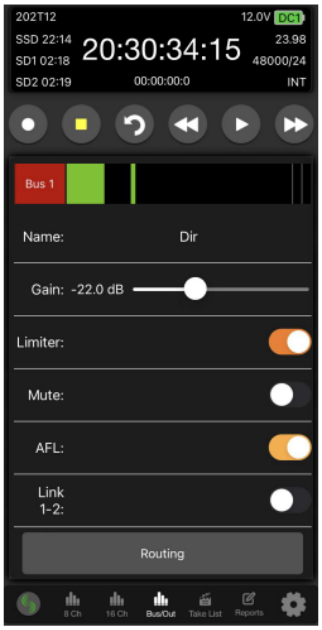
Bus Meters View
バス メーター ビューは、バスのメーターとコントロールを表示する点を除いて、チャンネル メーター ビューと似ています。
タブレットでアクセスするには、[バス] タブをタップします。 電話でアクセスするには、[Bus/Out] タブをタップします



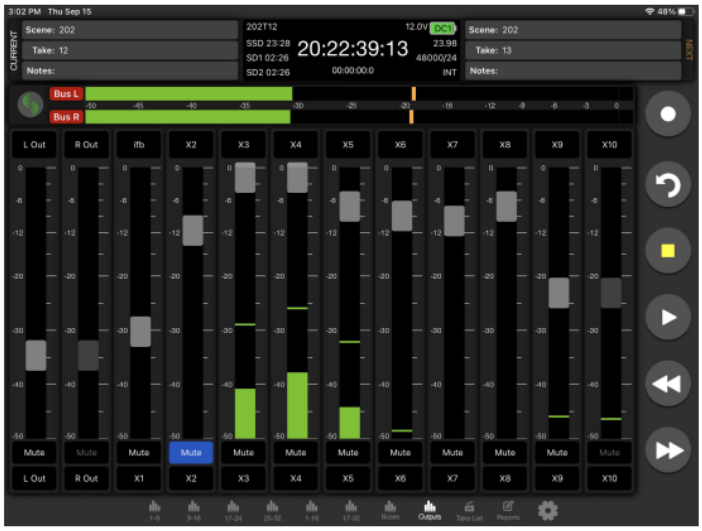
Fat Bus Screen
バスの詳細設定（Name、Gain、Limiter、Mute、AFL、Linking、Routing）は、次のように Bus Meters ビューからアクセスできる Fat Bus 画面から構成できます。

1. タブレットの場合は、各バス ストリップの下部にある Fat Bus Screen Access タッチ ゾーンをタップします。
2. 電話の場合は、バス メーターをタップします。





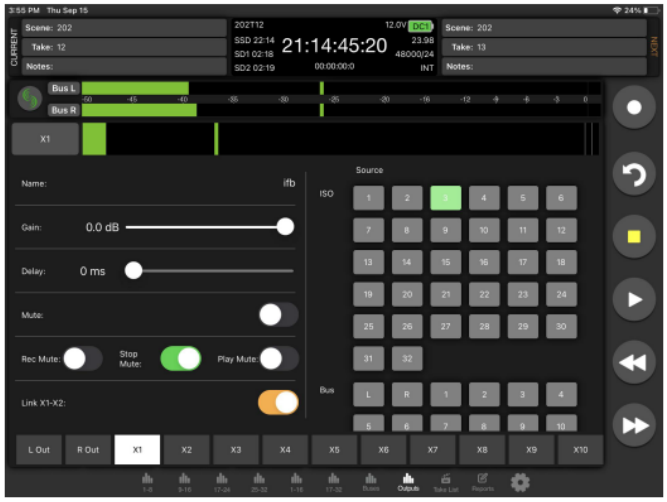
Output Meters View
出力メーター ビューは、出力のメーターとコントロールを表示する点を除いて、チャンネル メーター ビューとバス メーター ビューに似ています。タブレットでアクセスするには、[出力] タブをタップします。 電話でアクセスするには、[バス/アウト] タブをタップして上にスワイプします。



Fat Output Screen

出力の詳細設定（Name、Gain、Delay、Mute、Linking、Rec/Stop/Play Auto-mute、Routing）は、Outputs (タブレット) または Bus/Out (phone) メーターは次のように表示されます。

1. タブレットの場合は、各出力ストリップの下部にある Fat Out Screen Access タッチ ゾーンをタップします。
2. 電話の場合は、その出力メーターをタップします。 まず、[バス/アウト] タブを上にスワイプして、アウトプット メーターを表示します。



Routing Matrix (タブレットのみ)
「ルーティング」タブをタップします。 すべてのチャンネル、バス、出力のルーティングをワンストップで表示します。

右下隅にある [Mutiple Tabs] ボタンをタップすると、複数の To/From グループを一度に表示できます。 スワイプして、ルーティング マトリックスの他の行と列を表示します。 「-」をタップしてグループを折りたたみます。 「+」をタップしてグループを展開します。

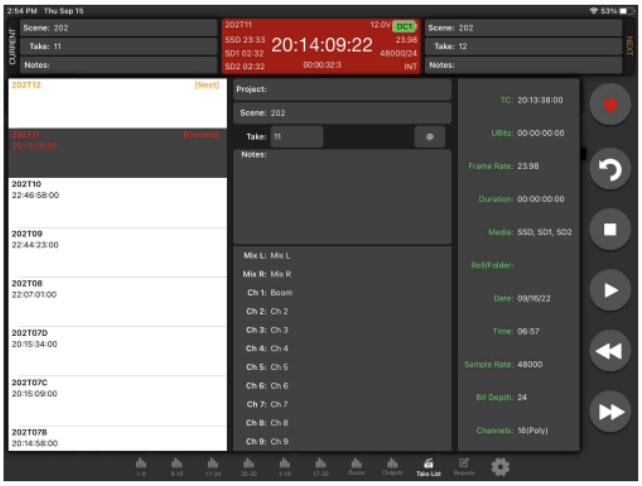
Take List
テイク リストから、次のテイク、現在のテイク、または前のテイクのメタデータを入力するか、再生するテイクを選択するか、テイク情報を表示します。タブレットのテイク リスト ビューには、テイク リスト、テイク編集、およびテイク情報ウィンドウが同時に表示されます。 電話機のテイク リストにはテイク リストが表示され、テイクを選択するとテイク編集ビューに入り、「i」アイコンを選択するとテイク情報ビューが表示されます。

停止モードでテイクの再生アイコンをタッチすると、そのテイクが再生されます。

Next Take Metadata
テイク リストから、次のテイク、現在のテイク、または前のテイクのメタデータを入力するか、再生するテイクを選択するか、テイク情報を表示します。タブレットのテイク リスト ビューには、テイク リスト、テイク編集、およびテイク情報ウィンドウが同時に表示されます。 電話機のテイク リストにはテイク リストが表示され、テイクを選択するとテイク編集ビューに入り、「i」アイコンを選択するとテイク情報ビューが表示されます。
次のテイクのシーン、テイク、付箋、メモ、およびトラック名を編集します。

Current and Previous Take Metadata
シーン、テイク、メモ、トラック名を編集し、現在または以前に録音されたテイクを丸で囲みます。

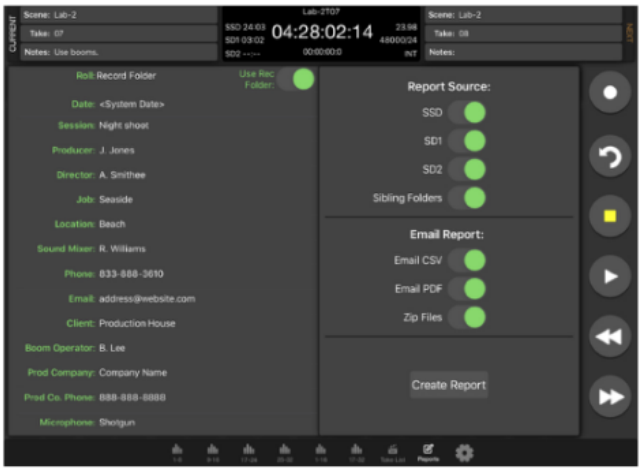
Take Info
timecode, user bits, frame rate, duration, media, roll/folder, date, time, sample rate, bit depth, channels, wav の Poly/Mono の情報を表示します。

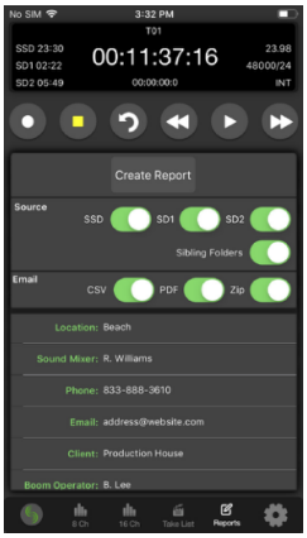


Sound Report

CREATE SOUND REPORT

1. 画面下部の"Reports"アイコンをタッチします。
2. 目的の情報が存在するソースを選択します。 "Sibling Folder を選択すると、同じディレクトリレベルのフォルダの同じレポートも含まれるようになります。
3. 送信するサウンドレポート形式を選択します。 Email CSV と Email PDF を選択します。
4. CSV ファイルと PDF ファイルを個別に送信するか、すべてを単一の圧縮.zip ファイルとして送信するかを選択します。
5. Create Report ボタンにタッチします。 サウンドレポートが選択したソースドライブに作成され、一方で Email でも共有されます。





現在アクティブなフォルダとは別の日のフォルダからレポートを作成するには、Take List > Next Take > Rec Folder と移動し、レポートを作成したいデータの入ったフォルダをハイライト表示させて、'Set Folder' を押します。
アクティブになったフォルダは、レコードフォルダの名前の後にオレンジ色で[current] と表示されます。

SD-Remote で複数のフォルダまたは日を 1 つのサウンドレポートにマージするには、‘Sibling Folders’ を有効にします。これにより、現在のレコードフォルダと同じディレクトリ階層レベルで、すべてのフォルダのすべての内容が印刷され、サウンドレポートが作成されます。

Settings

SD-REMOTE VERSION
バージョン番号を表示します。

CONNECT VIA (ANDROID)
接続方法を USB か Bluetooth かを選択します。

HIDE FADERS
メータービューからフェーダー表示を隠します。チャンネルスクリーンからはフェーダー操作可能です。

Hide Channel Trims (Tablet)
オンにすると、メータービューのフェーダーが非表示になります。 フェーダーはチャンネル画面で引き続き使用できます。

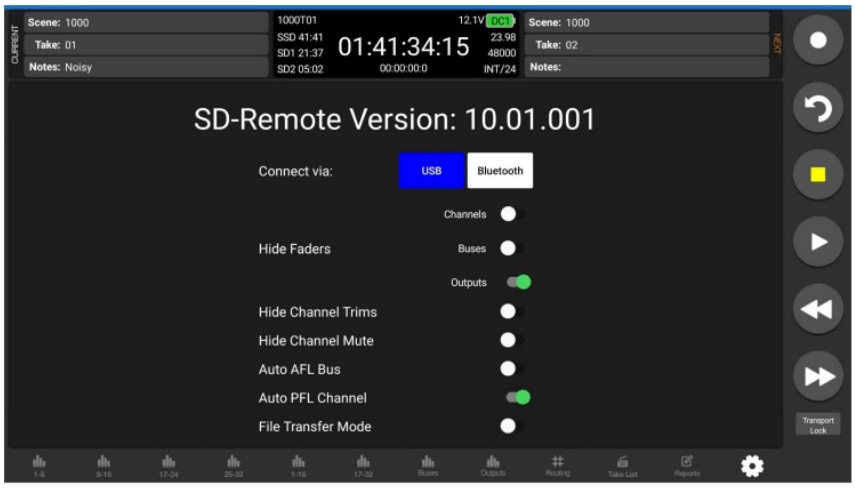
Hide Channel Mute (Tablet)
オンにすると、メータービューのフェーダーが非表示になります。 フェーダーはチャンネル画面で引き続き使用できます。

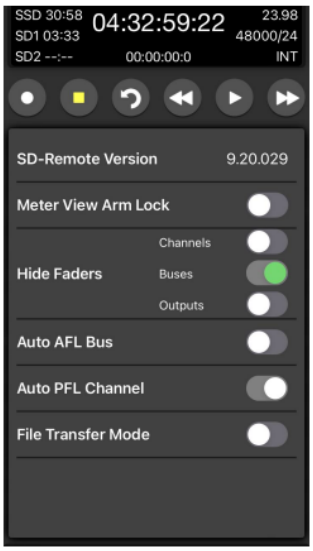
Auto AFL Bus
バスのファット バス画面にアクセスするときに、バスを自動的にソロにするかどうかを決定します。 Off に設定すると、バスは自動的にソロになりません。

Auto PFL Channel
Fat Channel 画面にアクセスしたときに、チャンネルを自動的にソロにするかどうかを決定します。 Off に設定すると、チャンネルは自動的にソロになりません。

METER VIEW ARM LOCK (PHONE)
メータービュー上で誤操作による
アーム操作を防ぎます。チャンネルスクリーンからはアーム操作可能です。

FILE TRANSFER MODE
8-Series をファイル転送モードにします。



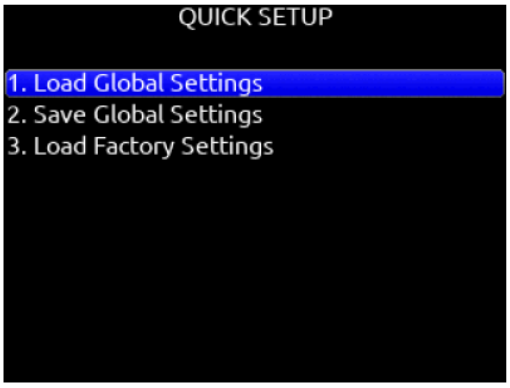


Quick Setup

Load Global Settings　セッティングファイルをロードするために選択。 ファイルは 8-Series の同モデルで作製されたものしかロードすることはできません。

Save Gloval Settings　さまざまな保存先へグローバルセッティングを保存。 [SSD Drive(internal), INT1-4(internal), SD1, SD2]

Load Factory Settings　ユニット全体を工場出荷時設定に戻す。



USB-A

USB-A は、Scorpio のさまざまな機能をコントロール、モニターするために複数のデバイスを接続できます。複数デバイスを同時に利用するには、USB-A タイプの hub が必要です。

USB-C

USB-C は、Scorpio のメディアとコンピュータ間で高速ファイル転送に利用できます。
*備考：USB File Transfer モード中は、他のすべての機能がサスペンドになります。

Scorpio の USB-C ポートを介して、2-In 2-Out USB オーディオを使用できます。 すべてのルーティングは、チャネルおよび出力ルーティングマトリックスを介して処理されます。
組み込みの OS ドライバーが適切に機能するため、特別なドライバーは必要ありません。
Windows OS ユーザー-最大 96kHz のサンプルレート、MacOS ユーザー-最大 192kHz のサンプルレート。
USB オーディオは、Windows 10 以降でサポートされています。

Dante

888 は Dante ネットワークに接続でき、44.1kHz から 96 kHz までのサンプルレートで最大 16 チャンネルのオーディオを同時に送受信できます。 888 チャンネル 1 ～ 16 は、Dante 受信チャンネル 1 ～ 16 から供給されます。 各 Dante 入力は、Channel Setup メニューでソースとして選択できます。 各 Dante 出力は、ISO (プリフェードまたはポストフェード)、バス、および出力 (ポストディレイ) から供給されます。 すべてのネットワークルーティングは、Audinate の Dante Controller アプリケーションを介して行う必要があります。

初期設定が実行されると、888 は電源を入れ直しても Dante 設定を維持します。 ほとんどの場合、Dante Controller の「Clock Status」タブで「Preferred Master」として 888 を選択することをお勧めします。

Specifications

仕様は予告なく変わる場合がございます。

Frequency Response
10 Hz to 80 kHz ± 0.5 dB (192 kHz sample rate, re 1 kHz)

THD + Noise
0.005% max (mic in, 1 kHz, 22 Hz–22 kHz BW, trim at 20, fader at 0, -10 dBu in)

Equivalent Input Noise
-131 dBV (-129 dBu) max (mic in, A-weighting, 76 dB gain, 150 ohm source impedance)

A/D converters
Multi-stage 32-bit converters, 140 dB A-weighted dynamic range
Sampling rates 44.1 kHz, 47.952 kHz, 48 kHz, 48.048 kHz, 96 kHz, 192 kHz

Processing Engine
Highly extensible, full FPGA-based audio processing, 3 FPGAs Six-way ARM multiprocessor system 64-bit audio processing precision

Audio over Ethernet
Dante, AES67 compatible
16 channels in, 16 channels out (up to 192 kHz)
1 Gb/s Ethernet, 1 port, transformer-balanced

Inputs
Mic/Line inputs: 8 total, all fully featured; 4 on full-size XLR, 4 on TA3
Mic-level inputs: (XLR, TA3): Class-A, discrete differential long-tail pair, 4k ohm input impedance
Line-level inputs: (XLR, TA3): active-balanced, 4k ohm input impedance
48V phantom: full 10 mA to all 8 inputs simultaneously
12 Total analog inputs: 8 mic-line inputs, 4 on returns
AES3 or AES42 available on XLR input 1
AES42: +10 V, 250 mA available, mode-1, auto-ASRC
USB Audio: 2 inputs
A20-Nexus: 8 inputs
SL-2 inputs: SuperSlot or UniSlot
Rtn A (TA3): unbalanced 2-channel, 4k ohm input impedance
Rtn B (3.5 mm): unbalanced 2-channel, 4k ohm input impedance
Com Rtn (TA3) balanced, 1-channel, 8k ohm input impedance
External Slate Mic (TA5): balanced, 8k ohm input impedance, menu-selectable 12 V phantom

Maximum Input Level
Mic: +8 dBu (2.0 Vrms)
Line: +28 dBu (19.5 Vrms)
Rtn A, B: +18 dBu (6.2 Vrms)
Com Rtn: +24 dBu (12.3 Vrms)
External Slate Mic: +12 dBu (3.2 Vrms)

High-Pass Filters
Adjustable 10 Hz to 320 Hz, 18 dB/oct. 1st stage analog (before preamp), 2nd stage digital.

Limiters
Limiters available at all channels, buses, headphones, for all sample rates
Analog first stage, all subsequent stages digital
Attack time: adjustable 1 to 200 ms
Release time: adjustable, 50 ms to 1000 ms
Threshold: adjustable, -2 dBFS to -12 dBFS
Selectable ratio: inf:1, 20:1, 18:1, 16:1, 14:1, 12:1, 10:1
Knee: soft, hard

Compressors
Compressors available at all channels (pre- or post-fade) and buses for all sample rates
Attack time: adjustable, 1 to 200 ms
Release time: adjustable, 50 ms to 1000 ms
Threshold: adjustable, 0 dBFS to -40 dBFS
Selectable ratio: adjustable, 1:1 to 20:1
Knee: soft, hard

Channel Delay
Channel Adjustable 0-50 ms

Maximum Gain
Trim stage (mic input): 76 dB
Trim stage (line input): 50 dB
Fader stage: 16 dB
Bus stage: 16 dB
Headphone stage: 20 dB
Mic-to-Line: 108 dB
Mic-to-Headphone: 112 dB
TA5 (along with mic input pins) for single connection to headset + mic
High output, 4 ohm output impedance, 400 mW + 400 mW at each connector, all individually driven
Compatible with headphones of any impedance

Buses
10 Buses (L, R, 1-8)
Left and Right Mix Bus receives post-fade isolated channels. Optional NoiseAssist plugin instances can be applied to any bus.
Buses 1-8 can receive pre-fade, post-fade, or independent send level from ISO channels, Returns A or B, and Com Return.

Outputs
XLR (L, R) active-balanced, 250/3.2k/120 ohms (mic/-10/line)
TA3 (X1-X4) active-balanced, 250/3.2k/120 ohms (mic/-10/line)
3.5mm (X5, X6, X7, X8): unbalanced, stereo, 1.8k ohms

Output Delay
Output Adjustable 0-500 ms

Headphone Outputs
¼", 3.5 mm
TA5 (along with mic input pins) for single connection to headset + mic
High output, 4 ohm output impedance, 400 mW + 400 mW at each connector, all individually driven
Compatible with headphones of any impedance

Maximum Output Level
(all into 10k load)
Line: +20 dBu (7.8 Vrms)
"-10": +6 dBu (1.5 Vrms)
Mic: -20 dBu (0.078 Vrms)
X5/X6 Out: +6 dBu (1.5 Vrms)
Headphone outputs (¼", TA5, X7/X8): +14 dBu (4.0 Vrms)

Digital Outputs
AES3 transformer-balanced, in pairs; 1-2 (XLR-L), 3-4 (XLR-R)
110 ohm, 2 V p-p, AES and S/PDIF compatible

Recording
Internal 256 GB SSD, two removable SD Cards
10% over-provisioned for optimum performance
Selectable bit depth: 16 or 24-bit fixed; 32-bit floating point (ISOs only)
Simultaneous recording to internal SSD and the two SD cards
exFAT formatting
20 tracks (16 ISO channels, 4 buses)
Broadcast WAV monophonic and polyphonic file format
64-bit WAV (RF64) monophonic and polyphonic; support for files > 4 GB
AAC 2 track at 48 kHz, selectable bit rate 32, 64, 128, 192, 256 kbps

Automatic Mixing
Dugan Automixer up to 16-channels on left and right mix bus
MixAssist up to 16-channels on Left and Right bus

Noise Suppression
Via optional paid Sound Devices NoiseAssist or CEDAR sdnx Plugins
Two, four, or eight instances of Noise Suppression can run on any combination of isolated channels, or buses.
Attenuation range: 0-20 dB
NoiseAssist operates with sampling rates of 44.1 kHz to 48.048 kHz.
CEDAR sdnx operates with sampling rates of 44.1 kHz to 96 kHz.
NoiseAssist audio path latency: 0.77 ms @ 48kHz
CEDAR sdnx audio path latency: 0.27 ms @ 48kHz, 0.14ms @ 96kHz

USB
USB-C (USB 3.1 type 1) for file transfer of internal SSD, both SD Cards
USB-C 2-in/2 out audio streaming
USB-A host for keyboard, external controller, external USB hubs supported for connecting multiple devices

Timecode and Sync
Modes Supported: Off, Rec Run, Free Run, 24h Run, External, including External Auto-Record and Continuous modes.
Frame Rates: 23.98*, 24, 25, 29.97 DF, 29.97 ND, 30 DF, 30 ND
Sample/Timecode Accuracy: 0.1 ppm (0.25 frames per 24 hours)
Timecode Input: 20k ohm impedance, 0.3 V - 3.0 V p-p (–17 dBu - +3 dBu)
Timecode Output: 75 ohm impedance, 5 V p-p (+7 dBu)
Word Clock Input: 10k/75 ohm selectable impedance, 1-5 V p-p input sensitivity
Word Clock Output: 75 ohm impedance, 5 V p-p output, at SR

Remote Control
Sound Devices CL-16 Linear Fader Controller
Sound Devices CL-12 Linear Fader Controller
USB MIDI MCU Control - supported 3rd party fader controllers
SD-Remote Android Tablet app via USB or Bluetooth LE
SD-Remote Android Phone app via Bluetooth LE
SD-Remote iPad and iPhone app via Bluetooth LE
USB Keyboard
External Timecode Record Trigger

File Delivery to Cloud
Compatible with Frame.io Camera to Cloud
Compatible with Viviana Cloud

LCD
320x240, transflective, excellent sunlight visibility
Larger touchscreen display available via SD-Remote app

Power
External: 10-18 V input on locking TA4 connector, pin-4 = (+), pin-1 = (-)
Dual rear-mount Sony-style L-mount batteries with chargers
Current Draw, at 12 V no battery charging:
All mic preamps off: 900 mA
All mic preamps on: 990 mA
All mic preamps on, 192 kHz sample rate, recording to 2 SD Cards: 1.13 A
All mic preamps on, 192 kHz sample rate, recording to 2 SD Cards, Dante enabled: 1.38 A
Intelligent power-down of unused mic preamps and other internal circuits
Smart Battery telemetry supported via DC Input

Environmental
Operating: -20° C to 60° C, 0 to 90% relative humidity (non-condensing)
Storage: -40° C to 85° C
Dimensions (H x W x D)
5.1 cm x 24.5 cm x 18.5 cm
2.0 in. x 10.0 in. x 7.3 in

Weight
4.0 lbs (unpackaged, without batteries)
1.83 kg (unpackaged, without batteries)

FCC & ISED Compliance Statements

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the equipment.

This device contains transmitter module FCC ID: XF6-M7DB6
This device contains transmitter module IC: 8407A-M7DB6

FCC Interference Statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

—Reorient or relocate the receiving antenna.
—Increase the separation between the equipment and receiver.
—Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
—Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

FCC & ISED User Statement

This device complies with FCC and ISED RF exposure limits for general population / uncontrolled environments.

Cet appareil est conforme à la norme FCC et ISED les limites d'exposition pour la population générale / l'exposition incontrôlée.

A separation distance of at least 20cm must be maintained between the antenna and all persons. This device must not be co-located with any other antenna or transmitter.

This device (containing FCC ID: XF6-M7DB6, IC: 8407A-M7DB6) has been approved to operate with the antenna type listed below:

Model: GW.71.5153	Type: 2.4/5.8GHz Dipole Antenna
Manufacturer: Taoglas	Max. Gain: 3.8dBi (2.4GHz), 5.5dBi (5.8GHz)

No change to the antenna type is permitted. Any change to the antenna could result in the device exceeding the RF exposure requirements and void the user's authority to operate the device.

This Device complies with Industry Canada License-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions: 1) this device may not cause interference, and 2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Cet appareil est conforme avec Industrie Canada, exempts de licence standard RSS (s). Son fonctionnement est soumis aux deux conditions suivantes: 1) ce dispositif ne peut pas causer d'interférences, et 2) ce dispositif doit accepter toute interférence, y compris les interférences qui peuvent causer un mauvais fonctionnement de l'appareil.

Incorrect use of batteries poses a danger of explosion. Replace only with the same or equivalent type. Properly recycle batteries. Do not crush, disassemble, incinerate, dispose in a fire or expose batteries to high temperatures.

SOUND DEVICES
Post Office Box 576
E7556 State Rd. 23 and 33
Reedsburg, Wisconsin 53959 USA

support@sounddevices.com

+1 608.524.0625 main
+1 608.524.0655 fax
800.505.0625 toll free

www.sounddevices.com